

ほ

ほあしぱり【名詞】 1) 船の帆に風を一杯受けた状態
帆足縛りか。2) 転じて身動きの出来ない様。(志
(布施田)) [会話] 1) ホアシバリ言うて ほお
(帆) ななあ (が)、風で一杯ん (に) なって、ぼん
とふくろで (膨らんで) こや ホアシバリ やなあ
(だ)、ホアシバリ張ったなあ言うてなあ。

ほい【感動詞】 1) 挨拶の言葉 ほい 2) 物を人に差
し出す時の言葉 それ ほい [会話] 1) ホイ言うて
なあ、今日はとか言うよおなもんやなあ (ものです)、
挨拶やなあ (です)。おい、何処い (へ) 行くんど
(行くのですか) 言うよおな事や (です)。2) 人に物
やる時も ホイ言うてやるもんなあ (あげます)、こ
やまあ (これは) ちよいと (少し) やけど (だが) 言
うて、やんのかいなあ (やるのでしょうか)。1) 返事
する時も ホイ言うて はい 言わんとなあ (言わず
に) そげな (そんな) 人な (が) おるなあ (居ます)。
男の人 らな (が) よお (よく) ホイ言うのは使うよお
ななあ (です)。女は あんまり (あまり) 使わせんけ
ど (使わないが)。

ほい 捨てる 幼児語 (志 (布施田)) [会話] ほった
れ (捨ててしまえ) 言うのを、ポイ シタレ (してや
れ) 子供らん (に) 言うの ななあ (に)、まあ こや
(これは) ポイシタレ 言うてなあ。

ほいくさばいくさ 不平不満を言う事 絶えず小言を言
う事 (志 (布施田)) [会話] ポイクサ、ポイクサと
なんやら (なにか) 口でぼえぼえと、あれがわり (悪
るい)、これがわり 言うて ばやいとる (ている)
人な (が) 有るやんない (有るでしょう)、それを、
ポイクサ、ポイクサ言う (のです) ポイクサ ポイ
クサと いつな (何時が) たつても (経っても) あえ
な (あんな) 事ばっか (ばかり) 言うて、不平言う ん
やかなあ (のだろおか)、言うたよおな事 ばっか (ば
かり) ポイクサ言う (とる) (言っている) 人な (が) お
るわな (居ます)。

ほいしたれ 捨ててしまえ。捨てなさい。幼児語 ほい
参照

ほいする【他サ変】 捨てる 幼児語 [会話] ほったる
(捨てる) 言う事やなあ (です)、ポオシタレ (して
やれ) 言うたり ポイシタレ 言うたり、子供らに言
う (のです)。ポオシタレ 言うてな。ポイスル言
う時は 自分で捨てる。ポオシタレ 言うのは お前

な (が) ほったれ (捨てよ) 言うのやなあ (です)。

ほいせえ。ほいせんかれ 捨てなさい 幼児語 [会話]
ほったらんかれ (捨てなさい) 言うのを、ポイ セン
カレ言うて。ほい せえまあ (しなさい) 言うたり、
ほい したれまあ (しなさい) そや (それは) 言うた
りなあ。

ほいた 干した。乾かした。(志)

ほいたくられた 追い回された。

ほいたくる 追い回す。追いたくる。(員)

ほいたら【接続詞】 そしたら そうしたら (志、員、鈴
市、一、張、度、北、尾) [会話] そしたら言うのを
ホヒタラ言う人 な (が) 有るなあ (有ります)、ホイ
タラ言う人と、ホイダラ言うて濁る人と、言葉しゃき
しゃき、言わん人 な (が) ホイタラやとか (だとか)
ホイダラやとか 言うんやろなあ (言うのでしょうか)。

ほいだら【接続詞】 そしたら ほいだらに同じ (度、北、
南)

ほいて【接続詞】 そうして そして それで (志、鳥
(加茂)、桑郡、三、鈴市、鈴郡、安、一、度、伊、
北、尾) [会話] そして言うのを ホイテ言うてなあ。

ほいで【接続詞】 それで (志)

ほいでも【接続詞】 それでも (志、鳥 (加茂)、鈴郡、
一、久、松、度、伊、北、尾)

ほいと【名詞】 陪堂 乞食 (一)

ほいない【本意無】【形容詞】 きわどい 自分の意志に
反して不本意で有る。ほい ほんい 本意 古くは
ほいとも 本来の意図や気持 本当の考え もとから
の気持 考え 本当の意味 (志 (布施田)、上、阿)
[会話] ホイナイ事で うちやったんねよお (壊して
しまうのだ)、ホイナイ命 捨てた たら (とか) 言う
て。なんやかや うちやったたり、やったたりすると、
魚でも釣った けど (けれど) ホイナイ とこい (所へ)
来て やったたよお (逃がした) 言うて きわどい事を
ホイナイ事。 なんか (なにか) 大事の もん (物) を
壊したりすると ホイナイ事 したよお (しました) 言
うて、大事の事 仕損じたと (てやると) ホイナイ
事や (だ) 言うて。

ほいほい 可愛がる 丁寧にあつかう ふいふいするに
同じ。ファイ、放と関係有るか。(南) [会話] ホ
イホイして言うて、ちょおほいにする事 なあ (です)。
ホイホイして育てた もんで (ので)、甘まやかして

(甘へさせて) 言う事。甘やかしたりすんの (するのを) ホイホイして育てとるもんで (て居るので) 言うて、あんまり (あまり) 大事ん (に) 過ぎる事ホイホイする言うて。ホイホイすると、ちょおはいに言うて なんでも 物でも なえもん (苗物) 育てんのおでも (てるのでも) 大事ん (に) して育てんの (育てるのを) ちょおはいや言うて。

ほいほい【名詞】 海女作業。ほおほお参照

ほいほい【副詞】 不平 不満などをつぶやくさま [会話] ぼやいとんのをなあ (ているのを)、口で独り言言うて、小言ばっか (ばかり) 言うとる (言っている) 人をな、不足 (不平) 言うて しとる (している) 人をな ボイボイ言うて ぼやくのを ボイボイ言うて 文句ばっか 言うとる (言っている) 人。

ほいほいする ちゃやほやする 丁寧に扱う (南) [会話] ホイホイスル言うのはなあ、子供やったら (だったら) 物凄可愛がって 大事に大事にしとる (している) 言うのをな (です)、まあ、あの家や (は) ひとらご (一人子) やもんで (なので) ホイホイシトラレ (している) 言うてな、大事にする言う事をな。

ほいほいゆう 丁寧に言う うまく煽てるように言う (員) [会話] ホイホイユウ 言うのは、大事に言う、丁寧に。

ほいほいゆう 不平不満を言う 絶えずぶつくさと小言を言う (志) [会話] ボイボイユウ 言うのも 不平言うとる (言っている) 事やなあ (です)。

ほいらほいら 大変危険なこと 一生懸命 ふいらふいら参照 (志 (布施田)) [会話] 大島へ いとたら (行っていたら) おちかぜ (西からの強風) な (が) して来て ホイラホイラやったよお (だった) 来んのん (来るのに) 言うて、えらかった (大変だった) 言うのなあ。(です)

ほいろ (焙炉)【名詞】 1) 炉火にかざし、茶などを焙じ 又物を乾かすための用具 2) 製茶に用いる乾燥炉 [会話] 1、2) 昔や (は) ホイロ言うて、赤土で粘って、くどにして そこい (其処へ) ひい (火) 入れといて (ておいて)、そこい (其処へ) 鉄板みたいなの (のようなのを) しといて (しておいて) そいんしといて (そんなにしておいて) 茶をすんの (するのです・作るのです)。

ぼえくさぼえくさ【副詞】 不平不満を言う事 絶えず小言を言う事 ぼいくさぼいくさに同じ [会話] ボエクサ ボエクサと、なんやら (なにか) 口で ぼえぼえと あれがわり (悪るい) これがわり 言うて、ぼ

やいとる (ている) 人な (が) 有るやんない (有るでしょう)、それを ボエクサ ボエクサ言うの (のです)。

ほえたくる (吠哮)【自ラ五】 大声でどなり続ける 大声でさかんに吠える [会話] 犬な (が) 吠ん (る) のも ホエタクル言うしなあ、物凄い (く) 怒って大きな声で おめきあるく (叫ぶ) 人な (が) 有るやんかな (有ります)、人、叱ったりして そお言う時も おおた あの人ん (に) ホエタクラレタンヨオ (のだ) 言うて、言いまげて (言い負かして) おこすの (よこすの) をなあ、ホエタクルも ホエマクルも一緒や (です) 激しい事やなあ (です)、まあ あの人ん (に) 怒られたねよお (のだ) 言う位ならええん けど (よいのだ)、物凄お (く) 怒られると、まあ、あの人ん ホエタクラレタンヨオ 言うて 大きな声で 怒鳴りつけられる事やなあ (です)。

ほえづら (吠面)【名詞】 1) 泣き面 泣き顔 2) 膨れ顔 [会話] 2) ホエヅラ かいとられ (している) あやれ (あれ) 言うてなあ、ふくれとんのおを (ているのを) 怒って ぶんぶんしたよおな顔をなあ ホエヅラ言うなあ。

ぼえぼえ【副詞】 不平 不満 ぼいくさぼいくさ、ぼえくさぼえくさ参照 [会話] ぼいくさぼいくさ言うのも一緒や (です)、ぼいくさぼいくさ言う人も有るし、ボエボエ言う人も有るしなあ。

ぼえぼえいう だらだらと不平不満を言う ぶつぶつといつまでも小言を言う、愚痴を言う 小言を言う 不平を言う [会話] 親父らな (が) ボエボエイウと、ぐざぐざ (ぶつぶつ) 言うて、あの親父や (は) 言うて、ボエボエイウと よけ (あまり) ぐざぐざ言うな まあ (な) 言うて、あんまり (あまり) 小言言うと。

ほえまくられた 激しく叱られた。ほえたくる参照 [会話] あの人ん (に) ホエマクラレタンヨオ (のだ) 言うて、大きな声で怒鳴りつけられる事やなあ。

ほえまくる 大声で怒鳴り続ける。大声で盛に吠える。ほえたくる参照

ほえる (吠)【自ア下一】 1) 叱るようにながみがみ言う 大声を出す どのる ののしる (伊、南) 2) 犬や獣が大声で鳴く 3) 陰茎が勃起する (志 (鶴方)、鳥、上、阿) [会話] 2) 犬がホエル。子供らでも、家で ばいけん (権力) ふつと (ふると) わがかどで ホエンいんなし (我門で吠えない犬は無い) 言うて、家で わがと (自分) ばっか (ばかり) ばいけん 振って 偉らそおん (相に) すると、我門でホエテ あやれ

(あれ) 言うて、自分とこ (所) では 偉らそおに しとるけど (して居るが) ほか (他) いては (行つては) しゅつとしとる時に 内弁慶しとる時ん (に) 我門でホエんいん 無し言うて。家ん (に) おると、おっちゃく (横着) したり 悪口言うたりすんねけど (するのだが) 他い (へ) 行くと、しゅとしとると。
1) 怒る時も 使う時も有るけど (有るが)、3) 男のもんな (物が 陰茎が) おっきなると (大きくなると) ホエル言う (言います)。ホエル言うて おめきも (叫びも) なんも (何も) しやせんけど (しないが) おこつて来ると (怒張すると) ホエル言うんなあ (言います)。ちんぼ (陰茎) ホヤシテ (勃起させて)。犬な (が) ホエル。ちんぼなホエル、ホエル言うとおとしよおんなあ (怖いようです)。怒こる言うな (のは) まだ ええけど (よいが) ホヤカシトル (ほえさせて居ると) 言うとおべつんも (特に) おとし (怖い)。

ほお (帆) 【名詞】 帆掛けに張り上げて風をふくませて船を進ませる船具 木綿布 むしろなどで作る (員、三、鈴市、鈴郡、一、松、多、阿、張、名、度、伊、北、尾) [会話] 舟のホオまく (上げる)、あやあれ (あれ) ホオまいて、やほ (弼帆 補助帆) も まいとられ (上げている) 言うやんかい (言います)、おもぼ (主帆) と、やほと、有るやんかな (有ります) やほは ちっちゃおて (小さくて) ちょいと (少しの) した風の時は やほだけで行くしなあ (行きます)、風な (が) よお (よく) 吹いて しとると (していると) おもぼも まいて (あげて) そらかせ (走れ) 言うて、おもぼと、やほと まく時な (が) 有るわな (有ります)。真ん中の方い (へ) すんのな (するのが) おもぼで、表 (船首) の方い (へ) すんのな (するのが) やほ。

ほお 【名詞】 穂、イネ科の植物の花序、長い茎がぬき出てその先端周辺部に花、果実などが密集してついたもの。(員、三、鈴市、鈴郡、一、松、多、阿、張、名、度、伊、北、尾) [会話] ホオな (が) 出て来た、麦のホオな (が) 出て来た、稲のホオな (が) 出て来たとか。

ほお (ほう、ほう) (方) 【名詞】 方角 方向 その方面 [会話] あっちゃ (あちら) のホオい (へ) 行けてやら (とか)、あっちゃのホオい いたれ (行つた) 言うのなあ (のです)、方向さして 言うのを ホオや (だ) 言うて。わしら (私) 小母さんな (の) ホオに おるわい (居ます) 言うたや (言ったら)、わしや

(私は) そしたら (そおしたら) あんたな (の) ホオ行こかいね (行きましょうか) 言うのも ホオ 使うし (使います)。

ほお (ほほ) (頬) 【名詞】 顔の側面目の下で鼻と口のあたりから耳までの部分 (上、阿、北、南) [会話] ホオな (が) 膨れとる (ている) やんか (でないか) 言うて、はあ (歯) な (が) やめんねえか (痛むのか) 言うて、ほつぺた (頬) も ホオや 言うて。

ほお (ほう、はふ) 【自動】 這う はうの訛 ハフ (延) に通ず (大言海) (上、阿、南) [会話] かみのい (亀) こおすりんきて (産卵に来て)、浜からホオテ来て (這つて来て) 卵へんのな (産むのが) こおすりん (に) あがつた (上陸した) 言うて。

ほお 【感動詞】 1) 鳥獸を追う時の言葉 2) 火事をさける時の語 [会話] 1) シイホオ言うて、雀の番 (見張り) しいん (しに) 行くと ホオホオ言うて、2) そして、火事な (が) する時ん (に) 火の粉追うの なあ (拂うのも)、大きな雀でホオホオ言うてなあ、おいおったね (追い拂つて居たのです)。ものを追う時に ホオホオ言うて。雀追うの、鴉追うの、ホオホオ言うて。きんこ (芋の煮切干し) や (とか) だんがられ (芋団子) こがん (四斗樽) 何杯言うてこさえんねやんかな (作るのです) そすと それ、畑のぬくたい (暖かい) とこ (所) 干しん (に) 行くんやんかな (行くのです) そすと、鴉な (が) くんで (来るので) がっこも (学校も) 休みあるいて 鴉の番 (見張り) に 行きおったの、(行つて居たのです) ホオホオ言うて おおとり おったの (追っていたのです)。

ほお (ぼう) 【名詞】 棒 細長くて手に持って振り回す事の出来る程度の木 [会話] あしこ (あすこ) に、ボオな (が) 有つて 撲つたれ (てやれ) あのボオで言うて。ボオ 飲んだよおな こおやなあ (子だ) 曲らんで言うて、気な (が) 利かんで (利かなくて) 立つてばっか (ばかり) おって (居て) 仕事なんもせん (少しもしない) ぼんやり立とるとなあ (ていると)、おおた ボオ 飲んどんねなあ (でいるのだ) あや (彼は) まあ言うて。

ほおいはい 【名詞】 海女が潜って出て来る時の呼吸

ぼおうるめ (ぼううるめ) 【名詞】 1) うるめ鰯の大きいもの (志) 2) 形が似ているところから陰茎 [会話] 2) 男の人ら (が) 道具 (性器) ボオウルメ言うやんかい (言います)、男の人らな 道具 干しとると (出して居ると)、あやあれ (あれ) ボオウルメ放

り出して言うて、頭な (が) 丸くとおして (丸くて)
よお (よく) 似るともんで (ので)。

ほおおる (ぼうおる) 棒折る 1) 途中で投げ出す 挫折する 思いあきらめる (志 (布施田)、鳥 (鳥羽))
2) 失敗する 事業に失敗して大損する 破産する (鳥) [会話] 2) ボオ オッタヨオ (折りました) 言うて、商売、ボオオッテ 倒産すると よお言うんなあ (よく言います)。ボオ オッタンテナイ (折ったそうだ) あの家や (は) 言うて、あきらめる 倒産する事を。

ほおおろす (ほうおろす) 帆を下げる。

ほおか (ほうか) そうか そうですか (志 (磯部、甲賀)、鳥 (浦村)、員、安、一、北、南)

ほおか 【名詞】 南瓜 (志 (志島、畔名、波切、船越、片田、布施田、立神、名田、甲賀、国府)、鳥) [会話] ボオカ言うな (のは)、南瓜も、ボオカ言う人な (が) 有るしなあ (有ります)。

ほおかい (方塊) 【名詞】 海底に沈める岩石。コンクリートの塊。

ほおかい 【感嘆詞】 そうですか (志、北)

ほおかな 【感嘆詞】 そうですか (志、鳥、松、度、伊、北、尾)

ほおき (ほうき、はうき) 【名詞】 ごみ ほこりなどを掃き寄せて、掃除する道具 ハハキの音便 (大言海) ハハキ (羽掃) の義 ハバウキ (羽箒) を之とする (大言海) [会話] 竹ホオキや (とか)、しゅうろ (棕櫚) ホオキや (だ) 言うて、しゅうろの はあ (葉) で ホオキも、じっばん (立派に) こさえおった (作りました)。とびきながらも とびき、みい (実) こいたたのおでなあ (しごいてしまったので) こさえおった、納屋 掃いたり 外 掃くのんなあ (に) とびきがらで こさえおった。

ほおきぎ (ほうきぎ、はうきぎ) (箒木) 【名詞】 アカザ科の一年草 高さ1~1.5m円錐形によく小枝を出す。葉は線状披針形で三脈あり、長さ約5cm、雄雌異花。夏、葉腋に淡緑色の細花を穂状につける。果実は扁平な球状で約2mm。ほうきぐさの別名。(志) [会話] ホオキギ言うのな (が) 有るやんかい (有ります)。あれで ともと (庭) 掃くのん (に) 作りおったけど (作って居たが)、今しや (今は) まあ (もう) あんなの作つとらへんなあ (作って居ません)。あの (あれの) おん (雄) は はざんけど (いけないが) めん (雌) をすると ほっそおて (細くて) どいらいええね (大変よいのです) 掃くのん (に)。昔や (は) 畑

のくる (境界) らい (のような所に) ちよいちよいつ (少し) ひとばか 家で使うだけえつ (だけづつ) しよおったけど (して居たが)、今しや しやせんなあ (しません)。ひとばか言うのは ちよいと (少し) の事を。ホオキギは丸やなしん (でなくて) 大きい (く) 広がってするけど (が)、あんまり (あまり) おっきいと (大きいと)、はざんもんで (いけないので)、下の方を かいたるけど (切ってやるが)、かいて、ちっさい (小さい) 箒こさえたりなあ (作りました)。ぼてん (生簀) みたよん (のように) よお (よく) つくると、そやけど (しかし) あんまり おっきいもんで (ので) ふたあつ (二ヶ) んも (にも) せな (しなければ) おっきすぎて (大き過ぎて)。

ほおきぐさ (ほうきぐさ、はうきぐさ) (箒草) 【名詞】

ほおきぎに同じ (志 (鶴方)、鳥 (菅島)、一、飯、度、北、尾)

ほおきばし (ほうきばし はうきばし) (箒星) 【名詞】

彗星 流星 [会話] 戦争な (が) 有ると、ホオキボシな (が) 出る言うて、ほおきみたよん (のように) 出んの (出るのを) みよおったんなあ (見ました)。

ほおぐ (ほうぐ) (反故) 【名詞】 ほご 書画などで書き損んじて不用になった紙 不用の物 いらない物 無効 取り消し (志 (布施田)、三、鈴市、鈴郡、一、上、阿、張、北) [会話] なんもかも (何も彼も) ホオグん (に) して言うて、駄目ん (に) したると (してやると) 言うやんかい (言うのです)。失敗したると (してやると)。習字の稽古して、それを潰すやんない (でしょう) それをホオグや (だ) 言うて、その如くに、他のもん (物) でも ホオグみたよななあ (のようだ) 言うて、失敗したと ホオグん (に) したたよお (してしまった) 言うて。

ほおぐい (ぼうぐい、ぼうぐひ) (棒杭) 【名詞】 杭 棒

状の杭 [会話] ボオグイ立てえ (なさい) 言うてなあ 川やどけい (などに) 水、防ぐのにおに (のに) 立ておった (立てて居ました)。土俵 せぐのなあ (防ぎ止めるのです)、ボオグイで せんで (防いで)、じっきん (すぐに) 腐ってくもんでなあ (て行くので)、ひい (火) で 焼いといて (ておいて) 打ち込むと腐ってかせんねけど (行かないのだが) きい (木) そんなり (そのまま) や (だ) 言うて 二年も持たせんなあ (持ちません)、一年で腐ってくけど (て行くが) 焼くとなあ 何年でも持つの (のです)。杭の事をボオグイ 川い (へ) 打つのを ボオグイ言うの (のです)、普通の垣したりすんな (するのは) 杭、打つと

け(ておけ)言うだけやけど(だが)、堤防の代りん
(に)する 水 受けん(に) すんのんなあ(するの
に) 土俵積むわい(積みます)、その時んなあ(に)、
杭、打ち込むのんなあ(のに) ボオグイ打ち込め言う
てなあ。

ほおけ(ほうけ)(惚)【名詞】 1) 馬鹿 あほう 2)
気抜けしていること(北) 3) 熟しすぎる事。[会話]
₃₎ ホオケてた(て行った)、あかろで(熟して) ホオ
ケてた 言うたりなあ。麦な(が) あかろで ホオケ
てた 言うたり、とびきも、粟も 皆 あかろで ホ
オケとられ(ている) 言うてな。あからみ(熟して)
過ぎてくの(て行くのを)、₂₎ 人間でもホオケとる
(ている)、ホオケとんねど(ているのだ) あや(彼
は) まあ言うてなあ、ちよいと(少し) ぼやんと し
とるとな(している)。ホオケル前は とぼけと
る(ている) 言うて。とぼけたよん(ように) したる
なあ言うて ま ホオケル近くやなあ(です)、うと
おみたよん(気の抜けたように) したられ あや(彼
は) まあ ホオケてくど(ていくぞ) 言うてなあ。ホ
オケとる(ている) 人は、気な(が) 抜けたよおなと
こな(所が) 有るもんなあ(有ります)。

ほおけた 1) 正気を失った 呆けた 2) 果実などが
成熟し過ぎて美味を失なうこと 時期を過ぎる
3) 途方もない 馬鹿げた [会話] ₂₎ ホオケタ言う
時は 物が 皆 あからみ(熟し) 過ぎた言うのも言
うし、₁₎ にげ(人間) な(が) ホオケてたのも(てい
ったのも)、あや(彼は) ホオケタなあ言うてなあ。
阿呆みたよな(のような) 事 言うて ホオケタよお
な事言うな 言うて、とぼけた様な事言うとなあ、ほ
おけとやせんのか(ていないのか) あや(彼は) 言う
てなあ。

ほおけだま【名詞】 馬鹿(鳥(菅島)) [会話] えごつ
と(完全に) ほおけとんの(を) (ているのを)、ホオケ
ダマや(だ) 言うね(言うのです)、ホオケダマよ
(奴) 言うてなあ、にげ(人間) な(が) ぼさんとし
とる(している) もん(者) をなあ、ホオケダマやれ
(だ) あや(彼は) 言うてなあ。なん(なに) しよお
とも(しようとも) せんと(せず) うとんぼ みた
よんなあ(のように) しておる人な(が) 有るわい
(有ります)、ビールの気の抜けたよん(ように) う
とんば(馬鹿者め) 言うて、ホオケダマやれ(だ) 言
うて、ほおけとらせんねけど(ていないのだが) 気な
(が) のおて(無くて) ぼさんとしとると(している
と)、ホオケダマやなあ(だ) 言うてなあ。

ほおけとられ 1) 呆けている 2) 果実が熟し過ぎて
いる

ほおけると 1) 呆けて居る、毫碌している ほおける
参照(志(立神)) 2) 馬鹿だ 3) 果実が熟し過ぎ
ている

ほおける(ほおける、ほほける)【他力下】 1) すつ
とぼける とぼける 知らぬ顔をする(志) 2) 穀類
果実が熟し過ぎて居る 3) 夢中になって居る ふけ
る 4) 頭が変になる もうろくする(志(浜島、布
施田)、尾、北、南) [会話] ₁₎ ホオケテテ(て行っ
て) 言うて、とぼけた事言うて、ちよいと(少し) ま
ちごた(間違った) 事言うて、ホオケ(ぼけ) とんの
ん(て居るのに) したんね(してやるのです)、ホオ
ケトンネ(ぼけて居る) 言うて、ほんとん(本当に)
ホオケトンのおと(て居る時と)。とぼけて 自分と
(が) ホオケタよおな格好しとる時と(して居る時
と)。ぼけとんね(て居るのだ) 言うて そいな時や
(そんな時は) ぼけつことる(使って居る) 言うて、
すら しとんのおは(して居るのは)。ほんとん ホ
オケトンナ(て居るのは) じよおつく(いつも) おん
なし(同じ) よおな事言うけど(が) たまん(時とし
て) 言うな(のは) あや(あれば) ぼけつことんねど
(使って居るのだ) 言うて、すらしとて(して居て)
ホオケタ真似しとると(して居ると) あや(彼は) ぼ
けつことんねよつてん(使って居るのだから) 言うて。
すらしとる ますらしとる。人な(が) なつと言うて
も(なんとと言っても) 平気な顔して わしや(私は)
なんも(何も) 言わらった(言わなかった) よおな顔
しとんのおを(して居るのを) すらしとる言うの(の
です) 自分で言うておつて(言って居ながら)。ます
らや(だ) 言うて、ますらしとる。₃₎ 遊びホオケトル
言うて、あそで(遊んで) ばつか(ばかり) おると
遊んで昼も家い(へ) 帰らんと(ずに) 昼飯やてのん
(だと言うのに) きやせんねない(来ないのだ) 俺家
のかあ(子供は) 遊びホオケトンネナア(て居るの
だ) 言うて、昼ん(に) なつても来やへんねやんかい
(来ないのです) 遊びん(に) のつとて(乗って居
て) それを遊びホオケテ 言うて。遊びん(に) 乗っ
とる言うのは 夢中になつとる。₂₎ とびき(ときび)
や、粟やらのみい(実) が あかろで(あからんで熟
して) ホオケトル言うて、あかろであかろで(熟し過
ぎて) わがとな(自分が) 思うのより よけ(沢山)
あかろどると(熟している) ホオケトル(て居る)
言うの(のです)。ちよいと はなじる位や(だ) 言

うと あからで来た言うねけど (言うのだが) あから
みな (が) すんでくと (過ぎて行くと) おってはいか
せんねけど (落ちてはいかないのだが) 落ちる瞬間に、
ほおけとる言うて。はなじろ言うな (のは) ちょいと
(少し) 色気持って来たとこなあ (ところです)。

ほおこ (ほうこ) 【名詞】 ほうこう 他人の家に
雇われて勤めること ほうこうの末尾母音の省略。

(員、鈴市、鈴郡、度、伊、北) [会話] 奉公に行け
言うて、女中に行ったり、お手伝いに行く言うのを、
ホオコに行け言うてなあ、昔や (は) ホオコに行てこ
な (来なければ) はざんわれ (駄目だ)、ホオコに行
て、しゅぎよお (修業) も、してこな 言うてなあ。
奉公言うて後へ“お” 付けんと (付けづに) ホオコや
(だ) 言うて、ホオコニンやとた (雇った) てやら
(とか) 言うて。

ほおこにん (ほうこにん) 【名詞】 奉公人 使用人 人
に雇われて居る人 [会話] ホオコニン言うのは 雇
われた人を、働く人、小僧に出しても ほおこん
(に) やった おらげ (俺家) のやら (奴は) 言うて
な。しとばか (すこしばかり)、世間の飯もくてこな
(食べて来なければ) はざん (いけない) よって (か
ら) 奉公に出したたね (出してやったのだ) 言うてな
あ。

ほおし (ぼうし) (ぼうし) 【名詞】 稲むら、海藻などを
積み上げた物 又その上に覆せる稲藁で編んだ物 茅
茨 ちがやといばら、又それで葺く屋根から出た語か。
(志、安、南、熊) [会話] すすぎ すんのを (する
のを)。藁やとか (だとか)、麦藁ボオシ、積んだよお
ななあ (ようだ) 言うて、もやがとると (盛り上が
って居ると) ボオシ積んだよおななあ 言うて。そし
て (そおして) 積んどいて (で置いて) その上い
(へ) かぶせるのおを (のを) ボオシや (と) 言うん
やんかい (言うのです)。荒布 積んどいて せいの
かぶせとんのを (覆せて居るのを) ボオシや (です)。
小麦がら (殻) の なあがいの (長い) のおで (ので)
ゆわえといて (結んでおいて) すえ (末端) い (へ)
迄 組んで あと広げて かぶせんのなあ (覆せるの
を) ボオシ。

ほおしえんか。ほおしえんこ 【名詞】 鳳仙花 ほおせん
こ参照 (鳥 (答志))

ほおしたれ 捨ててやれ。捨てなさい。幼児語 ぼいす
参照

ほおじま (ぼうじま) 【名詞】 着物の模様 縦の縞模様
(松) [会話] ボオジマ言うな (のは) すつとした縞。

縞のきもん (着物) なあ (です)。ぐちゃぐちゃしと
らんのなあ (していないのです)、縞のきもん な
(が) 有りおって (有って) ボオジマ着てあやれ (あ
れ) 言うて、そんな (それが) 緋ん (に) なつとると
(なっていると) しまがすりや (だ) 言うて、しまが
すりのきもんも よお着やんと (着れなくて)、ボオ
ジマばつか (ばかり) 着て言うて ボオジマは安いし
なあ、ちょいと (少し) 緋ん (に) になると たっかい
ん (高いの) やんかい (です)。

ほおしよ (ほうしよ) 【名詞】 奉書 奉書紙の略 純白
の高級和紙

ほおじょおさん (ほうぢやうさん) 方丈 【名詞】 1) 禅
宗の寺の住職 2) 曹洞宗の僧 3) 寺の住職 (鈴市、
安)

ほおじる (ほうじる、ほうじる) 【他ザ上ー】 火であぶ
って、からからになる迄炒る [会話] ちゃあ (茶)
ホオジル、ちゃあ (茶) ホオジタ よおん (ように)
なつてたれ (なつていった) まあ 風な (が) 吹いて
言うてな。まぜ (南) の風な (が) 吹くと その後で
雨な (が) 降ったると (てやると) ええんけど (よい
のだが) 潮風やもんでなあ (なので)、菜っ葉やだい
こ (大根) な (が) こがれてくね (焦げて行くので
す) おおたまあ なあ (菜) も、だいこ (大根) も、
ちゃあ (茶) ホオジタよん (ように) なつてたない
(なつていった)。昔や (は) 家で お茶 こしらえ
おったもんでなあ (作って居たので) ちゃあ (茶) を
ホオジトケ (ておけ) 言うて、焙烙ですとどいらい
(大変) ええ (よい) 匂な (が) して、焙烙へ入れて
なあ、ちょいと (少し) しと 打つてなあ (水分与え
て) そんな (それが) からつと、じっぱん (立派に)
なる迄 てえ (手) で、混ぜてすると ええ 匂な
してくんのなあ (来るのです) それせんと (湿気を与
えずに) そんなり (そのまま) すると、こがらかした
てなあ (焦してしまつて) こがれくさいね (焦げくさ
いのです)。

ほおじろ (頬白) 【名詞】 鳥の名称 ホオジロ科の小鳥
全長 16.5 cm 背面は栗色で黒色縦斑があり、腰と腹面
は淡赤褐色、その名は目の上と口から頬にかけて走る
二白斑が目立つことによる。ホホジロ (頬白) の音便
(大言海) [会話] 鳥やんかい (です)、ほじろ言な
(のは)。ほじろ言うの、ホオジロ言わんと (言わず
に)。ほじろ言うな (のは) 鳥で 口な (が) ちっちゃ
よおて (小さくて)。口な (が) ちっちゃいと、ほじ
ろの口みたいな (のようだ) 言うやんかい (言いま

す)。

ホオズ【名詞】 陰莖(上、阿)

ほおず【名詞】 ほず ほず ほぞ(臍) 1) 野菜 果実などのへた(志(神明、志島、国府、安乗、甲賀)、鳥(国崎)) 2) 物の中心の高い所(志(布施田)) 3) 木を組合す時の突起。[会話] 1) ホオズな(が)もじけた言うて。くだもん(果物)でも、くさ(房)な(が)ついとると(付いて居ると)あかろで(熟して)ホオズな(が)もじけた(取れた)言うて、あかろで(熟して)来ると ホオズな(が)ぼろんとしてくやんかい(して行きます)。にげ(人間)でも色気ずいて来ると あやあれまあ(あれ)ホオズなもじけてくられ(来る)色気づいて来て言うて。2) 舟でもホオズ言うて 穴な(が)掘って有って それい(へ)入れんのを(入れるのを)、ホオズ、はめたか言うて、ろおぐい(櫓杭)の おきざん(に)はめんのを(はめるのを)、ホオズな(が)はずれてかんよおん(はずれて行かないように)えごと(完全に)はめとけよお(はめておきなさい)言うて。櫓 漕ぐ、あれを ホオズ言うやんかい(言います)。3) 先の尖って何か物が入とる(て居る)ところ(所)ホオズや(だ)言うて、ホオズにはめといたか(入れておいたが)ホオズな(が)へしよれてた(折れていった)とか言うて。

ほおず(ぼうず、ぼうず)【名詞】 1) 僧をのしって言う語 2) 漁の全くないこと 坊主は毛が無いので、毛と気(気配)を掛けた。[会話] 1) ボオズな(が)屏風へ、ボオズ、を描いた言うて。ボオズ、きんからかん山道通れ、破れたこども(衣)行きも帰りも便利だ言うて、おっさん(和尚さん)。2) 今日はボオズやったよお(だった)言うて、なんも(少しも)漁な(が)無いとなあ、不漁して来ると。

ほおず(ぼうず、ぼうず)【名詞】 男の子(桑市、三、一、度、伊)

ほおずあたま【名詞】 髪をすっかり短く切った頭

ほおずき(ほぼづき)【名詞】 1) 法螺の卵 2) 酸漿ナス科の多年草。ホオズキの音便。類突の義(大言海)(志、鳥、桑郡、三、四、鈴市、伊) [会話] 鳴らすホオズキ、1) 海にも有るし、2) 畑にもホオズキ、盆に供えんのおに(るのに)ホオズキ 作りおったやんかい(作っていたで有りませんか)。作る言うてまあ ひとらばえ(自然生え)みたよんして(のようにして)有りおった(有りました)。1) 海のホオズキ言

うと 法螺貝のこお(仔)でなあ、タンバホオズキにナギナタホオズキに ムギワラホオズキ 言うのな有ってなあ、ムギワラホオズキ言うな(のは)ちっちゃあいん(小さい)やんかな(のです)、長刀ホオズキは ほっそおてなあ(細くて)、長刀の形ん(に)なっとんね(なっているのです)、タンバホオズキはだいぶ(大分)ひいろおてな(広くて)よお(よく)鳴ってなあ ちそ(紫蘇)で染めて売とんね(ているのです)。

ぼおずだたみ(ぼうずだだみ、ぼうずだたみ)【名詞】

縁のない畳(三、上、阿) [会話] ボオズダタミや言うて、へり付きと やつこと言うて、へり付きは上品やけど 持ちな(が)わりし(悪い)、やつこは いかつうて(強くて)ええね(よいのです)、そして床の間へ敷くのを高麗べり。

ホオスピイ。ホオスピン フルスピードの転 船を全速力で走らす事、又その速度 [会話] ホオスピンでやって来た言うて、速いのおを(のを)スピードや(と)言わんと(言わずに)あんまり(あまり)速いと、ホオスピンでやって来た言うて、舟でもどいらい(大変)はよ(速く)来ると よお言うやんかい。ホオスピンかけて やって来たよお(走って来た)言うて 速い事を言うんやろなあ(言うのでしょうか)。

ぼおずまくら(ぼうずまくら)【名詞】 両端をくくって円筒形にした布製の枕 主として男性用 くり枕(松) [会話] まるくとおしとして(丸くしておいて)詰めて、カバ(カバー)かぶしとして(かぶらせておいて)あんの(あるのを)ボオズマクラや言うて。今しや(今は)あいな(あんな)ボオズマクラ無いなあ(有りません)今しや四角な ぺたんとなあ(です)。昔や(は)ふなぞこ枕言うて きい(木)ののおを(のを)花魁な(が)するよおな あいなの(あんなのを)しよおったけど(して居ましたが)。昔や みつびん(三つ髻)結うもんでなあ(ので)。爺やん(さん)や、婆やんな(が)箱枕しよおったけど(して居たが)わしら(私は)あいなの(あんなのを)したら よお寝やんわい(寝れません)、あいなの 寝たら じっきん(すぐに)やつからかしたて(倒してしまつて)、ボオズマクラなら いくら寝返りしても かえってかせんけど(引っくり返らないが)枕箱 じっきん(すぐに)かいからかしたんね(倒してしまうのです)、じっきん やつからかしたて(てやつて)。やつからかすは ひっくり返へす。みつびん言うのは 両方と上と 丸髷結うたり(結髪し

たり) 島田結うたりすの (するのを) みつびん言う (言うのです)。

ぼおずり (ぼうすり) (棒摺) 【名詞】 長い柄のついたブラシ [会話] 舟の底 虫な (が) して (生じて) 来るし、牡蠣な (が) わいて (付いて) して来るもんで (ので) それ ボオズリで、こそげといて (掻き落として) 舟たでる言うて 舟の底 たっからかすの (焚くのです)。

ぼおする 【他サ変】 捨てる 幼児語 ほったる参照 [会話] 子供の時なら そげな (そんな) もな (物) は ボオシタレ 言うなし (言います)。

ぼおせえ 捨てなさい。幼児語

ぼおせき (ぼおせき、ばうせき) 【名詞】 紡績工場の略織り物、糸を作る工場 [会話] ボオセキ行きおったやんかい (行って居って居たではありませんか)、せだ (布施田) の男と、紡績糸は 一度かからん者は無い言うて、せだの男は、おなご (女) をよお (よく) ひっかけおったもんで (て居たので) ボオセキい 十四でがっこ (学校) おりるやんない (卒業するでしょう)、そおすと (そうすると) ボオセキい (に) 皆行きおったね (行って居たのです)。紡績工場の事をボオセキ言うて 東洋紡績言うて 山田の河崎ん (に) どいらい (大きい) のな (が) 有って。

ぼおせきいと (ばうせきいと、ばうせきいと) (紡績糸)

【名詞】 機械で紡いだ糸 (志 (鶴方、神明、志島、国府)、阿) [会話] ボオセキイト言うな (のは) 白糸とも違うなあ (違います)。より (縊り) な (が) よけ (多く) いとんのなあ (有ります)、幾くこも (幾重にも) なつとんの (なつて居るのです) ボオセキイトは、白糸は縊な (が) いとるだけやけど (だけだが)、ボオセキイトはみいこ (三重) に縊って有んのも (有るのも) ふたあこ (二重) で縊って 有んのも有るし (あります)。紡績でスラッピンかけて、インターい (へ) かけて、ドーピングかけて、三つかけたのおな (のが) 白糸で、ボオセキイト言うて まだそれを よんねやろなあ (よるのでしょうか)、あや (あれは) 二重も三重も縊って有るやんかい (有ります) そんだい (その代り) いかつい (強い) けどなあ (けれど)。

ぼおぜん (ほうせん) 【名詞】 穴のあいて居る銭に紐を通し棒状にしたもの [会話] 藁をにほ (二本) のおて (編んで) 尻もむすどいて (結んでおいて) 先から文久銭を刺すと、ボオセン言うて。それを 吠い (へ) 皆 入れて 吠ん (に) なん杯有る言うて あ

んで いっぼ (一本で) で 幾ら言うて、決めてあんねやろなあ (有るのでしょうか)。

ほおせんこ (ほうせんこ) 【名詞】 鳳仙花 ツリフネソウ科の一年草全草柔らかく多汁質で高さ30～60cm、葉は有柄で互生し、披針形で縁に細鋸歯が有る。夏葉腋に不整齐花が二、三個づつ横向きに咲く花は白、桃、赤など絞りや八重咲もある。果実は紡錘形、熟したものに触れると種子を散らす。(志 (志島 鶴方 神明)、鳥 (国崎)、上、阿) [会話] ホオセンコ言うな (のは) 綺麗な花な (が) 咲くやんかい (咲きます)。じっぱな (立派な) 花な (が) 白やてやら (とか) 赤や ピンクん (の) のおな (のが) 咲くやんない (でしょう)。あれの白ばっかんのおを (ばかりののを) 焼酎と漬けとくと (ておくと) かみかい (皮膚の痒いの) に めえじんや (よく効きます)。ホオセンコ言うて それ じっきん (すぐに) 種な (が) 落ちて よお (よく) 咲いとるやんかい (咲いて居ます)。そして (そうして) あれの種を飲むと 骨を立ったの おん (のに) 適面や (です)。傷薬ん (に) なんの (なるのです) 花は、焼酎と漬けとくと (ておくと) なんやかや、虫ん (に) 刺されたおりん (時に) それつけると すぐん (に) 治る。そんだい (その代わり) 白の花やなけな (でなければ) はざん (いけない) 赤花は はざんね (いけないのです)。

ほおそ (ほうそ、ほうそ) (疱疹) 【名詞】 1) 天然痘の俗稱 ほうそうの末尾母音の省略。2) 種痘 (上、名、伊) [会話] ₂) ホオソな (が) ついて言うて、昔や (は) ホオソな (が) つくと あっかい (赤い) てのぐい (手拭) を被りおったね (被って居たのです)。姉さんかぶりん (に) して。ホオソ してもおたや (して貰ったら) つくと、あっかい手拭 被らな (なければ) 言うて、晒をあっかい の (のを) こおて来て (買って来て) ホオソな (が) ついたもん (者) だけ かぶんね (被るのです)。₁) 朝鮮の人は いもくさ (あばた面) な (が) 多いわい (多いのです)、ホオソな (が) よけ (多く) 流行りおったもんで (居たので)。いもくさ言うて 見やせんなあ (見ません) 今日びや (最近) は 昔や (は) きくいし (菊石) や (だ) 言うて、いもくさのにげ (人間) を。きくいし言うな (のは) 珊瑚からあげてくるのおに (のに) 穴な (が) よっけ (沢山) あいとる (て居る) 石な (が) 有るやんない (でしょう)。あれをきくいし言うの (のです)。そやよって (それだから) にげ (人間) の顔も いもくさん (に) なったら あれによお

似とるわい(よく似て居ます)。いもくさな(が)ぶつつな(が)へっこんでしとんの(して居るのが)そやもんで(それで)きくいしや言うの(と言います)あばたを。

ほおそい【形容詞】細い(志(御座)、鳥(国崎)、度、南)

ほおそのあと(ほうそのあと)【名詞】痘痕(張)

ほおた【感嘆詞】ああ[会話]ホオタ こや(此れは) おおごつお(大御馳走) やなあ(だ)

ほおた(はうた) 這った [会話] 這うのをホオタ、ホオテ来たない言うて、たあ(田)ホオタよお言うて提灯、持たんと(持たずに) 行たや(行ったら) くらごおて(暗くて)ホオタよお言うて、昔はよさり(夜)、なんも(なにも)外燈もついとらせんやんない(ついていないでしょう)、めんめん(銘々)の明りも めえやせんやんない(見えないでしょう)、そやもんで(それで)提灯 持たんと(持たずに)行くと 闇の夜ん(に) となるとなあ、おおた くらごおてホオタンよお 言うて よお(よく) 言よおった(言いました)。

ほおだい(ほうだい、はうだい) (放題)【名詞】そのものにまかせるさま。我儘。意のままにする。[会話]ホオダイ言うて あやまあ(彼女は)男しいホオダイで、誰でもだんねえね(構わないのだ) てやら(とか)言うて、浮気しいホオダイやなあ(だ) てやら(とか)言うて。しいホオダイ言うて 我儘しいホオダイや 言うて、あやまあ(彼女は) どおらくもん(道楽者)で、男をしいホオダイやれ(だ)。

ほおだち(ぼうだち) (棒立)【名詞】棒の様に直立する事。茫然としている様。

ほおたろ(ほうたろ)【名詞】蛍(志(御座、布施田、鶴方、神明、甲賀、国府)、鳥、桑郡、三、四、鈴郡、津、一、松、多、度、伊、北、尾、南、熊)[会話]ホオタロ、蛍の事を。ホオタロほおい ホオタロほおい、あっちゃ(あちら)の水は にいがいど(ぞ)、こっちゃ(こちらの)の水は ああまいど 一杯のましょに飛んで来い言うて。麦のでばなん(に) となると、たんぼの畔いて(行って) 一杯、夕方ん(に) となると飛んで来て、麦藁のふつとい(太) とこ(所) 切っとい(ておいて) それい(に) ホオタロ探ると、入れて、ひっからかして(光らせて) しよおったわい(して居ました)。ホオタログサ ほたるぐさ言うのな(が) あんね(有るのです)。

ほおたろぐさ 蛍草 つゆ草 ツユ草科の一年草 やや

湿った路傍や小川の縁に群生する。高さ 15~30cm 茎は分岐し、下部は地をほう。葉は長さ5~7cm の卵状披針形で、基部は鞘となって茎を巻く。夏、たたんだ編笠状の苞葉から突き出した青紫色の二花被が見えるが、これは花序の中の一つの花である。花は一日でしおれる。志(甲賀、浜島、鶴方、神明、国府)度、伊、名)

ほおづら(ほほづら)【名詞】頬(志(布施田))

ほおて 這って(志)[会話] ほおた言うたり、ホオテ言うたりなあ、這う事をなあ。子供らでも ホオテ来て言うてなあ、まあ、おれげん(俺家の)子は みい月(三ヶ月) たったら、ホオテ来たてやら(とか)言うてなあ。

ほおてきた(はうてきた) 1) 這って来た 2) 夜這いに来た 女性の寝所に入って来た [会話] 1) 虫な(が)ホオテキタ、殺したれ(殺してやれ)言う。

ほおとる(はうとる) 這って居る [会話] 子供らな(が)ホオトル。立ちかけて来たら たったせえよお(しなさい)言うて。

ほおにふる(ぼうにふる) 棒に振る それ迄の努力や成果を無にする ふいにする [会話] ボオニフル言うて なんやかや(何彼)失敗したと(してやると)ボオフルなあ言うて そして一日なんも(なにも)せんと(せずに)遊んだと(でやると)今日は一日なんもせんと ボオフツたよお言うて。一日、ボオフル言うな(のは)、なんも せらった、仕事もせらった(しなかった)とか、ぜん(銭) もおけ(金儲)もせらった とか言うて。

ほおぬき(ぼうぬき) 担い棒を除いて。担い売りに来る品物を、担い棒を除いて全部買う。しきる参照(多)[会話] 昔や(は) 担のて(担って)蜜柑や(とか) なんやかや(色々の物)売りにきよった(来ました)、ほいたら(そうしたら)ボオヌキ しきったれ言うて、担のて(担って)きた ながり(まゝ全部) こおたれ(買ってやれ)言うのを ボオヌキこおたれ しきったれ 有るだけ こおたれ 言うのなあ(のです)。

ほおのきい【名詞】1) からすざんしょ(からすざんせう)烏山椒 ミカン科の落葉高木。高さ6~7m。小枝には棘を生じる。葉は互生し、大形の奇数羽状複葉で、しばしば葉軸にも棘があり、ふつう、4~10対の小葉をもつ。各小葉は先のとがった卵状長楕円形で長さ約10cm、縁に細かい鋸歯があり、裏面は白緑色。雌雄異様。八月頃、梢上に円錐花序を出し黄緑色の小さな五弁花を密につける。果実は径約6mmの球

形で、熟すと三つに裂けて辛味のある種子を出す。鳥が食べるので此の名が有る。(志、鳥) 2) はまごう (志、南、熊) 3) なら (津)

ぼおのんどる 1) 直立している。2) 腰を曲げない。

3) 立ってばかり居て仕事をしない。[会話] 3) 仕事 なんもせんと (少しもしなくて) 立ってばっか (ばかり) 居るとなあ おおた、ボオノンドルなあ あや (彼は) 言うて

ほおばい (ほうばい、はうばい) (傍輩) 【名詞】 友達 親友 (志 (船越、浜島、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥、北、南) [会話] 友達のこと、ホオバイ、おい、ホオバイ言うて、昔の人ら (は) ホオバイよい言うて なあ (名前) 呼ばんと (ずに) おい ホオバイ。友達がねえの (無いので) 友達ん (に) してえ (して下さい) 言うのを ホオバイにしてえ (して下さい) 言うて、頼みおったやんかい (居ました)。ホオバイ あくばい (悪輩) せんちゃばい (便所罎) 言うて、ホオバイ ホオバイ言うて なあ (名前) 呼ばんと おい ホオバイ言うて。

ほおばいこ 【名詞】 朋輩 友達 [会話] ホオバイコ言う時は 仲な (が) ええ (よい) 友達、朋輩も一緒の事や (です)。

ほおばいづきやい (ほうばいづきやい、はうばいうきあひ) (傍輩付合) 【名詞】 仲間同士としての交際 友達づきあい 仲のよい事 [会話] 友達と交際しとんの をなあ (しているのを)、友達づきやいとホオバイツキヤイとか言うてなあ、ちいな (血が) ついとらんとおって (ついていなくて) 親しいすんの (する) を 仲よお (仲よく) しとる (している) 事を、ほおばいこ (友達) や (だ) 言うてなあ。ほおばいこなとこへ (の所へ) 行こや (行きましょう) 言うて、

ほおびき (ほうびき、はうひき) (宝引き) 【名詞】 正月の遊びとして行なはれた福引の一種 多くの縄の内から橙が先端について居る縄を引き当てた者に商品を与へた、又直接縄の端に金や物を結びつけた。後金銭を出す賭博も表れたが禁止された。(志 (鶴方)、北) [会話] ホオビキ引きおったわい (引いて居ました) 子供のじぶあん (子供の頃に) 綱をよつけ (沢山) つけて 親すんのん (するのに)。しまい (終り)迄賭けとても (て居ても) 一本になっても すこたんこ (かしておこして) (空を引かしてよこして) かかった、おる言うて 嬉して (しくて) わがとやないかいなあ (自分で無いか) おもて (思つて) 綱ひつつかめとる と (力一杯つかまへて居ると) しまいの (終りのを)

やっておこして、おとっしや (やれやれ) しまい (終り)迄 賭けで言うて、上手に親する人ら いっぽおつ (一本宛) いっぽおつ 上手に放しておこすねてや (よこすのです)。くじ引きみたよなもんや (のようなものです)。ぼら (穴) な (が) あいとる (あいて居る) ぜん (銭) を いっぽ (一本) さいて (差して) 有るだけやけど (だが) 十人もしとると (して居ると) じゅっぽ (十本) しとんねけど (して居るが) わがとやないかいなあ (自分で無いか) おもて (思つて) しまい迄 掛つとると (して居るのだと) はりやい (張り合い) よおして (よくして) 待つとんのおな (て居るのが) どいらい (大変) 楽しめん (に) なん (なるのです)。わがと (自分) ん (に) 当ると五銭でも十銭でも なん 銭取り言うてする時ん (に) 一場当ると十銭取りとか二十銭取りとか、始めん (に) 賭する時ん (に) きめて有ると 当ると二十銭なら二十銭、取られんねやんかい (取れるのです)。そして なんぼでも (何本でも) すると よけ (沢山) 勝った言うて 嬉ぶねえけど (嬉ぶのだが) 運な (が) わりもな (者は) 一つもよお当らんやんかい (全く当りません) そやけど (それだけれど) そんな (それが) 又どいらい たのしんでや (楽しいです)。負けても しれとんねけど (たいした事は無いが) 楽しみなんてや (なのです) ばくちや (賭打は) 場な (が) 喰う言うて。

ぼおびき (ほうびき) 【名詞】 借金を拂わず全額負けてやる。負けて貰う事。

ぼおびきしたた 借金全部負けてやった。

ぼおびきしてもおた 借金全部負けて貰った。

ぼおびきする 借金全部負けてやる。

ぼおふ (ぼうふ ばうふ) (防風) 【名詞】 植物 浜ぼうふう。海岸の砂地に生へ 黄色を帯びる太い根を深く砂中に伸す せり科の多年草 若芽を酢のものなどにして食べる。(桑市、南) [会話] ボオフ、掘りん (に) 行こや (行きましょう) 言うて、広の浜い よお (よく) 掘りん (に) 行きおったけど (行つて居たが) 今しや (今は) 無いんやろなあ (無いのでしょうか)。あれをうでて (茹でて) 酢味噌で喰うんかい (食べるのですか) 味噌であえて あく抜いて (ておいて)。ボフは 茎やなけな (でなければ) はざんの (駄目なのです) はあ (葉) は ぼおしたやええの (捨てればよいのです)。茎のしいろい (白い) とこな (所が) 有るやんない (でしょう)。砂を掘ると あれとてこな (取つて来なければ) はざんね (い

けないのです)。葉はなんやけど 砂ん (に) はいと
る (生えて居る) いろいろ 赤い ピンクの とこ
(所) な (が) 有る やんない (でしょう) あれうでて
あく出し それ喰うの (のです)。青い とこは (所
は) がいん (あまり) ひつやあ (必要は) 無い ね (無
いのです)。灰のあくで うでおったね (茹でて居た
のです)、あく抜くの ん (に) 灰を きれ (布) い 包
んどいて (でおいて) それを 鍋い (へ) ほり込んで
あくな 抜けおったね (抜けて居ました)。 こんだ (今
度は) あげてから (鍋から出してから) 椿の青葉の 上
い (に) 乗せとくと (ておくと) あく な (が) 抜けん
ねてわい (抜けるのだそうです)。

ぼおふり (ぼうふり) (仔) 【名詞】 ぼうふら 蚊の幼虫
成長すれば、4～7mm になる、多く汚水中に住み、
汚褐色で、剛毛多く、呼吸管を持つ。盛に運動し腐敗
有機物を食べて成長し、蛹になる。(伊、鳥) [会話]
ボオフリ 水い (に) わく、ボオフリで蚊になる迄の
浮き沈み言うて、いごいてばっか (働いてばかり)。
ボオフや (ぼうふりは) 水ん (の) 中ん (に) おって
も いごいとるやんない (働いて居るでしょう) あい
なしん (暇なしに)。 そやもんで (それで) 働きずめ
ん (に) 働いとるもんで (て居るので) ボオフリやな
あ (だ) 言うて、蚊になる迄の浮き沈み な (が) えら
いなあ (はげしい) 言うて。

ぼおふる (ぼうふる) 棒にふる 無駄にする 無為に過
ごす 失敗する ぼおにふる参照 [会話] 一日、ボ
オフル言う な (のは) なんも (何も) せらった (しな
かった)、仕事もせらった。

ぼおべた (ほほべた) 【名詞】 頬 (志 桑郡、桑市、
員、三、四、鈴市、安、名、伊、南、熊)

ぼおべん (ほほべん) 【名詞】 頬紅。頬に着ける化粧品。

ぼおほ (ほうほ) 【名詞】 方法 (南)

ぼおほお (ほうほう、はうはう) 【副詞】 子供を大事に
する ちゃやほやする (志、鳥) [会話] ホオホオと
ちょおはい 大事にする事 なあ (です)。こお (子
供) な (が) の おて (無くて) 始めて生れて来ると
そんな (それが) うれしのおで (嬉しいので) 大事ん
(に) すると、ホオホオして育てた言うて。ほいほい
と 大事ん (に) して育てた。ちょおはいにして育てた
言うて。ちょおはい言うて 大事の もん (物) を、丁
寧にする やんない (でしょう)、ほん (本当に) ちょ
おはいにしとる もん を (して居る物を) 借り ん (に)
来て言うて。有るやんかい (有ります) 大事の もん
(物) を ちょおはいにして しもとても (仕舞って

居ても) 借り ん (に) くや (来れば) やや (いやだ)
言われやせんし (言へないし) ちょおはい ん (に) し
とんのん (して居るのに) 言うて 大事ん (に) しと
る言う事 やわい (です)。

ほおほお 【感動詞】 1) 鳥を追い拂うための掛け声 (志
(布施田)) 2) 海女作業 (志) [会話] 1) 鳥おおて
(追って) ホオホオ言うて、2) 磯人 (海女) も、ほい
ほいへ いた (行った) 言うて、ホオホオ言うて し
おなげき (呼吸) する やんない (でしょう)、それな
あ (それを) 子供ら な (が) おらん (俺の) かあやん
(母さま) ホオホオ へいとる (行つて居る) 言うて。
磯 (海女) いた 言わんと (言わずに)。

ほおほお (ぼうぼう、ばうばう) 【形容詞】 1) 草木の
生い繁つて居る状態。2) よく火の燃えて居る状態。

ほおほおしいほお (ほうほうしいほう) 【感動詞】 鳥や
獣を追いはらう時の掛け声 [会話] 犬や猫 追うの
んなあ (に)、シイシイ言うて、鳥 追うの ん (に)
ホオホオ言うて、猫 な (が) 入いって来ると シイ
言うても めったん (絶対) 逃げ やせんやんない (な
いでしょう)、そすと なんか ぶつけたと (てや
ると) 逃げて て (ていつて)。

ほおほおする (ほうほうする) 大切にする。(志 (鶴方、
神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥 (鳥羽))

ほおまいた 失敗した。降参した。逃げ出した。

ほおまいとる 馬鹿だ [会話] ちょいと (少し)、あ
んごし (阿呆) のおも (のも) あや (彼は) ホオマイ
トル言うて ちょいと おかるさん (馬鹿) みたよな
の (のよなのを)、ホオマク言うて、ホオマクと
かるう (軽く) 走つてくもんで (行くので) かいなあ
(でしょうか)、ちょいと こあんごし (馬鹿) のお
も (のも) かあるい (軽い) ねよって (のだから) そ
れを意味して あんねやろなあ (有るのでしょうか)。

ほおまきぶね 【名詞】 帆船。帆立船。

ほおまく 帆をあげる [会話] ホオマク、揚げる事、
降して巻く やなしん (でなくて) 帆 揚げんのを (揚げ
るのを)。

ほおまく 馬鹿だ。

ほおらい (ほうらい) 【形容詞】 1) 自然現象の激しい
さま 異常なさま 放題の変化した語か (志 (布施
田)) 2) 気のよいこと [会話] 2) 心の ええ (よ
い) のを、ホオライ や (だ) 言うて。人のええのを
あや (彼は) ホオライ やよってん (だから) 言うて。

ほおらく (ほうらく、ほふらく) (法楽) 【名詞】 楽しみ
遊び [会話] 見るはホオラク、銭 要らず。なんや

かや ぞめくと (見て廻る)、買わんとおって (買わずに居て) ぞめいとるやんない (て居るでしょう) 見るはホオラク 銭 要らず言うて 買わんとおって あれ見い 此れ見いするやんない (するでしょう)、そすと見るはホオラク 銭 要らず言うて。楽しみや (です)。

ほおろおた【名詞】 頭の頂き

ほおろおたする 頭の中央を円形に剃る [会話] ほおろく (焙烙)、置いた言うて、焙烙置く言うて。男の子はびんやろして おなご (女) の子は焙烙おいてし よおったの (して居たのです)。男の子はびんやろ言うて これい (此处へ、横髻) なあごお (長く) て、可愛らしの なあ (のです) そして (そうして) おなご の子は焙烙や言うて 真ん中をすって (剃って) ホオロオタスッても もろた (貰った) 言うて 剃って貰い おったの (たのです) がっこ (学校) 行く迄、可愛らし て (可愛らしくて) びんやろ置いとると (て居ると) 福助の 人形な (が) びんやろ置いとり おったやんかい (置いて居ました)、そして おなご の子は さかやき すって 焙烙置いて 前髪だけ垂らして よお (よく) 歌ん (に) 唱い おったわい (しました) さかやき剃って髪置いて言うて。

ほおろく (ほうろく、はうろく) (焙烙)【名詞】 1) 素焼きの陶器 物を煎るのに使用する 2) 女兒の頭の髪型 頭の頂上を削り周囲を残しておく ほおろおたする参照 3) 陰毛のない女性。かわらけ [会話] 1) ホオロク言うて 有り おったやんかい (有りました) かあらけ (かわらけ、土器) の 親 (大きい)、ホオロク。3) かあらけ ホオロクの こお (子供) やなあ (だ) 言うて、けえ (毛) な (が) 生えとらんと (生へて居ないと) ホオロクの子 かあらけや (です)。1) ホオロクは素焼 やった (だった) かあらき (かわらけ) も素焼 やったやんない (でしょう)。ホオロクは 茶 ほおじたり、あられや (とか) 豆を皆 煎って、しょうがつ (正月) ん (に) になると おつごも (大晦日) ん (に) 使うのは あらくさ (豆撒き) の豆は やす (煎る) の ん (の) 言うて 新しの (のを) 買 い お った わい (買っていました)。そして茶をほおじると美味い ね (のです)。そして 茶でも摘んで来て 蒸し器で せん と (せずに) ホオロクですると美味い の (のです)、ホオロクで こさえた (作った) 茶は美味い の。

ほおろくわり (ほうろくわり)【名詞】 消防の出初式。消防ポンプで焙烙を割るのを争った。

ほおろりやまんどりや【感動詞】 蜻蛉釣りの囃 (志)

[会話] ホロリヤア、ホオロリヤア、言うて。 ちょお (雌のやんま) を、つます (交尾させる) の おに (のに) ホロリヤア、ホロリヤア、めつぱち つるべに この ちょお は 要らんかなあ、ホロリヤア、言うてなあ、竹の 先い (に) 糸つけといて (ておいて) ちよお、くくつといて (くくつておいて) ちょお さ か らしん (交尾させに) 行こや (行きましょう) 言うて、それい (へ) さ かりん (交尾しに) くんね やんかい (来るのです)。さ から す (交尾させる) ちょお な (が) 無い もん (者) はなあ、かい ぞろをなあ、穴 あ けといて か みの いち (女の毛髪) で、ふ た あ つ、し ば つといて (くくつておいて) び ゅ つと ほ ると それい (に) 掛 つ て く ん の (来るのです)、そ い な の お を (そんなのを) この前の浜で し よ お つ た (していました)。夕方になると、ちよお な 一杯 わ い て く ん ね (群れて来るのです) 川 む い て、ちよお な (が) 一杯 群 が つ て く ん ね (来るのです) それい (に)、か み の いち で かい ぞろ ふ た あ つ し ば つといて び ゅ つと その 群 ん (の) 中 い (に) ほ つ た ると (投げると) か か つ て く ん の な (来るのが) あ ん ね て や (有るのです)。

ぼおわかれ (ぼうわかれ) (棒別)【名詞】 喧嘩して仲互いすること けんかまく参照 [会話] 喧嘩して ボ オ ワ カ レ し た ん て ない (したそうだ) 言うて、喧嘩して別れて ぼお (棒) は もの 言 わ せ ん よ つ て (言わないから)、もの も 言 わ ん よ ん (ように) な つ て く ん や ろ な あ (なって行くのでしょうか)、あ の 人、道 で お お て も (逢っても) もの 言 わ せ ん ない (言わない)、じよお ほお (両方) な (が) もの 言 わ ん と (ずに) 無 言 の 行 し と る と な あ (していると)、あ や (あれは) また ボ オ ワ カ レ し と ん ね も ん (しているのだ) 言うてなあ。

ほか (外)【名詞】 他所

ほがい (頬蓋)【名詞】 頬 [会話] ホ ガ イ な (が) 張 つ と ん な あ (張って居る) 言 う た や (言ったら)、ぬ す つ と 猫 (泥棒猫) や な あ (です)、ぬ す つ と 猫 な (が)、顔 な (が) お つ き い (大きく) なって こ げ ん し と ると (こんなにして居ると 頬が張って居ると) ホ ガ イ な 張 つ て、ぬ す つ と 猫 み た よ な (のようだ) 言うて、仁 鶴 (落語家) の 顔 み た い な (のような) ほお (頬) な (が) 張 つ と る (て居る) 人 な (が) あ い な の (あんなのを) ホ ガ イ な (が) 張 つ と る 言うて。

ほがい【名詞】 母貝。真珠養殖の核入れの出来るまで成長した貝

ほがえし(頬返し)【名詞】 口の中の食物を噛みこなすこと ほおがえし、(志(布施田)、南、熊) [会話] ロ一杯入れると ホガエシもよおせん (出来ない) 言うて、ロ一杯入れんのを (入れるのを) ホガヤシ よおせん程 口い (へ) 入れて言うて。ロ一杯入れたる と (てやると) かえされやせんやんない (返す転ばされないのでしょう)、そやもんで (それで) ホガヤシ 言うんやろ (言うのでしょう)。口ん中でこねられやせんもんで (こねられ無いので) ホガヤシもよおせん (出来ない) 言うて。

ほがえしよおせん 噛めない。ほがえし参照

ほかけろ(帆掛櫓)【名詞】 帆走しながら櫓を漕ぐ事[会話] あらし (風) な (が) ちよいと (少し) とろいと (少ないと) ホカケロや (だ) 言うて 帆まいとて も (帆あげていても) 櫓漕んで (漕いで)。

ほかす(放)【他サ五】 放下す ほうかすの転 うちすてておく 捨てる 捨てておく 放下 なげおろす事 なげすてる事 すてさる事 放棄(志、員、鈴郡、安、津、一、久、松、多、上、阿、張、名、伊) [会話] ホカス、ほっとく (放しておく) 言うのを、ホカスホカシトケ (ておけ) 言うて。ほっちらかしとけ言うて、なんもかも ほっちらかして言うの (のです)。ホカシトケ言う人も有るし、ホッタラカシトケ言う人も有るし。

ほかつく【自力五】 1) ほかほかと暖まる 2) 熱くほてって来る [会話] 2) ほかほかと、もんなおこって (熱がして) 来ると 顔な (が) ぼおぼおして来るやんない (でしょう) おおた ほかほかと 顔もあっこお (赤く) なって あや (あれは) 熱な (が) すんねな (するのだ) 言うて、額え てえ (手) 当てて、ほかほかすられ (する) 言うて。あたたい (熱い) のを ほかほかする、ホカツク言うて 熱な (が) 出て来た 額い (へ) 当てて やっぱり (矢張り) ほかほかすられ (する)、はよ (早く) 風に当らんよんして (ようにして) 寝とれよお (寝ていなさい) 言うてなあ。

ほかほか 温かいさを言う語。

ほがやし【名詞】 口の中で食物を噛みこなすこと ほがえし参照

ほがやしよおせん 口の中に物が一杯で、噛むことが出来ない。[会話] ロ一杯入れると、ホガヤシヨオセン 言うて、ほがやしな (が) 出来ん程、ロ一杯入れて言

うてなあ。ロ一杯入れると、なっとも (なんとも) かっとも出来やせんやんかな (ません)。あれを、ほがやし言うのなあ (です)。〇〇のたま (飴玉) こおて (買って) 見よ (見なさい)、どいろおて (大きくて) ほがやしな (が) 出来やせんど (ないぞ) 言うて、今しゃ (今は) まあ、夏負けしたか、なつかしや言うて、〇〇のたま (飴玉) な (が) 夏負けして痩せた言うて、ちっちゃおなった (小さくなった) もん なあ (ので)、どいらかったのん (大きかったのに)。

ほがら【名詞】 1) 何も中味が無く外側だけ残った物 2) 出来物 3) 苗を乾かしてしまった時 [会話] 2) 出来もん (物) な出来ると、とびくさ (膿瘍疹) な (が) 出来て来ると ホガラな (が) 出来た。1) 中がなんも (少しも、なにも) のおて (なくて) 外だけの時ん (に) なんもかも ホガラん (に) なった言うて。ホガラんなって、なんも無いよん (ように) なつてた (なつて行つた) 言うの (のです)。3) 雨な 降らん と (降らずに) うるおい (水分) な (が) よけ (多く) 無い時に、うえもん (植へ物) したりすると そんな (それが) 乾いてくと (て行くと) ホガラん (に) したたよお (してしまった) 言うて。出来もん (物) のぶつぶつと 水ぶくれてくんのを (来るのを) ホガラ 言うて ホガラな 出来て来た言うて。

ほからほから【副詞】 1) 気楽なさま 2) 暖かいさま

ぼく(木)【名詞】 丸太 木の枝を拂って残った幹の部しは参照 [会話] ボク言うのは きい (木) 切つて枝はろて (拂つて) 後の残こつたのおを (のを) ボク。

ぼくた【名詞】 丸太、ぼくに同じ(松、上、阿、張、名)

ほくち(火口)【名詞】 1) 燵(ひうち)を打って、火を移し取る物 火をつける所 点火する所 2) 木材の乾燥した状態 3) 腐ってぼろぼろになった状態 [会話] 3) ホクちん (に) なつてた (なつて行つた)、腐ってぼろぼろん (に) なつてくと (なつて行くと) 腐つて ホクチなつてたよお (なつてしまった) 言うて。2) きい (木) でも すいからす (粘り気が無くなる) ん (に) なつて、中な、かさかさん (に) なつてくと ホクチん なつてた 言うて。腐つてて(ていつて) ぼろぼろん なつてくと ホクチやなあ (だ) こや (此れは) 言うて。1) 一番始めん (に) ひい (火) な (が) つくとこ (所) ホクチ 言うて、ホクチいつける言うて、もおどいて (揉んでおいて) もぐさい (へ) ついたよおん (ように) なりおつた (なりました) ホクチ 言うの (のです)。ホクチ言うのは もお

どいて それい (に) つけよあったけど (つけて居ましたが)。火打ち石 かちかちとしいおった (して居ました) 火打ち箱や (だ) 言うて、ちっちゃい (小さい) 箱な (が) 置いて有りおった (有りました)。石を かちかちとして ぱっとしたおりん (時に) つけ 木でつけて すんで (するので) その石を入れんの (入れるのに) 火打ち箱。その時ん (に) 出た火を受けるのおを (のを) ホクチ。昔や (は) ホクチでし よあったんけど (して居ましたが)。ホクチ言うのは、もぐさみたよな (のような) 杉のかあ (皮) のこお (粉) みたよな のおを (のを) もどいて (ほぐして) ホクチや (だ) 言うて。

ほくび (穂首) 【名詞】 稲、麦などの穂のすぐ下の所[会話] 麦な (が) 旬な来ると あかるで (熟して)、旬な (が) 過ぎると、ちゃんなくびでなあ (首が曲った状態)、ホクビな (が) 曲ってなあ、へしよれて (折れて) くんで (来るので)。

ほくほく 【副詞】 ふかし芋などで水分が少なく崩れやすいさまを表す語 [会話] 芋な (が) こお (粉) ふいて ぼんとしとると (していると) ホクホクしとる (している)。そして芋な (が) 煮えて、あたたい (熱い) やんな (でしょう)、焼きたてや (だ) 炊きたてや (とか) 言うて、ほこほこしとられ (している) 言うて、ぬくたい (温かい) 事 ほこほこの飯な (が) 食いたいなあ言うて、炊きたての飯をなあ。

ほくほく 【副詞】 嬉しがる様。嬉しがって居る。(志(布施田)) [会話] ホクホクしとる (している) 言うのは にこにこしとる 言う事やんかいなあ (です)、なんか (なにか) ええ (よい) 事な (が) 有って、嬉して、嬉して しょな (仕様が) のおて (無くて) にこにこしとんのおをなあ (しているのを) ホクホクしとられ (している) あの人まあ、ええ (よい) 事な (が) 有るかして (のか) 言うてなあ、嬉しと (嬉しいと) 自然に顔もほころびて来るやんない (でしょう) それを ホクホクしとる 言うね。ぜん (銭) な (が) よけ (沢山) 入いって ほこほこやなあ (だ)、言うやんかい (言います) 金な (が) よけ 入いとまあ しょんがつあ (正月は)、ホクホクやれ (だ) 言うてな。

ほくぼく 【副詞】 水分が少なく堅いさま。もろいさま [会話] かっとおて (堅くて) ボクボクしとられ (している)、かったい (堅い) だいこ (大根) で 煮えんだいこでなあ、魚でもとて (獲って) 来てすぐんなあ (すぐのものは)、おおた ボクボク しとんない

(している) 言うてなあ。

ほくほくしとる 嬉しがって居る。ほくほく参照

ぼくり (木履) 【名詞】 下駄 女兒の履く背の高い底のくり抜いてある下駄 ぼっくり ぼっこり こっぼり (松)

ほぐれる (解) 【自ラ下ー】 解ける。わだかまりがなくなる。気分が楽になる。

ほくろづく 1) 黒子が沢山出来る 2) 点々と黴が生えて居る。傷んでいる [会話] 1) ホクロヅク 言うのは 黒子な (が) よけ (沢山) 出来て来た言う事。

ぼけ 【名詞】 ぼけ網と同じ (三重県全域)

ぼけ 【名詞】 惚け 呆け ぼける事又その人 間抜けもうろく バク (化) に通ず (大言海) (上、阿、張、名) [会話] ボケ ほおけてた (呆けて行った) ボケル。ほおけてた、ほおけ婆な (が) 言うて、ほおけとる (て居る) 言うて。

ぼけあみ 【名詞】 棒受け網の訛 漁法の一つ 方形の網で一端に浮子をつけ他端を水中に沈めておき魚を誘い集めて網の裾をあげて取るもの (三重県全域) [会話] 伊豆の式根はなあ、ボケアミな (が) 商売で “あれえは しきいねえ の やれこの、これわいさ、それ、ぼおけぶねだよ” 言うて 歌いおった (居ました)。式根は ボケアミな (が) はやりで (流行で) 皆なあ、男らわ、ボケアミい (に) 行くねてわい (行くのだそうです)、ボケアミや (とか) ぼけぶねや (だ) 言うてなあ。

ぼげた 【名詞】 類 (鳥)

ぼけだら 【名詞】 馬鹿 間抜け (阿)

ぼけつかう 知って居て知らないふりをする とぼける ほおける参照 [会話] ぼけとんね (ているのだ)、ボケツカウ 言うて すら (知らぬふり) しとんのおは (しているのは)。

ぼけつことる 知って知らない振りをしている。

ポケット 【名詞】 ポケット。洋服に有る物入れ。

ぼけっと 【副詞】 ぼんやりと (志(布施田))

ぼけっとしとる ぼんやりして居る

ぼけとる 1) 空とぼけている 知らぬ顔をする 2) 古くなって居る (志) 3) 果物や野菜が古くなって味が落ちる 4) 退色している [会話] 4) 色な (が) ポケットル、言うしなあ、裾めてくと (て行くと) 色な (が) ポケットル。鮫な (が) のおで (飲んで) 吐き出したよおん (ように) しとんない (している) 言うて。しらけてた (白くなった) 事を、ポケットル 言うんなあ (言うのです)。1) 知らん顔して行かない (行く)

とぼけてまあ言うて。

ぼけぶね【名詞】 棒受け網漁をする船 ぼけあみ参照
[会話] ボケブネ言う と ぼけ網言うて、網 引く舟
を ボケブネ言うて。ボケブネ言うのは ぼけあみ漁
をする、かこ (水夫) を乗せて 網 引きん (に) 行
くのを 朝の出船の ボケブネや (だ) 言うて。

ぼける【動】【自カ下】 夢中になる

ぼける【自カ下】 1) 頭がぼんやりして来る にぶっ
て来る うそぶく とぼける とぼける 知って居な
がら知らないふりをする しらばくれる すらぼける
(志、北、上、阿、尾、南) 2) 色が脱色する。

ほこほこ【副詞】 1) 暖かいさま ほかいほか (一)
2) 出来上がったすぐ [会話] 1) ホコホコしとる
(して居る)、炬燵の中でもホコホコしとる。御飯も
炊き立てで ホコホコしとられ (して居る) 言うやん
かい (言います)。暖かい言う事。はこ (大便) たれ
ても たれてすぐかして (と思へて) 湯気な (が) 出
とる (出て居る)。2) 出き立てのほやほやを ホコホ
コや (だ) 言うて、ホコホコで湯気な (が) 立って言
うて。

ほこほこ【副詞】 嬉しいが様。嬉しいがって居る様。

ほこぼこ【副詞】 1) 凹凸の有るさま。でこぼこ。

2) 水の勢いよく沸き出るさま。

ほこほこする 1) 温かい。(一) 2) 嬉しいがって居る。

ほこら【名詞】 1) 小さな杜 2) 洞穴 (上、阿) [会
話] 1) じやまは大きな山やって (だって) 中にホコ
ラ な (が) 有って。

ほこらかす【他サ五】 誇る様子をする。見せびらかす。

ほこり【埃】【名詞】 飛び散る粉のようなごみ (三重県
全域)

ほこりする 乱暴に動く。

ほこりなする 1) 乱暴に動く。物を動かす。2) 強い
風が吹く。

ほこりまるけ ほこりだらけ。ほこりにまみれて居る状
態。

ほころばかす。ほころばす【綻】【他サ五】 1) ほころ
ぶようにする 2) 破る

ほころび【綻】【名詞】 ほころびた所。破れ。ほころべ
参照

ほころぶ。ほころぶる 1) 縫目が開く。2) 花が開く

ほころべ【名詞】 着物などのほころび ほころびの訛
(伊、南) [会話] きもん (着物) のホコロベ、ホコ
ロベ言わんと (言わずに) ふくろべ言うの (のです)。
きもんの、ふくろべも よお縫わんねない (よく縫へ

ないのだ) 言うて、今しの (今の) 人ら ホコロビ言
うねやんかい (言うのです)。昔は ふくろべや (で
す)。ふくろべてたれ (て行った)、ほん (本当に) お
とっしや (嫌だ) 言うて、ふくろべくと (て行く
と) 早よ (早く) のおとけ (縫っておけ) 言うて ふ
くろべもよおのわん (縫わないのだ)。縫うのを の
う 言うの (のです)。縫う言わへんね (言わないの
です)。

ぼさ【名詞】 不用のもの ぼんやりして居る [会話]
ぼんやりと しとんのなあ (しているのです) あや
(彼は) ボサやどお (だぞ) 言うてなあ、人な (が)
仕事 やあやあしとても (一生懸命にしている) ぼ
かんとしとるとなあ (していると)、あや (彼は) ま
あ ボサで あれ (彼) 雇とても (雇っても) なんも
(なにも) ならせんわれ (ならない) 言うてなあ、ど
じもんぐさ (怠け者) の事なあ (です)。

ほさき【名詞】 1) 釣竿の先端 2) 稲麦等の穂

ほざく【他カ五】 ものを言うことを悪しげに言う ホ
サク (言う) の転 (広辞苑) (員、度) [会話] ホザ
ク言うのも ぼやく言うよおな意味やねえんかい (で
無いのですか)、ぼえぼえ言うとるよおな事を ホザ
ク言わせんのかい (言いませんか)、ホザイテばっか
(ばかり) おって (居て) 言うて 喋ってばっか お
んのをなあ (居るのを)。

ぼさっと【副詞】 何もしないで放心したようにぼんやり
したさま (志 (布施田)) [会話] ぼんやりとしとる
(としている) 言うのを、ボサットしてまあ言うてな
あ、阿呆みたよななあ (のようだ)、あや (彼は) な
ん (なに) しょおとも せんと (せずに) ボサット、
あしこん (あすこに)、むことんねない (座っている
のだ) 言うて、人な (が) あれもして、此れもして言
うのんなあ (に)、わがと (自分は) ボサット あっ
ちや (あちら) 見い、こっちや (こちら) 見いして、
沖い (に) 帆船な (が) 通とられ (ている) 言うた
よん (ように) して来ると ボサットしとて (してい
て)、あいな (あんなのを) の雇ても (雇っても) へ
えんも (尻にも) ならせんなあ (ならない) 言うてな
あ。

ぼさっとする 何も考えずにぼうつとしている (志)
[会話] ぼんやりしとる (している) ボサットスル。
気働きな (が) のおて (無くて) 笑止なよおな にげ
(人間) な (が) 有るわい (有ります)、そいな (そ
んな) にげ これしたれよお (しなさい) 言う と そ
れ、したると (してしまうと) ま、次の仕事考えんと

(ず) ボサットシトルのなあ (しているのです)。そ
いなのおを (そんなのを) 気働きな のおて 言うて。
ぼさばさ【副詞】【形容詞】 1) 愚図愚図 2) 頭髮な
どが乱れて居る様。

ほし(欲)【形容詞】 欲しい (志 (布施田)、鈴市、亀、
多、上、張、度、伊) [会話] あや(彼は) へらばこ
で (物欲しい人間) なんでも (何でも) ホシ ねよっ
て (のだから)。

ほしあがる 1) 干潮になる (志) 2) 完全に水がなく
なる。ひあがる (田、畑等) 3) 洗濯物等干した物の
水気が無くなる。乾燥する。

ほしいて 欲しくて [会話] なんでも (何でも) ホシ
イテ すんのを (するのを) 欲ほけしとる (してい
る)。

ほじえくる。ほじえる【他ラ五】 掘る 掘りおこす つ
つき出す ほじくるの訛 (北) [会話] ホジェル言う
のをなあ、耳、ホジェル。鼻ぼら (鼻の穴) ホジェ
クットル (ている) とかなあ、人のわり (悪るい) 事
ばっか (ばかり) ホジェクッテ、人の欠点ばっか 探
すのをなあ、掘り出すのを。なんやかや (いろいろ)
土の中ん (に) 埋めて有るとなあ、あしこん (あすこ
に) 里芋な (が) いけてあんど (有るぞ) ホジェクッ
テ来い、だいこ (大根) も いけてあられ (有る) ホ
ジェクッテ来い言うてなあ、だいこ や (とか) 人参や
言うと よお (よく) いけおったやんかいなあ (埋め
ていました)、さかさまん (逆に) して 人参もごん
ぼ (牛蒡) も そこん (そこに) 埋めて有るよって
(から) ホジェクッテ来い ごもく (五目飯) など (で
も) しょおやんかあ (しましょう) 言うて。

ほしか 欲しいか 要りますか [会話] 此れ、ホシカ
言うて、そいな (そんな) もん (物) よれやれ (沢山
だ)、いなんわれ (要りません) 言うて、要りますか
言うのを。ほしけどなあ (ほしいが)、気の毒でなあ
言うてなあ、そげん (そんなに) 気の毒がらんでええ
わ (なくてもよろしい) くれるわ (あげます) 言うて
なあ、そげん ホシカ、のおん (お前に) やるわ (あ
げる) 言うてな。

ほしがりや【名詞】 何でも欲しい人。

ほしかろな 欲しいだろう。

ほじくりかやす (ほじくりかへす)【他サ五】 1) 掘っ
てひっくりかえす 2) あばき立てる。

ほじくる【他ラ五】 1) ほぜる。掘る。2) 人の欠点を
探す。あばく。[会話] 1) ホジクル、権兵衛な種蒔き
や、烏なホゼクル言うて、ごんぼ (牛蒡) ほぜくりん

(に) いとかな (行かなければ) はざんわれ (いけな
い)。はつと (鳩) に 豆、皆 ホゼクラレタタ (て
しまった) 言うて、ホジクル。ホゼクル言うね (言う
のです)。ホゼル言うのも ホゼクル言うのも一緒や
(です)。搔き出して 外むいて 皆 出して来る、
ホゼクリ出す言うて。2) 人らな (が) もの言うても
人のいなん事 (要らぬ事 隠している事) 言うやんな
い (言うでしょう) そすと あの人な (が) あら ホ
ジクッテ、人のあら (欠点) ばっか (ばかり) ホジク
ッテ言うて。

ほしけど 欲しいが。ほしか参照

ほしざめ(星鮫)【名詞】 すざめ ドチザメ科のサメ、
全長1.5mに達す。体は灰色で、体側から背部にか
けて、白色斑点が散在。(志)

ほしだいこ【干大根】【名詞】 干した大根 丸干しにし
た大根 (志) [会話] だいこ (大根) ホシダイコ、か
あ (皮) 剥いて 生んの (生のままを) きい (木) へ
下がらかしとくと (下がらしておくと) ホシダイコ。
“かわいて かわいて ホシダイコ” 言うやんかい
(言います)。ものすごお (大変) 可愛がると かわ
いてかわいて ホシダイコやれ (だ) 言うて 可愛が
つとると (て居ると) 言うやんかい。乾燥しとると
(て居ると) 可愛らしいのおと 掛けとる (て居る)
わけや (です)。かおおて (可愛いくて) かおうて言
うのを かわいて かわいて言うて。

ほしたら【接統詞】 そしたら そうしたら (志 (甲賀)、
安、阿、張、名、度、北) [会話] そしたら言うのを、
ホシタラ言う人な (が) おんねんなあ (居るのです)。
ホシタラこれ こんげんしょおか (こんなにしましょ
うか) 言うてなあ、そおしたら言うのをなあ。

ほしたらな 別れ際の挨拶 (志、鳥、松、伊)

ほして【接統詞】 そうして そして (志、鳥 (加茂)、
員、三、鈴市、鈴郡、安、一、上、阿、張、名、度、
伊、北、尾、熊) [会話] そして、そおして言うのを
ホシテ、言う人もおんね (居るのです) ホシテなあ、
ホシテなれ言うてなあ。

ほして 欲しくて

ほしてから そうしてから。それから。そしてから。
(鈴市、阿、張、名、伊)

ほしてなあ。ほしてなれ そうして

ほしといて【接統詞】 そうしておいて (北)

ほしない 欲しくない 要らない (北、南) [会話] な
んも (何も) ホシナイ言うてなあ、要らない言う事を
なあ。

ほしくないか。ほしくないかい。ほしくないかな (女性語)

要りませんか。

ほしなめる ほしらめる 見せびらかす 相手に欲しがらせる なとらの訛 (志 (鵜方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥 (鳥羽)、津、伊、北、尾) [会話] ホシナメル言うてなあ、人な (が) おんのん (居るのに)、ええもん (よい物) 持て来て 一人むしむし食うてなあ、お前らも食えとも 言わんと (言わずに) わがと (自分) 一人なあ 見せといて (ておいて) 食うの、ホシラメグイして言うてなあ。人ん (に) 見せびらかして しとんの (しているのを) ほしらめる、ホシナメル言う人も有るんなあ (有るので)。

ほしなる 欲しくなる (鈴市、度、伊) [会話] ほしなつて来た、ホシナル なんでも (なにでも) ホシナルネ (なるのだ)、見ると ほしなつてくんねてや (くるのだ) 言うて。

ほしね 1) 欲しい 2) 欲しいのだ

ほしねえ いらない

ほしねえかい 要りませんか。[会話] こいな (こんな) ええもん (よい物) あんたも (貴方も) ホシネエカイ。

ほしぼってきた 夜空に沢山の星が輝き出して来た。晴天になる。(志 (布施田))

ほしぼつとる 沢山の星が出て居る。晴天を言う。

ほしばる 夜空に多くの星が輝く。晴れている。(伊賀地方) [会話] 星な (が) 一杯 でとると (出て居ると) ホシバル。

ほしもん 【名詞】 干してあるもの 干物 日射で乾燥させる物 洗濯物 (南) [会話] 麦 干すとか、せんだくもん (洗濯物) 干すとか、昔や (は) ホシモンな (が) よけ (沢山) 有ってなあ ホシモン取り込まんならんよつて (ならないから) 早よ (早く) いかな (行かなければ) 言うて、夕方、日な (が) かたぐと (傾くと)、豆や、小豆や、とびきや 粟や、言うて皆 干さな (なければ) はざんやんない (いけないでしょう)、豆でもなんでも とるやんない (獲るでしょう)、そすと (すると) それ、皆 干したり、たとだり (畳んだり、しまったり) 忙がしかりおつた (かったのです)。そして 土用干しもせな (しなければ) 虫な (が) わくもんで (生じるので) 土用干したり。せんだくもんも、干しとるし (ているし)、今日は布団も干しといて (ておいて) 来たのん (のに) 照つとた (ていた) もんで (ので) 言うて、朝、天気

な (が) ええと (よいと) 今日は、上日や (だ) おもて (思つて) 干すと 俄ん (に) 曇ってくるやんない、そすと (すると) 畑い (へ) いととも (行つていても)、空ばつか (ばかり) 眺めて まあ 腰な (が) 抜ける程 走つたれ (走りました)、腰ぬっからかし (たよお (抜かした) 言うて。

ほしもん 【名詞】 1) 欲しい物 (鳥) 2) 欲しい者

ほしもん 欲しいのです [会話] ホシモン言うて、あれもほし (欲しい)、此れもほし、あげな (あんな) もん (物) な (が) ホシモン おらも (俺も) 言うてなあ。ほしけど (欲しいが) ぜん (銭) な (が) のおて (無くて) よお買わんしなあ (買えないし) 言うて。あいな (あんな) もんな ホシモンなあ わしら (私も) も言うて、ほしなあ (欲しい) 言うのをなあ。

ほしもんさお (ほしものさを)。 **ほしもんざわ (干物竿)** 洗濯物を日に当てて乾かすための長い棒状のもの 物干竿 (上、阿) [会話] ホシモンザオ、せんだく竿、せんだくざわ、ホシモンサワ、ホシモンザワん (に) この竹いっぽ (一本) くれやええやわい (くれればよろしい。下さい) 言うてなあ。竹藪な (が) 有るとなあ、竿 言わんと (言わずに) さわ、ホシモンザワん (に) いっぽ くれえ (下さい) 言うて、さわ や (です)。

ほしよ 欲しい

ほしらめぐい 【名詞】 人に見せびらかせて欲しがらせて自分一人で食べること ほしなめる参照 [会話] 今し (今) みたよおん (のように) ひとぼりん (一度に) ほぼくつたやせんの (食べてしまいません) 重宝が (大事にして) ホシラメグイして。

ほしらめる みせびらかす ほしがらせる (志 (浜島、布施田、国府)) [会話] ホシラメル。こや (これ) こや (これは) 要らんか、こやこや ええやんない (よいでしょう)、ほしくないか (欲しくありませんか) 言うて すんのを (するのを)。わしや (私は) こいな (こんな) ええのな (よいのが) あんのん (有るのに) これ言うて ホシラメンネ (ほしらめるのです)。あんたも ほしねえかい (欲しくありませんか) 言うて。きもん (着物) も あれ着い 此れ着いすると おおた (あゝ) ホシラメテ あれ着い 此れ着いして、有るおもて (有ると思つて) ホシラメテ言うて。みせびらかす事 ホシラメル、此れ此れ言うて、ほしかろな (欲しいでしょう) 言うて。単に みせびらかすだけ やなしん (でなくて) ほしがらせんの (せるのです)、見せて欲しがらせる、けなりがらす (うらやませがら

す) の (のです)。けなりがらす けなりや おらも
(俺も) 欲しな あ (い) あげなのおな (あんなのが)
言うて 人な (が) うらやまし言うのを、けなり言う
て。おおた けなりや (うらやましい) あげな (あんな)
ええの着て言うて。ほしな あ (欲しい) 言うて
欲しがんの (がるのを) けなりがる言うのな あ (ので
す)。

ほじる【他ラ五】 掘る。掘り出す。人の欠点をあばく。

ほじれる【動詞】 なつかしがる たわむれる [会話]
人ボジレル。人な (が) よけ (沢山) おるとな あ (居ると)、ちょおけたり (ふざけたり)、なんやかや (いろいろ) よけ 広げたりすると、人ボジレテ あげん
(あんなに) 言うてなあ、よけ (沢山) 喋ったり、これも有る あれも有る言うて 出して来てしとる (している) にげ (人間)、人ボジレテ言うてなあ。人な来ると じっきん (すぐに) ちよろちよろ そばえて
(あまえて)、あげん (あんなに) 出しゃばって来て人ボジレテくんので (来るので) 嫌やてや (嫌だ) 言うて。

ほじろ【名詞】 小鳥 ほおじろに同じ (志、鳥、松、伊、南) [会話] ホジロ言う鳥は有るやんかい (有ります)。ホジロの口みたいなあ (のようだ) 言うて、ホジロの口 あいたよん (ように) しとん ね (している) おらぎや (俺の家は) こら ら な (子供が) よけ
(沢山) 有って、なんやかや (いろいろ) 持てくと (持って行くと)、待ってとて (ていて) 言うてなあ。ホジロな (が) 餌 貰うくらいや (だ) 言うて、ホジロな (が) すう (巢) ん (の) 中で 口あいて しとる やんない (しているでしょう)、それを例えてなあ。ほおじろ鳥や (だ) 言うて、ホジロな (が) よけ
(沢山) おつて (居て) 言うてなあ、畑い (へ) 行くと言うやんかい (言います)。

ほしんど 欲しいのだ

ほしんや 欲しいのだ

ほしんやけど 欲しいのだが

ほす(干)【他サ五】 出す 露出する 干すの意か [会話] よさ ご と (毎晩) テレビで 尻 ホシテ して来る やんか (して来ます)。

ほず【名詞】 ほぞの訛 1) ほぞ 臍 2) 物の中心の高い所 (志 (浜島)、鳥、度、伊) 3) 野菜 果物のへた (志 (鶴方、神明、国府、安乗) [会話] ₃₎ ホズホズな (が) もじけた (もげた) 言うて。ふさばをホズや (と) 言うのな あ (のです)。なりもん (なり物) でも、ふさ (へた) な (が) 有るやんない (でし

よう) ホズな (が) もじけてたれ (もげて行った) あ
かるだ か して (熟したと見えて) 言うて。₂₎ ホズつけとけ (ておけ) 言うて なんか 差し込んだり すん
のを (するのを) ホズや 言うて、戸のあい なの おも
(あんなのも) ホズや 言うて、ホズな (が) へし
よれてた (折れた) とか うちやれてた (壊れた) と
か言うて。

ほすと【接続詞】 そうすると (安、伊、北)

ほぜくりかえす (ほぜくりかへす)【他サ五】 ほじくつてひっくり返す、転じてあばきたてる [会話] ホゼクリカエシトイテクネ (ておいて行くのです)、餌を掘らんならん (なければ) やんない (でしょう) めめ
ず (みみず) を、そや も んで (それで)、土の沃えとる (ている) よ お な と こ (所)、ホゼクリカエシテ、めめず のち ち ち や い (小さい) の (の) を取って。

ほぜくる【他ラ五】 1) あばきたてる 掘って中をつつまわす (志 (片田、浜島、立神)、桑市、員、鈴市、一、久、上、阿、度、伊、北、尾、南) 2) 穴をあける (志 (鶴方、神明、立神、国府、安乗) 鳥、[会話] ₁₎ ホゼクンネ (るのです)。餌 探すのん (のに) めめ
ず (みみず) 探すのん (のに) ホゼクンネ 掘る言う事 ホゼクル。

ほぜりぐい【名詞】 撰り食い。特に下から取り出して食べる。

ほぜりだす 掘り出す [会話] 人の事でも、昔の事ホゼリダスと せ せ な げ (下水) 浚えや、めめ ず (みみず) な (が) 出て来る言うて、昔のわり (悪い) 事したの (のを) み ん な (皆) 言い出して来るも ん で
(ので) それ 言うん や ろ な あ (言うのでしょうか)。

ほぜる 1) ほじくる 穿る 穴を掘って中の物を取り出す かくれて居る物 小さな物などをしつこく掘り出す (志 (片田、布施田、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥 (鳥羽)、員、鈴市、安、上、阿、張、名、伊、北) 2) 人の隠して居る事を探り出す。

ほそ 細。細い紐。細い綱 名詞、形容詞、動詞の上につき太さが少ない意を表す [会話] ホソ紐やホソ道や (とか) なんでも、ほ っ そ い (細い) も な (物は) こ や (此れは) ち よ い と (少し) ホ ソ ク チ (細い) や (だ) 言うて。め え (目) も ほ っ そ お い ね (細いのだ) あ や あ れ (あれ) 言うて 目しよぼのに げ (人間) を しよぼしよぼしとられ (して居る) あ や ま あ
(あれは) 傷薬つけたた と (てやると) い え て か れ
(治って行く) 言うて 目 な (が) ほっそいと よ お

(よく) 言うやんかい (言います)。目な (が) かや
ぎれ程より あいとらせん (開いて居ない) 傷葉つけ
たると (てやると) いえてかれ (治って行く)。かや
ぎれ言うて、かや (芽) で切ったほろけより (程よ
り)、かやぎれ切ると ほっそお (細く) 切れるやん
ない (でしょう) かやは はあ (葉) な (が) のこざ
り (鋸) ん (に) なっとるもんで (なつて居るので)
ちよいと (少し) 置いとくと (ておくと) 口な (が)
おっきい (大きく) 開いて痛いの (のです)。そやも
んで (それで) 目もほっそいと (細いと) かやぎれほ
ろ (程) よりあいとらせん (開いて居ない) ほっそい
目やなあ (だ)、あや (あれは) 傷葉つけたると い
えてかれ 言うて。

ほぞ 【名詞】 膺 ほぞ参照 舟を漕ぐ櫓について居る小
さな穴 舟の小さな突起物と合わせ櫓の回転軸にする
もの

ほそい (細) 【形容詞】 少ない。食なホソイ。

ほそおい 細い (志、飯、度、北)

ほそおて 細くて。

ほそおび (細帯) 【名詞】 腰紐 帯の巾の狭い物。下着
などに用いる。(志 (御座)) 【会話】 しごき や
(だ) 言うて、帯すると、着物着ると はぼり すん
のん (するのに) 腰いも (にも) し (いて) (しておい
て) 長じばん (襦袢) へも いっぽ (一本) して さ
んぼ、しほおつ (三本、四本位) いんの (要るので
す)。又 帯する下いも (へも) するやんない (する
でしょう) そして 伊達巻きしたり よけ (沢山) 巻
くやんかい (巻きます) ホソオビを。はぼりする言う
のは きもん (着物) な (が) なあが (長い) いの
を (のを) のやげ (縫上げ) の代りに ホソオビ し
いて なあがいだけを たぐって 此処い (腰へ)
だらかす (垂す) やんない (でしょう) それ、はぼり
や言うて。はぼりな (が) 有ると きのくうて (着に
くくて)、きだけ (着丈 着るだけの長さ) ん (に)
すると きん (着るのは) せわ (ないけど) (簡単だ
が) ちよいと (少し) 格好な (が) わりの (悪いので
す)。はぼりの無いきもんは。

ほそかわすじえもん (細川筋右衛門)。ほそかわにくな
い (細川肉内) (無) 【名詞】 痩せている人 (阿、張)

ほそく (補足) 【名詞】 不足を補いつけ加えること 補
充 【会話】 その上へ まだ足しとけ (ておけ) 言う
の (のを) ホソク。

ほそくち (細口) 【名詞】 二つ以上の物を比較して、細
いもの、細形小形のもの 【会話】 細紐や (とか) 細

道や (と) 言うて なんでも (何でも) ほっそい (細
い) もな (物は) こや (これは) ちよいと (少し) ホ
ソクチや (だ) 言うて。

ぼそと ぼんやり、無愛想に

ほそて 細くて (三、飯、伊)

ほそなあがい。ほそながい 【形容詞】 細長い 細くて
長い (伊) 【会話】 ホソナアガイの、ほっそおて (細
くて) なあが (長い) と こや (これは) ホソナア
ガイ ながちんぼ (長い陰茎) や (だ) 言うて。ホソ
ナアゴオテ (細長く) 言うて ながちんぼや (だ)
言うて よお言よおったあなあ (よく言っていました)。

ほそひぼ。ほそひも 【名詞】 細い紐 腰紐 ほそおびに
同じ 【会話】 しごき、ひぼ、(紐) しごきの事を
ホソヒボや (だ) 言うてな、ひぼ で しばつとけ
(くくっておけ) 言うてなあ。

ほそみち (細道) 【名詞】 細い道 狭い道 路地 【会
話】 ほっそおい (細い) 道。ほっそおい 山道や
(とか)、畑道やなあ (です)、足な (が) 二つ並ばん
で (なくて) かためん (交互に) かわさな (なけれ
ば) はざんの (いけないのを) ホソミチ、たあ (田)
の畔の ほっそい (細い) の通ると 畔のホソミチ通
ってまあ言うて。

ほそめ (細目) 【形容詞】 やゝ細い程度 細く開いてい
る ほそめいの約 (大言海) 【会話】 雨戸しめると
たてぐち (たてつけ) な (が) あいて (開いて) とお
(戸) のホソメから 風が入ったり 雨な (が) 入っ
たり。

ほそめ (細目) 【名詞】 1) 細い目 2) 眠そうな目
(南) 【会話】 めえ (目) しょぼしょぼするとなあ
ホソメで見えてまあ言うて。ホソメで 色目つこて (使
って)、色目使いや (だ) 言うてなあ。ほっそおい
(細い) めえ で しりめ (横目) で、みんななあ (見
るのを) 色目や (だ) 言うてなあ、色目使いやわ
(だ)、あのひた (人は) 好かん (嫌だ) 言うて。
ねぶたそおん (眠むそうに) して来ると、ホソメして
言うて、¹⁾ なんか (なにか) 見る時でも。ホ
ソメでなあ、あぼおて (まぶしくて)、年寄ると
ホソメ使かわな (なければ) めえやせん (見えない)
よおん (ように) なつて来て、ばちつと あくとめえ
んで (見えなくて)、ホソメですと みやれん ねけ
どなあ (見られるのです)。

ほそる (細) 【自ラ五】 やせて細くなる 【会話】 痩せ
る事をホソル。まあ ホソツタ なあ (て行った) あ

のひた (人は) 言うてなあ、物凄お (く) 痩せとると
(ていとう) ヤセホソツテ言うて、なんか (なにか)
心配事な (が) あんのかして (有るのか) あのひた
がいん (大変)、ホソツテたなあ (ていった) 言うて
なあ。

ほた【感動詞】ああ

ほだあな【名詞】洞穴 (志)

ほたいる ふざける。戯れる。ほたえる。(志、上、
阿)

ほたえる【自ヤ下一】ふざける 戯れる 騒ぐ (志 (浜
島、布施田、片田、船越、鶴方、神明、立神、志島、
甲賀、国府、安乗)、鳥 (鳥羽、国崎)、四、津、一、
飯、松、多、上、阿、張、名、度、伊、北、南、熊)
【会話】おっちゃくすんのを (横着暴れるのを) 腕白
坊主の事を よけ (あまり) ホタエンナマア (暴れる
な) 言うて。よけ ホタエンナマア なんもかも
(皆) もんだんねない (揉んでやる、ぐちゃぐちゃに
してしまうのだ) 言うて、よお (よく) わるわれよお
った (叱られました)。おっちゃくして なんもかも
揉んだんねない よけ ホタエンと しんびよお (神
妙) ん (に) しとれまあ (して居なさい) 言うて、お
となし (静かに) しとれ 言うの (のを) しんびよお
にしとれ言うて。神妙にしとれ ひとばか (少しの
間) しんびよおん しとれ 言うて 子供ら わるい
おったんなあ (叱って居たのです)。ホタエル言うの
は、悪ふざける 調子ん (に) 乗って来ると 子供
ら色々の事して とりとめな (が) 無いよおん (よう
に) して ホタエルやんない (でしょう)。うそごお
なわいて来て (腹が立って来て) 拳骨むくったろか
(撲ってやろうか) 思うと、むくったや (てやれば)
泣いて来るし、ほっときや (ほおっておけば) つきや
がって (つけあがって) 来るし、わるや (叱れば) 泣
いて来るし。とりとめ言うのは なつと言うても (な
んと言っても) 一つも (全く) 聞かんよおん (に) な
ってくの (なっていくのです)。きりが無い おっ
ちゃくしかけると (し始めると) きりもかぎりも (際
限) 無いよおな (に) ほたえきってして来る 子らな
(が) 有るわい (有ります)。

ほたがい【名詞】蕎麦粉に熱湯を注ぎ練り混ぜたもの
がよいは粥の訛か 【会話】蕎麦のホタガイ、蕎麦入れ
といて (ておいて) あつつうい (熱い) 茶をかけて、
捏ねると固まって、それい (に) 又 茶 入れて飲む
のを あさばち (朝飯) に ホタガイして飲んで言う
て。蕎麦のこお (粉) を あつつうい ちゃ (茶) で

捏ねたると (てやると) そんな (それが) 団子みたよ
ん (のように) なんねてや (なるのです) それい
(に) 又 あつつうい 茶かけて、麦粉飲む よんし
て (ようにして) 飲むのを ホタガイや (だ) 言うて。

ぼだち【名詞】棒立ち まっすぐに立って居ること
【会話】ボダチ言う 棒な (が) 立つよおんしとん
の (にして居るのを) なんかする時 ちょいと (少
し) 腰曲げて 中腰ん (に) なって 力 入れてすつ
とええけど (するとよいが) 立っておってん (居て)
こげんしとると (こんなに居ると) べつんも (特
別に) ボダチみたよおん (のように) 棒が 立ったよ
おにしとるやんない (して居るでしょう) それを言う
の (のです)。腰もかがめんと (曲げずに) ボダチみ
たよんしとる (のよに居る) 言うて。

ぼたもち【名詞】1) くらげ かきのてくらげ いそも
ぐさ参照 2) 牡丹餅。米飯を丸くまるめ餡を付けた
物 (鳥) 【会話】²⁾ 旦那のボタモチや (は) 汗かいて
炊くね (炊くのだ) 言うて、ボタモチや ごつつお
(御馳走) やったのん (でした)。生菓子やどけも
(なども) そげん (そんなに) よお買おて (買って)
喰わんやんない (食べられないでしょう) そやもんで
(それで) 甘いもん (物) ボタモチ。霜月一日 (しも
つきひいて) ん (に) なると、たあ (田)の有る家や
(は) ボタモチして親戚中い、(へ) 心やすい (仲良
くして居る) 常に (いつも) なんやかや貰う家い
(へ) こばって (配って)、そすと 貰う家や はん
だい (御櫃) 何杯言うて もろて (貰って) 幾日言う
て喰うて (何日も食べて) よお喰わんと (食べられない
と) 甘酒ん (に) ついたり しよおったね (して居
たのです)。¹⁾ 海女さんな (が) ボタモチん (に) 刺
されて言うて あや (あれは) いそもぐさ言うの、
(のです) いそもぐさ言うて ボタモチみたよん (の
ように) しとるもんで (して居るので)。真っ白ん
(に) して 口な (が) 有んね (有るのです) 蕎麦の
花みたよん (のように) そや (それは) 皆 口やんな
あ (です)。こして (こうして) こして こして し
じゅう (いつも) いごいとんの (動いて居ています)。
そして 手やると (さし出すと) 手い (へ) ひつつい
て来て それん (それに) 毒な (が) あんねやろん
(有るのでしょう) ひつつけたると (てやると) どい
らい (大変) 大病ん (に) なって来て ぐあい (調
子) な (が) わりて (悪くて) 磯 (海女作業) も、よ
おしょおかい (出来ません) あがって 医者むいて
そらかさなはざん (走らなければいけません)。いそ

もぐさん (に) 刺されると あんで (あれで) 毒なのお (のが) あんねやろなあ (あるのでしょうか) 普通ののお (のは) 当たって (てしまつて) 手い ひつつけて来ても おとしよお (怖い) おもて (思つても、もお (藻、海藻) い (へ) こそげたと (拭つてやると) 取れてくんでや (取れて行くのです) その内で あんで わりのおな (悪いのが) あんねやろ (有るのでしょうか) 毒のあんのな (有るのが) それん (に) やられると 大病ん (に) なつてくね (なつて行くのです)。 そやもんで (それで) いそもぐさ おとし (怖い) おとし 思ひおつたね (思つて居たのです)。

ぼたもちがお (ぼたもちがを) (牡丹餅顔) 【名詞】 丸くて 柔らかそうな顔 [会話] 丸くとおて (丸くて) ふたふたしとんの (して居るのを)。“此のか (子は) よい子や (だ) ボタモチカオで きな粉つけたら なおよかる よいよい”。

ほたるぐさ 【名詞】 蛍草 つゆ草 ほおたるぐさ参照 (志 (鶴方、神明、国府)、鳥 (国崎 菅島)、鈴市、安、上、張、名、度、伊、南) [会話] ホタルグサ、言うな (のは) つゆ草、ほおたるぐさ 言うなあ (言います)、ほおたるぐさ 取て来い言うて、蛍言わんと (言わずに) ほおたる言うて。タ方ん (に) になると、麦藁持て ほおたる取りん (に) 行くねてや (行くのです) “ほおたる こおい 十年ぼ あつちの みいずはにいがいど こつちの みいずはああまいど 一杯のましよに とおんで来い” 言うてな 畔の上で うたいもてなあ (歌いながら)。

ほたる 【名詞】 蛍。ほおたる参照 (桑市、三、鈴郡、一、松、多、名、度、伊、南)

ぼたんざくら (牡丹桜) 【名詞】 八重桜 (志、鳥、松、伊) [会話] ボタンザクラ言うな (のは) うつくして (美しくて) ええ (よい) 桜や (です)。あや (あれは) ほかんのな (他ののが) 散ってから 咲いてくるもんなあ (来ます) ほんとん (本当に) すばらし (素晴らしい) けど (けれど)。

ぼたんづくり 【名詞】 魚をそのまま、切る時に少し斜に切る事 [会話] ボタンヅクリ言うな、ちよいと (少し) はすかい (斜) ん (に) すんのなあ (するので) す、むろ (むろ鰯) をぶつ切りん (に) すると、ちよいと (少し) ボタンヅクリん (に) せえまあ (しなさい) 言うて。

ぼたんゆき (牡丹雪) 【名詞】 綿をちぎったような雪 [会話] 雪でも ぼたん ぼたん言うて 降つてくん

の (来るのは) ボタンユキや (です)。

ぼち 【名詞】 穴 縦穴 (志 (布施田)) [会話] 穴の事をボチ、ボチほつとけ (掘っておけ)、穴掘つて なんやかや いける (埋めて 貯へる) のおでも (のでも) ボチ掘つて いけとけ (埋めておけ) 言うて。里芋や生姜いけんのん (いけるのに) 土堤腰のぬくたいとこ (暖かい所へ) ボチ掘つて、いけとけ 言うて。ボチい (へ) 足つつこんだると (突っ込んでやると) ボチコンダよお言うて、ボチコム 足 突っ込んだたり (でやったり) 落つてたり (行ったり) すんのを (するのを) 落つてた (て行つた) 言わんと (言わずに)、ボチコンダ言うて。だんボチ言うのも だんボチな (が) 有つて 飛び込んだよお言うて、どぼんと ふつかあい (深い) とこな (所が) 有るもんで (ので) だんボチ言おつたね (言つて居たのです)。

ぼちこむ 穴に落ちる 落ちこむ ぼち参照南、

ぼちこんでた 穴、海、川等に落ちた。ぼち参照

ぼちぼち 【副詞】 【形容詞】 そろそろ ぼつぼつ ゆっくりと時間をかける事 静かに 少しづつ (志 (布施田)) [会話] ボチボチ、そろそろ、そろそろいこ (行こう) 言うの (のを)、ボチボチいこや (行きましょう) 言うて、静かに行く事を そおろ そおろと 来いよお (来なさい) 言うの (のを) ボチボチ来いよお言うて。走るとこけるよつて (転ぶから) ボチボチ歩いて来いよおとか、ボチボチいけよお (行きなさい) とか。 早よ (早く) いこや (行きましょう) 言う時は ちゃつといこや 言うて、ちゃつと来いよお言うて、急いどらせん時や (急いでいない時は) ボチボチ出かきよか (出かけましょうか)、まだ時間は早いけど (が) ボチボチ出かけてこか (て行きましょうか) 言うて。

ほちゃほちゃ 【副詞】 1) 大切にまた、丁寧にするさまを表す語 2) 嬉しい [会話] ① ホチャホチャしとんね (しているのだ) まあ あや (あれ) あのか (あの子は)、嬉しいのおで (ので) ホチャホチャしとられ (している) 言うてなあ、あの家や (は) 嫁 貰うたら、(貰ったら) 嫁な (が) 気に入つたて (てしまつて) ホチャホチャ言うて、じょおく (いつも) 来とられ (来ている) 言うてなあ、嬉ぶ事を うれしがる事を ホチャホチャしとる (している)。

ほちゃほちゃする 仲よくする 特に男女。かわいがる (南) [会話] その家い (へ) 行て、(行つて) どおや (だ) こおや (だ) 言うてなあ、余計な事も言うたり、いろんな (いろいろな) 事言うのなあ (です)。

ホチャホチャしてまあ言うてなあ、大事にして まいすこいて (おべっか使って) 言う様な意味やなあ (です)。あやまあ (彼は) 始めよかれ 後わりかれ言うて あいなん (あんなのは) じっきん (すぐに) 飽な (が) くんねてや (来るのだ) 言うてなあ。

ほちゃめる 翻る [会話] なんやかや (いろいろ) ホチャメルよおん (に) すんのを (するのを)、幟な (が) 立つとても (ていても) 動いとるとなあ (ていると)。

ぼちらぼちら 【副詞】 1) 物を徐々に進めるさま または 始めるさまを表す語 2) 少しのものが実在するさまを表す語 ぼつらぼつら参照 [会話] 1) そろそろ言うのを、ぼつぼつとか、ボチラボチラとか。

ぼちんなる 一塊になる 餅になるの詛りか [会話] ひともち (一餅 一塊) ん (に) なつとる (なっている) かたまつとる (塊まっている) ことを、まるけた た (丸めてやった) よおん (ように) しとんのおを (しているのを) ポチンナル。

ほっかい (ほくかい) (北海) 【名詞】 北海道 北の海 [会話] 海のこんぶ (昆布) は ホッカイから来ると、土産ん (に) もろたり (貰ったり) しいよった (して居ました)。ホッカイ言うのは 北海道。

ほっかぶり 【名詞】 頬っぶり、ほおかぶりの転 手拭などで頭から両頬にかけて包み顎のあたりで結ぶ事 (志 (布施田、鶴方、神明、立神、甲賀、国府)、桑郡、一、鈴市、多、阿、張、度、伊、北、尾、南、熊) 2) 知らぬふりをする事 [会話] 1) 頬っぶり、じょおほお (両方) ええな (よいのは) ホッカブリばかや (ばかりです) 言うて。じょおほおの ほべた (頬) な (が) ぬくたいやんな (暖かいでしょう)、あの人もええし (よいし) 此の人もええし 言うよおん (に) じょお、じょおほお (両方) い (へ) よおしょお (よくしよう) 言うたら ホッカブリやなけな (でなければ) 言うて。かたつぽ (片一方) よおすや (よくすれば) かったぽ な (が) わりなる (悪くなる) するもんで (ので)、じょおほおええな (のは) ホッカブリばかやれ (ばかりだ) 言うて。

ほっかい 【副詞】 暖かい。温かいさま。

ぼっかん 【副詞】 ぼんやり (鈴市)

ほっき (発起) 【名詞】 あきらめる。投げ出す。発起 (思いついて事を始める) の転義 (志 (布施田))

ほつきまある (ほつきまはる) 【自ラ五】 あちらこちらをうろつく。うろつき廻る。ほつつきあるく。ほつつきまある参照

ぼっくり (木履) 【名詞】 木の底をくり抜いた女児の下駄 (熊)

ぼっくり 【副詞】 突然 [会話] まあ あのひた (人は)、ボックリ いたたなあ (行ってしまった) 言うて、急に死んでくとなあ (で行くと)、まあ、こなんだ (この間) しゃんしゃん歩いとたのん (ていたのに) ボックリ、いたたなあ (行ってしまった) 言うてなあ、突然死んでくと (で行くと)。

ぼっこ 【名詞】 ぼろ くず ぼろ布 古いもの 悪いもの (志 (浜島、布施田、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥 (鳥羽、国崎)、桑郡、員、三、四、鈴市、鈴郡、安、津、一、多、阿、度、伊、北) [会話] 着るもん (物) の破れとんの (て居るのを) ボッコ、なんでもふるう (古く) になると ボッコやなあ (だ) 言うて、ぼろやなあ言う人も有るし (有ります)。なんでもわりもんを (悪い物を) ぼろやなあ言う人も有るし、ボッコやなあ (だ) 言う人も有るし、古いもん (物) を言うたり 出来損いみたよな (のよう) 事したると (してやると) こしらへるもん (物) でも ボッコや (だ)。ボッコ屋 言うの (のが) ぼろを替へん (に) 来よおったわい (来て居ました)、めかご (目籠 目の荒い籠) にのて (担って) マッチや (とか) なんやかや ちよいとしたもん (僅かな物) 持って、すと (そうすると) ボッコよつけ (沢山) やっても マッチ一つ置いといて (ておいて) いたり (行ったり) すんの (するのです)。こやなんどお (此れはなんだ) 皆 ボッコやい (へ) やるよおなもん (物) ばっかやんかあ (ばかりだ) わりもん (悪い物) な (が) 有ると。屑屋を、ボッコやや (だ) 言うて、言よおったわい (言っていました)。ぼろ買いな (が) 来たらやんのん (やるのに) 言うて つね (平常) ちよいちよいと (少しづつ) まとめて しばって (束ねて) おいといて (置いておいて) こんで (此れで) ぼろ屋な (が) 来たら なんと (なにでも) かええ (交換しなさい) 言うと、おもさま (充分に 沢山) やっても マッチ一つか 付け木一束位より おいてかせんねけど (置いて行かないのだが) そんでも (それでも) ほつたろより (捨ててしまうよりも)、ほつたんのより (捨ててしまうのよりも) ぼろ買いん (に) やや (やれば) ええのん (よいのに) 言うて。ふるつぎ屋 (古布屋) 言うて ふるつぎ買いな (が) 来よおった (来て居ました)。船越や波切から来よおった。

ぼっかい 【形容詞】 古い。汚い。(久)

ほっこくのかみなり【名詞】 着た切り雀 いつも同じ物
を着ている きたなり (北鳴) に掛ける [会話] ホ
ックノカミナリや (だ) 言うて、一枚着たなり
(なり) で 代りな (が)、無いやんない、(でし
ょう) ホックノカミナリ、北で鳴るやんない (でし
ょう)、そやもんで (それで)、きたなりや (だ) 言うて、
着替えな (が) 無いの (のを)、一枚しか (より) 無
いのを ホックノカミナリで おらまあ (俺は) 此
れ一枚や (だ) 言うて。きたなりや (だ) 一枚しか
(より) 無い言う意味や (です)。

ぼっこせえ【名詞】 粗悪品 [会話] こや (これは) ま
あ わりなつてたれ (悪くなくていった)、いたんで
たれ (傷んでいった) 言うのをなあ こや まあ、ぼ
っこ (ぼろ) やれ (だ) 言うてなあ、おらげや (俺の
家は) なんも (少しも)、ええもん (よいもの) な
(が) 無いし、ぼっこばっかやれ (ばかりだ) 言うて
なあ、ボッコセエ言うのも、わりなつてた (悪くな
って行った)、こや (これは) まあ、ボッコセエやれ
(だ) 言うてなあ、間に合わん (役に立たない) もん
(物) をなあ。

ぼっこたび【名詞】 古い足袋 (松) [会話] ボッコタビ
言うと、破れた足袋やわいなあ (です)、わらんじか
け んも (にも) ならせん (ならない) 言うてなあ。
足袋な (が) 破れて来るとなあ、畑い (へ) 履くのを
わらんじかけんしや (にすれば) ええわれ (よろし
い) 言うてなあ。わらんじ足袋やれ (だ) まあ、こや
(これは) 言うて、破れて、糞ん (に) なつとんのを
なあ (なっているのを)、上だけあんの (有るのを)、
畑い (へ) 行くのんなあ (に)、畑い (に) 行く足袋
や (だ) 言うて、草履 履くねもんで (ので) 足袋の
ふるて (古い物) を破れて、ぼろぼろん (に) なる迄
履いて、かかるとこな (所が) 上だけより無いのを
畑い履くね (履くのです)。

ぼっこつぎ【名詞】 古布 古い物を修理する (阿)

ぼっこや【名詞】 くず屋 ぼっこ参照 (志 (船越))

ほっこら【副詞】 暖かいさまをあらわす語 ほっこりに
同じ [会話] ほこほこ しとられ (している) ぬく
とおて (暖かくて)、ホッコラしとる (している) 言
うてなあ。

ほっこり【副詞】 暖かいさま (阿、張) 2) 感心するさ
ま [会話] 2) ホッコリしやせん (しない) 言うんか
い (言うのですか)、あんまり (あまり) ええないと
最後 (よく無い時) ホッコリ しやせんなあ 言うや
んかい (言います)。病気でも治りのくいと (治りぬ

くいと) よおなつて来たか (よくなって来ましたか)
言うと、あんまり ホッコリ しやせんねてや (しな
いのです) 言うて、長びいて だらだら しとると
(して居ると)。しなもん (品物) でも、わりと (悪
いと) こや (此れは) なんやら (なにか) ホッコリし
やせんなあ言うて、そげな時ん (そんな時に) 言うや
んかい (言います)。1) ひなたぼっこ (日光浴) して
ホッコリしとる (して居る) とか ぬくたい (暖か
い) とか そいな時も (そんな時も) ホッコリと、ぬ
くたいなあ 言うて。ホッコリして ぬくたいわれ
(暖かだ) 此の綿入れ こしらえたや (作ったら) 言
うて そいな (そんな) 時も言う時な有るなあ (が有
ります)。ホッコリしやせん言う事は あんまり え
え (よい) 事無い言うの (ので)。ながびいとて (て
居て) ホッコリしやせんので (しないので) 言うて、
ホッコリしやせんねてや 言うて。品物でも、気に入
らんと、わりもんは (悪い物は) ホッコリしやせん
なあ いなんなあ (要りません) 言うて。

ぼっこり【名詞】 女兒の履く下駄 木履 ぼっくり参照
(多) [会話] ボッコリ下駄。こつぽり下駄言うの
(のです) 芸者な (が) 履くの (のを)、あいなの
(あんなのを) 履く子ら そげん (そんなに) よけ
(多く) 無かつて、ええ家 (よい家) の子供らな
(が) 履きおったけど (履いていたが)、一般のもん
ら (者は) こつぽり下駄よお買おて貰おかい、(買っ
て貰へません) かつぽかつぽ言うて こつぽり下駄、
履いてしとると (していると) どいらい (大変) けな
りかつた (うらやましかった)。

ほっこりしやせん。ほっこりせん 思わしくない 感心
しない (志 (浜島、布施田、鶴方、神明、立神、志島、
甲賀、国府、安乗)、名、度) [会話] どっと しや
せん (しない)。こや (此れは) がいい (たいして)
まあ ホッコリシヤセン とか、どっとしやせん 言
うて、感心しない事を 言うのな (言うのです)。ほ
っこりする、せん 言うな (のは) 一緒や (です)。
ほっこら あんまり (あまり、充分に) ホッコリシヤ
セン 言うのなあ (言います)。あんまり (あまり)
ええ (よい) 事無いとか 充分 気に入らん 言う事
をなあ ホッコリシヤセン言う (言うのです)。病人
なつちやら (何とか) 有る言うな (言うが) ええかい
(よろしいか)。あんまり (あまり) ホッコリセン
(しない) ふう (様子) やなあ (です) 言うて。ええ
くち (良い方向) 見せとらんと (て居ないと) ホッコ
リシヤセンなあ 言うて よお (よく) 言うんなあ

(言います)。

ぼっこんなる 使い物にならなくなる。古くなる。

ぼっさい【形容詞】汚い。むさくるしい。

ぼっさい【形容詞】細い(志(神明、国府)、鳥(相差、桃取、国崎)、一、度、伊、北、南)

ぼっそおい【形容詞】細い[会話] ホッソオイ言う時は ぼっそいの(細いのです)、まあ痩せて痩せてあのおなが、(女は)ホッソオ なつとられ(なっている)言うてなあ、おおた 足もホッソオオテ(細くて) いたわし(痛々しい) よおななあ(だ)、へしょれてく(折れて行く) よおな 足やれ(だ)言うてなあ。

ぼっそおお 細く[会話] 物凄(く) ぼっそい(細い)のを ホッソオオイ言うねやんかい(言うのです)、ちょいと(少し) ぼっそい(細い) な(のは) ぼっそいなあ(細い)、言うだけやけどなあ(だが)、どいらい(大変) ぼっそい(細い)となあ、ホッソオオイナ、こや(これは)言うてなあ、おた、あの人の足な(が) いたわしよおな(痛々しいようだ)ホッソオオテ、へし折れてくよおな(て行くようだ) 足やわ(だ)言うてなあ。

ぼっそおて 細くて

ぼっそら。ぼっそり【副詞】細くてすらりとしたさま[会話] ホッソリとええ格好やなあ言うてなあ、ちょいと やっしやりして 品のええ(よい)人をなあ、ホッソラと、がいな(大変) かつこ(格好)のええ人やなあ。ホッソラ言うたり ホッソリ言うたり、かつこのええ事なあ、ぼっそなりな(細くなった様子が)ええのを、ホッソリとかつこな ええなあ 言うてなあ。

ぼった 捨てた。放った。(三)

ぼったたよおん 投げ捨てた様に、意に介さず簡単に。

ぼったて 捨ててしまつて。

ぼったてる【他タ下一】立てる 上にする(志(布施田))[会話] 尻 ホッタテル、頭 下ん(に)して尻 ほやげて(ほりあげて) しとんね(して居るので)。

ぼったや 捨てたら、放ったら。

ぼったや そうしたら(安、上、阿、北)

ぼったらかし【名詞】放任 捨ててかへり見ない 面倒を見ないで放置しておく(志(浜島、布施田、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗))[会話] なんもかも(すべて) ホッタラカシん(に)して 雑把(丁寧さが無い) ねよって(のだから)言うのも有る

し 子供らでも 守(子守)もつけんと(つけずに) ホッタラカシん(に)して 育てる家な(が)有ると、あの家や(は) ほん(本当に) こお(子供) な(が) 大勢やよってん(だから) もや(子守は)無いし ホッチラカシやなあ(だ)言うて。ホッタラカシやなあ(だ)とか ホッチラカシて なんもかも 雑把なね よってん 言うて しなもん(品物)でも そこらん(に) 広げさがしとると(散らばして居ると) ホッチラカシて、此れも えごと(立派に) 片付けときや(ておけば) ええけど(よいのに) 言うて 年寄の人 な(が) ぼえぼえ(不満) 言うのなあ(のです)。ホッタラカスも ホッチラカスも一緒や(です)。とんじやくせんと(気を配らずに) 其処ら一杯 広げとる(て居る) 言う事を、ホッチラカシて。〇〇屋でも 子らら(子供達) 大勢やもんで(なので) ホッチラカシて なんやてて(なんとしても) はだしか(裸足)で来てな(は) 家ん(の) 中 い はいってき(入って行き) そやけど(しかし) 〇〇爺やんな(が) こむし(子供好き) やもんで(なので) 世話して(面倒みて)、昼来ると こららな(子供達が) 何処も彼も だっぴだんろくん(に) しとんね(して居るのです)。〇〇爺やんな(が) 役場から来ると その だっぴだんろくを ごんぞせかいて(一生懸命になって) 世話しよおつて(して居て) そんでも(それでも) 皆 じつぱん(立派に) 育て、ほんとん(本当に) あの家の子ら、ホッチラカシて。だっぴだんろく言うな(のは) そこらい(へ) 広げて なんやら(何か) 判らんよおん(に) しとんのおを(して居るのを) だっぴだんろく。

ぼったらかす【他サ五】気をつけたり、手を加えたりしないで、そのままにしておく ほうりばなしにしておく ぼったらかす(ハフリチラカスの略転)の転(志(鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、安)[会話] ほかしとけ言う人も有るし、ホッタラカシトケ言う人も有るわい。

ぼったらんかい。ぼったらんかな(女性語)。**ぼったらんかれ** 捨ててしまいなさい 捨てなさい[会話] そげな(そんな) もん(物) 置いとかんと(ておかずに) ホッランカレ。

ぼったり【副詞】困った 疲れた うんざり(志(鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥、松、一、伊、北)[会話] ああ今日は、ホッたりした、くたばった(疲れた) 言うのをなあ、まあ仕事な(が) しのくうて、(しにくくて) おら(俺は) ホッたりしたれ

(しました) 言うて、困った言う時ん (に) ホツタリ
したれ (した) まあ、言うて。

ほったり【副詞】 1) 物の落ちる様。 2) 重いさま。

ほったりした 1) 困った事をやりとげて安心した
2) 疲れた 困った (志 (布施田)) 3) 嫌になった。
[会話] 3) ホツタリスル よおななあ (だ) 言うて、
おおた 此れ しょお (する) 事なら、ホツタリスル
ヨオななあ (だ) 言うて、見ただけで ホツタリスル
ナア (する) 言うて えらい (大変な) 仕事やろ (だ
ろう) 思うもんでなあ (ので)。

ほったりする 苦労する。困る。(志 (鶴方、神明、立
神、志島、甲賀、国府、安乗)、度、鳥 (鳥羽)、北)

ほつたる【動詞】 捨てる (志 (浜島、布施田、鶴方、神
明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥 (坂手)、桑
市、鈴市、津、安、一、久、松、度、伊、北、熊)
[会話] 捨てたんのを (てやるのを) こいなまん (此
んな物は) いなんのん (いらないのに) ホツタレ (捨
ててやれ) 言うて。捨てんのおを (捨てるのを) ホッ
タル。子供らの時なら、そげなもん (そんな物は) ぼ
おしたれ 言うんなし (言うのですし) 大人はホッタ
レまあ そげなもん (そんな物) 言うて、捨てたる
(てやる) 事を そげなもん 置いとかんと (て置か
ずに) ホツランカレ (捨ててしまいなさい)。

ほつたれ【動詞】 すててしまえ [会話] あの人 のく
いさし (たべ残り) 汚たのおて (なくて) ホツタレ。

ほつたろ 1) 捨ててしまえ。 2) 捨てます。

ほつたろか 1) 捨てようか 2) 投げようか

ほつたろかあ 1) 捨てるぞ、捨ててしまうぞ 2) 投
げてやろうか

ほつたんね。ほつたんねない 捨ててしまいます 捨て
ます [会話] 要らんかあ (要りませんか) 言うな
(のは) 目下のもん (者) になあ (です)、こや (此
れは) いなんかあ (要りませんか)、ホッタンネナイ
言うて。

ほつちよ (包丁)。ほつちよお (ほうちょう)【名詞】 ほう
ちょう 料理に使う刃物、包丁は莊士に出て来る料
理人の名で、もとは料理をする人の事で有ったが、転
じて料理をする事を呼ぶようになり、更に肉、菜を料
理する包丁刀を呼ぶようになった でば、うすば ほ
つちよに分ける ほつちよは普通出刃と薄刃の中間の
もので刺身包丁、肉切包丁等柔い魚獣肉の調理に使用
する。(志摩市全域、鳥、度、伊、尾、南、熊) [会
話] 魚 こしらへる (料理する) ホツチョ、包丁の
事をホツチョ 鳥も ホツチョふてた (失った) 言う

鳥な (が) 有るわい (有ります)。どいらい (大変)
上手ん (に) しんがつ (四月) 麦 刈るよおん (に)
なると、ホツチョふてた ホツチョふてた言うて あ
や (あれは) なつと (なんと) 言う鳥かいなあ (でし
ょうか)。ホツチョふてた ホツチョふてた言うて
麦 刈つとると (て居ると) あつとなつて (あつくな
つて) 来て つらまし (つらい) おもて (思つて)、
麦の穂 ちょんな首 ん (に) なつとると (なつて居
ると) 鎌の柄 つばき (唾) つけて あっちゃい (あ
ちらへ) まあり (廻り) こっちゃい (此処らへ) まあ
り しとると (して居ると) ホツチョふてた言うて
あんな (あれが) 鳴いてきよおつたなあ (来ました)。

ほつちらかし 1) 投げ散らす 取り散らす 又散乱さ
せたまゝ放置する ほつちらかし参照 (北) 2) 相手
にならない。

ほつちらかす【他サ五】 散らばす 乱雑にしている 投
げ散らす 取り散らす ハフリチラカスの略転 (大言
海) (志 (鶴方、神明、志島、国府)、鈴市、安、阿、
張、名、北、尾、南)

ほつちらばす 取り散らしている [会話] ええもん
(よい物) を ざつぱ (粗略) ん (に) すると ホッ
チラバシたりすると、丁寧にせえまあ (しなさい) こ
いな (こんな) だだくさな (粗雑な) 事せんと (せず
に)。

ほつつきあるく【自カ五】 歩きまわる あちらこちら歩
き廻る うろつく 追いかけまわす。ほつつきまある
に同じ。ホツキアルクの転 (大言海) [会話] そこら
(其の辺り) うろうろと、どこん (に) なんな (なに
が) ないかいなあ (無いか 有るか) 言うて 探すよ
ん (ように) して歩くのをホツキアルク 言うね (言
うのです)。そして (そおして) 男らな (が) おなご
ん (女に) つきやあるくと (付き歩くと)、あれん
(彼女に) ホツキアルイテ言うて おなご の尻
(後) つきやあるくと (付きまわすと)。何かを求め
るよおん (に) して歩いとんのおを (て居るのを) ホ
ツキアルク。そして言うと (例えると) てくさい
(手嗅い 盗む) よおな人な (が) 歩るいとんのおを
(て居るのを) 言うんやろなあ (言うのでしょうか) な
んか (何か) そこらん (に) 目ばしいもん (物) な
(が) 無いかいなあ (無いだろうか) おもて (思つ
て) あつちや (あちら) 見い、こつちや (こちら) 見
いして しとんのを (して居るのを) あや (彼は) こ
ごごと こつきまあしとる てやら (とか) 言うて
ごごと なんさがすんやかなあ (何を探すのだろ

うか) 言うて。こごこごと言うのは こまごまと あ
つちや (あちら) 見い、こつちや (こちら) 見い 目
こぼんのを (配るのを) こごこごととして言うて、あつ
ちや見い こつちや見い こごこごと ホツツキアル
イとる (て居る) 言うて。

ほつつきまあす【自サ五】 当もなく あちこち歩く。う
ろつく。つきまとう。[会話] あつちや、こつちや
(あちらこちら) うろうろとす (る) のもなあ。あ
つちやこつちや うろうろと ホツツキマアシテ 邪
魔ん (に) なんのん (なるのに) 言うて。尻、ホツツ
キマアシテ やらし (嫌らしい) 言うて、あちらへ追
え つきやあるいとると (付きまわしていると) 惚れ
とる人な (が) 有ると、ちょいと (少し) 行くとこい
もなあ (所へも) つきやあるいて ホツツキマアシテ
好かんなあ (嫌だ)、いやらし (嫌やらしい) よおな
人やなあ (だ) 言うてな。

ほつつきまある (ほつつきまわる、ほつつきまはる)

【自ラ五】 あてもなくあちこち歩く うろつき廻る
[会話] ホツツキマアル言うのも ほつつきまあす言
うのも 一緒にの事や (です)。

ほつてり【副詞】 1) 太っているさま 2) 腫れている
さま。

ほつといて 1) いらぬお世話だ 無関係にしておいて
くれ (鈴市、安、上、阿) 2) 捨てておいて下さい
[会話] 1) いなん (要らぬ) 世話やかんと (やかず
に) ホットイテ、わしら (私) のこた (事は) 言う時
も有るしなあ、世話やいてくれんな (くれるな)、世
話やいていなん (要らん) 言うのを、ホットイテ言
てなあ。いなん (要らぬ) 世話や (だ) ホットイテ言
うて 喧嘩すると、いなん世話や 言うて。

ほつといて 相手にならないで、世話をしなくて、ほつ
とくに同じ。

ほつときや すてておけば [会話] なんも (何も) だ
いじかれ (大事でない・構わない) ホットキャええん
ない (よろしい)。

ほつとく 捨てておく 面倒を見ない (志 (布施田、鶴
方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗) 鳥、(加
茂)、員、鈴郡、鈴市、安、一、上、阿、張、名、北、
南、熊) [会話] 物をほつたる (てやる) ホットク言
うて 要らんもん (物) そこら (へ) ほつたれ (て
やれ) とか、ほつとけ (ておけ)、そこら (其の辺
に) ほつといても (ておいても) ええわれ (よろし
い) そいなもの (そんな物は) 言う時も有る。

ほつとけ 捨てておけ 面倒を見るな [会話] あいな

(あんな) もん (者) のこた (事は) 世話やかんと
(せずに) ホットケ。

ほつとけさん【名詞】 仏様 (上、阿)

ほつとけやせん 放って置けない。世話をしなければい
けない。

ほつとこん 1) 捨てておきましょう。2) 世話をしな
いでおきます。面倒を見ない。

ほつとした。ほつとしたない。ほつとしたれ。 安心した
気が落ちついた [会話] あんな (彼が) 嫁 もおて
(貰らつて) ホットシタレ言うて。安心して、あゝ楽
や (だ) 思う時ん (に)。

ほつとする 安心する [会話] ホットスル言うな (の
は) 安心する言う事やけど (です)、あんな (彼が)
嫁ももろたし (貰ったし) ホットシタレ (しました)
言うやんかい (言います)。安心して あゝ楽や
(だ) 思う時ん (に) ホットスル あい らも (彼等
も) 貰うもな (者は) 貰わせな (せなければ) はざ
ん (いけない) おもて (思つて) 気に掛つとたのん
(て居たのに) 嫁ももろたし、しんしよ (財産) も渡
したし、まあ (もう) ホットシタレ 言うて。安心す
るとか、気が晴れるときん (時に) ホットスル。

ほつとて (放) 1) 捨てて居て。2) 世話をしなくて。
面倒を見なくて。

ほつとて (掘) 掘っていて。

ほつとる (放) 1) 捨てて居る 2) 面倒を見ないで居
る [会話] 1) ほらくりさんぼ (散らばしている)
ん (に) して言うて、ホットルことを。

ほつとる (掘) 掘って居る。井戸ホットル

**ほつとるやんかい。ほつとるやんかな (女性語)。ほつ
とるやんかれ** 1) 捨てて居るでないか。捨てていま
す。2) 掘って居るでないか。掘っています。

ほつとるやんない 1) 捨てて居るでしょう 2) 投げ
ているでしょう 3) 掘って居るでしょう

ほつとろん 1) 捨てて居ましょう 2) 掘って居まし
ょう (志)

ほつばれ。ほつばれかぜ【名詞】 お多福風邪 耳下腺炎
(志 (布施田、鶴方、神明、立神、志島)、北、南)

[会話] ホッパレカゼ言うて よお (よく) はれて来
るやんかい (来ます)。おたふくかぜの事を ホッパ
レや (だ) 言うて、頬な (が) はれて来るもんで (の
で) ホッパレ はやりもん (流行性のもの) かい なあ
(でしょうか)。子供らのやく (厄 役) しなければ
ならないもの みたよな (のような) もんやんかい
(ものです) ほおそ (天然痘 種痘) やとか (だと

か) ホッパレやとか みずぼおそ (水痘) やとか はしか (麻疹) やとか。

ほっぺ。 **ほっぺた** 【名詞】 頬っぺ ほっぺた ほうべたの転 頬のあたりホホベタ (頬辺) の音便 (大言海) (鳥 (答志)) [会話] うもおて (美味くて) ホッペな (が) 落ちるよおな (ようだ)、ホッペタ な (が) おってく (落ちて行く) よおな 言うて。ほべた ホッペタ ほべたの事 ホッペタ。ホッペだけでもええし (よいし) 此処らの人ら (は) ほべたや (だ) 言うて ほべたな (が) ちぎれてくよおな (て行くようだ) つめとおて (冷たくて)。

ほっぺたかぜ 【名詞】 お多福風邪 流行性耳下腺炎 ほっぺたかぜ参照 (南)

ほっぼ 【名詞】 ふくろう 梟 (志 (国府、布施田)) [会話] ホッポドリな (が) 鳴いて来た言うて。今しゃ (今は) ホッポな (が) 鳴くの聞かせんけど (聞かないが)、昔や (は) 此の山でじょつく (いつも)、とおしん (いつも) ほおほっぼ言うて 鳴きおったんなあ (鳴いて居たのです)。ホッポ ホッポ言うて 朝鳴く時も有るし、なっっちゃらすと (なんとかすると時として) 後で、ごろつきとおせ 言う時も有るし (有ります)。朝はそんな (それが) 鳴いて来ると網掛けい (へ) 行く人らは、起きな (なければ) はざんのおで (いけないので) 言うて 時計のくらいや (です)。“じやまのホッポが鳴いて来た じいじもばあばも早よ起きよ” 言うて 夜明ん (に) になると、ホッポな (が) 鳴いて来るもんで (ので) ホッポな鳴いて来ると、夜明や (だ) 言うて、網掛けはそれをまとんして (的にして 目標にして) 網かけん (に) 出よおった (出て居ました)。網かけや (は) それ合図ん (に) 起きて行きおった。時計も無いし 昔や (は) そやもんで (それで) ホッポ相手ん (に) 朝、ホッポな (が) 鳴いて来たよってん (から) まあ (もう) 夜明やなあ (だ) 言うて 星 見たり。

ぼっぼ 【名詞】 1) 懐 転じてポケット 2) 他人の物を自分の懐に入れる事 盗み くすねる 横領 [会話] 1) ポッポ言うの (のです)。ポッポい (へ) 入れとけ (ておけ) 言うて。上げよ 下げよ ポッポい (へ) 入れよ言うて こらな (子供が) 言よおったやんかい (言って居たで有りませんか)。てえ (手) も 冷とお (たく) 子供らな (が) して来るやんない (でしょう)。早よ (く) ポッポい 入れてくよん (くれよう) 言うて 帯 解いて 懐い (へ) 入れて くれよおった (くれて居ました)。冷めとおて (たく

て) まいきんのを (飛び上るのを) 子供らな (が) かねこり ん (に) なっとんのを (て居るのを)。今し (今) みたよん (のように) 炬燵あ (は) 無いし 乳飲ますのん (に)、裸で 子 抱きしめて その手ぬくとめてくよん (温めてあげよう) ポッポい (へ) 抱いてくよん 言うて。懐 ポッポや (だ) 言うて。2) ポッポしとこ (しておこう) ポッポしとて (して居て) なんかも あや (彼は) わがと (自分) ポッポして言うて 猫ばばする事なあ (を) ポッポしてあや (あれ) 言うて。

ぼっぼいいれる 1) 盗む 2) 上前をはねる (南) 3) 懐に入れる [会話] 3) 懐い (に) 入れる ポッポイ (へ) イレトケ (ておけ) 言うてなあ、子供らん (に) ぼっぼい隠しとけ とかなあ、てえ (手) な (が) 冷たいと だれ (どれ) ポッポエ イレトクヨ ン (くれましよう) 言うてな。1) ポッポイイレル言うので やって (盗んで) 来た言うのも 人ん (のの) のを、とて (盗んで) 来ると あや (彼は) ポッポイレタんなあ (のだ) 言うてなあ。

ほっぼこだに 【名詞】 1) 人里離れた山峡 2) 周囲を囲まれている所 すっぽこだに参照 [会話] 2) 落ちこんで かこて (囲って) ほこほこと ぬきたい (温かい) ほらあな みたいん (のように) しとる (している) とこを (所を) ホッポコダニ。

ぼっぼする 他人のものを自分の懐ころに入れること かくれて人の物を盗ること 猫糞すること [会話] ポッポスル言うのも 一緒やわいなあ (です) ぼっぼい入れる言うのも ぬすで (盗んで) 来た。

ほっぼどり 【名詞】 梟 ほっぼ参照 (志、鳥 (国崎)) [会話] のりつけほおせんの事、ホッポドリな (です)。のりつけほおせん言うて あん (あれが) 鳴くと、日和 (天気) な (が) ええもんで (よいので)、糊付けて干せ言う知らせやよってん (だから)、のりつけほおせんな (が) 鳴いたよってん (から)、今日は天気やどお (だぞ) 言うやんない (言うでしょう)。

ぼっぼらぼっぼら。 **ぼっぼらぼっぼら** 【副詞】 ぼっぼつ 物事が少しづつ行なわれて行くさま [会話] そろそろ言うのを ポツラポツラ ポチラポチラとか、八十婆さん豆つむ (噛む) よおに ポツラポツラと言うて ぼちぼち言うのな (のを) ポツラポツラと言うて。

ぼっぼりぼっぼり 【副詞】 雨の降り始め。

ほつれ 【名詞】 解けた所。破れた所。

ほつれとる。 **ほつれる** (解れる) 【自ラ下ー】 結び目や縫い目が解けてゆるむ ほどける [会話] ホツレル

言うやんかい (言います)。綻びてく (て行く)、はずれてくんのを (来るのを) ホツレトルよって (から) かがつとかな (修理しておかなければ) はざんわれ (いけない) 言うて。髪のはつれは枕のとが言うて なんやかや ぺらぺらしとると (して居ると) ホツレトルよって (から) かがつとけとか 結んどけ (で受け) とか言うて。さばけたり ほどけたりすんのを (するのを) ホツレトル。縫い目がはずれて来たり、帯の結んであんのが (有るのが) 解けかけたり はずれて来た 解けた言うの (の) を) ホツレトル。

ほて【名詞】 はちびき ハチビキ科の海魚。体は延長した紡錘形で、やや側扁し櫛鱗で覆われる。両顎の先端近くに、微小歯が有る。体長 50cm に達し、背面が暗赤色で腹部は淡い。(志)

ほて【接統詞】 そうして (志、三、鈴市、安、一、阿、度、伊)

ぼて (棒手)【名詞】 ぼてうり。棒手振り ぼてふり 魚や野菜などを天秤棒でかつぎ、賣り声をあげながら 賣り歩く事 又その人 ぼてかつぎ ぼうてふり (志 (浜島)、南、熊) [会話] 魚のボテ、魚屋はにのて (担って) 賣りん (に) 来たり、車で、魚や (だ) 魚や (だ) 言うてくんの (来るのを) ボテや (と) 言うて。くだもん (果物) やどけでも (なども) ボテやみたよん (のように) して 賣りん (に) きよおったもんなあ (来て居たで有りませんか)。蜜柑やなんや (なにか) 立神の人な (が) とみかん (蜜柑) を賣りんきよおったやんかい (来て居たものです)。そして、うずきち (蜜柑) せだ (布施田) の人らな (が) ふご (畚) でにのて (担って) 賣りん (に) きよおったわい (来て居ました)。せだは、やしき (土地) な (が) 広いもんで (ので) 蜜柑のきい (木) しとて (植へて居て) そんな (それが) 皆 うずきち言うて 毛穴な (が) ふっかあい (深い) のなあ (のです)。とみかん言うな (のは) 今しの (今の) ネーブルによ お似とんねけど (よく似て居るのだが) ネーブルより ちよいと (少し) 味な (が) 落ちんねてや (落ちるのです)。ネーブルは、ちっちゃあい (小さい) こお (子) な (が) 有るやんない (でしょう) 出臍な (が) 出来とるやんない。とみかんは すべすべ (滑に) なつとて (なつて居て) なんも (何も) 無いねけど (無いのですが)。そして 味もネーブルと 又ちよいと 違うんでや (違うのです)。甘味な (が) 足らんの (足らないのです)、すいの (酸いのです)。そやけど (それだが) それやなけな (でなければ) ネ

ーブル言うよおなのおわ (のは) ねだこおて (値高かくて 高価で)、して (そうして) とみかんは、蜜柑な (が) 無いよん (ように) なつてくと (なつて行く) と) その後い (へ) とみかん (が) 出て来て それを こおて (買って) よお喰いおった (よく食べて居ました)。

ぼてかご【名詞】 ぼてが荷を入れる籠 (三重県全域)

ぼてふり【名詞】 魚の行商人 ぼてに同じ。ぼうてふり。 ぼていふり (棒手振) の訛。(志、南、熊)

ぼてや【名詞】 魚の行商人 ぼてに同じ ぼてふり (志) [会話] ボテヤ、担い売りん (の) のおを (のを)。籠でにのて (担って)、鰯、皿ん (に) 一杯十円 言うてなあ。爺 十円な (の) のも、多いわい (多いです) ま、五円でええわい (よろしい) ま、今日は安いでえ (安いです) 言うてな。

ぼてりん【名詞】 1) 火の温かみ (上、阿) 2) 雷光。稲光。[会話] 2) 山な (が) ホテルよって (から) こや まあ やまげやどお (だぞ) 言うて、稲光りな (が) するやんない (でしょう)、それを 山な (が) ホテル あやれ (あれ) 光ったどお (ぞ) 言うて あれをなあ 山な ホテルよってん やまげで 上日やどお、あした (だぞ、明日) 言うて、びかびか光るのおを (のを) ほとって来たれ言うて 光るのおを ホテル 言うて。1) 顔もぼかぼかと ホテッテ、あっこお (赤く) なつて 気色な (が) わりねお (悪いのだ) 言うて 気持な (が) わり (悪い) 時な (が) あんなあ (有ります)、あんまり (あまり) 顔な (が) ホテルと。ひい (火) の ぬくたみ (温かさ) も まだホテリな (が) 有るさけんなあ (から) 言うて、ぬくたみ (温かさ) な (が) 有ると。

ぼてりん【名詞】 1) 妊婦 (鈴市、安) 2) 腹の大きいこと。

ほてる (火照る)【自ラ五】 顔や体が熱くなる ホテル (火照) 義。ホトル (ホトホル (熱) の略) (志 (鶴方)、鳥 (鳥羽)) [会話] 顔な (が) ホテル言うて。今日なんやら (なにか) どいらい (大変) 顔な (が) ホテンネヨオ (ほてります) 言うて、ホテル時な (が) 有りおった (有りました)。さいら (秋刃魚) 喰うと よお (よく) 顔な (が) ホテッテ来るやんかい (来ます)。熱な (が) すんのなあ (するのです) どいらい 気持な (が) わりもんや (悪いものです)。昔や (は) 顔な (が) よお ホテル言うて 真つか (赤) ん (に) なつて どいらい 気持な (が) わりいて (悪くて) 顔な (が) ホトルと。耳な (が) ホテ

ル時も 有りおったやんかい、耳な (が) ぼおぼと燃える時な (が)。耳な (が) ホテル言うて ホトル言わんと (言はずに) ホテル。

ほてる【名詞】 稲妻。雷光。ほてり参照 (志 (片田、布施田、畔名、志島、甲賀)、鳥 (国崎)、北、尾)

ぼてれん【名詞】 1) 膨れる事 2) 妊娠 妊婦 (員、上、阿) [会話] ₁₎ ボテレン言うな (のは) ぼてんみたよん (のように) して はれてくんのを (来るのを) ボテレン言うやんかい (言うのです)。なんでも (なにでも) 洩でも ぷうとふくらまして しやぼん玉みたよん してくんのを (来るのを)。洩で ぼてんこさへて (作って) 言うて、どいらい (大変) ふくれとんの (て居るのを) ぼてんや (だ) 言うて。₂₎ あやれ (あれ) ボテレンになつとられ (なつて居る) 言うて。はらみど (妊婦) な (が) 大きな腹しとると (して居ると) ボテレンみたよな (のような) 腹して 双子やねえんかいなあ (だ ないのか) 言うて、腹なおっきいと (大きいと) ボテレン 言うて。

ぼてん【名詞】 1) 活きた魚類を活かしておく大きい丸い竹籠 魚の種類によって大小有り (志 (浜島、甲賀、安乗) 2) 大きく膨れるさま 3) 妊娠 妊婦 (志 (甲賀)、員、上、阿) [会話] ₁₎ ボテン言うて、大きなおな (のが) 有りおったやんかい (有ったで有りませんか)。魚 活けんのお (活けるのです)。口な (が) ちっちゃおて (小さくて) 腹な (が) 張って 浦 (浦海) ん (に) 浮けて有る。竹で編んで うなぎ籠 みたよな (のような) おっきいの (大きいのです)。鰯 活けんのん (活けるのに) それ しよおつて (して居て)。鰯な (が) あがると (鰯を取り出すと) 上げて来て (海から引き揚げて) ころばかしとると (転がせておくと) こららな (子供達) それん (の) 中い (へ) 入って遊びおったんなあ (遊んで居ました)、ころびやあるいて (転び廻って)。

ほと【接統詞】 すると (阿、度、伊) [会話] だんなし (旦那衆) みたいな (のような) 人は たいそな (大層) 言うし、ホト一般のもん (者) は どいらい (大変な) ごっつお (御馳走) やなあ (だ) 言うし。

ほど【程】。ほどほど (志) **【名詞】** 量や程度が丁度よい加減で有るさま [会話] ホドホド言うのなあ (言います)。たいがいん (その程度 おおよそに) しとけ (しておけ) 言うのなあ (のを)、ホドホドにしとけ 言うて。そげな事ばっか (そんな事ばかり) 言うたり (言ったり) したりして たいがい ん (に)、ホド ホドん (に) しとけまあ (しておきなさい) 言うて。

くどお (くどく) 言うて、ホドホドん (に) しとけ (しておけ) 言うて、仕事でも してばっかおらんと (してばかりいずに) ホドホドん (に) せえまあ (しなさい) 言うて ホドホドん (に) して やすもや (休みましょう) 言うて。馬鹿でえねえ (丁寧) にしとる (している) にげ (人間) な (が) 有ると あんまり (あまり) そげん (そんなに) 馬鹿でえねえ にしとらんと (して居なくて) ホドホドん (に) しとかんかい (しておきなさい)、そげんしとたら (そんなにして居たら) いつやら (か) 判ろかい (判りません) 言うて。そげん お前 しちむつかし (面倒な) 事 しとたら いつやら (何時か) 判ろかい ホドホドん (に) して せな (しなければ) はざんわい (いけません) 言うて。ホドホドん (に) しとけ たいがい にしとけ 言うて えっころかげん (いい加減) な事ばっか (ばかり) 言うとらんと (言っていずに) ホドホドん (に) しとけ 言うて。

ほどき【名詞】 程 程度を表す (少ない方の) (伊) [会話] ホドキ、それホドキも無いけど (が) 言うて それ程も無いけど 言うのを、ホドキ言う。自慢したりする時ん (に) それホドキものおておつて (無いのに) あいな (あんな) おっきい (大きい) 事 言うて やら (とか) 言う時も 使うやんかい (使います)。

ほときさん【名詞】 佛さま (志 (浜島)、員、三、鈴市、松、多、上、阿、張、名、度)

ほどく【解】 **【他カ五】** 解く。結んだ物を元にする。ひもとく (紐解) の約 (大言海)

ぼとくさ【名詞】 しまでんぐさ 天草科の海藻、体は円柱状、小枝の極めて細く、多く、両縁から出る、質は軟骨質で硬い。低潮線附近の岩上に多い。

ほとくさん【名詞】 佛様 ほとけ (志、鳥 (浦村)、上、阿、張) [会話] 佛さんの事、ホトクサンへ せんこ (線香) も焚いとけ 言うて。佛さんへ供へとけ (ておけ) 言うて 佛さん言やええんけど (言へばよいのだが) ホトクサン言うて、ホトクや (と) 言うね (言うのです)。“言葉尻 取る 田会もん (者)” 言うて “取られる そなたも 田会もん” 言うて。

ほとけ【佛】 **【名詞】** 1) 気心のよい人 (鈴市、鳥、南) 2) 死人 [会話] 佛様。 ₁₎ 心のええ (よい) 人をホトケさんみたよななあ (のようだ) 言うてなあ、₂₎ まあ ホトケん (に) なつたんよつて (のだから)、ホトケのわり口 (悪口) 言うな、言うて 死んだ人の事言うとなあ。

ほどけ 程 程度を表す (少ない方) ほどきに同じ

【会話】 ちっちゃあい (小さい) 大豆 ホドケの みい (実) な (が) になって。

ほとけごころ (佛心) 【名詞】 慈悲心 やさしい心持ち

【会話】 ホトケゴコロ言うのは 優しなって (優しくなつて) くんのなあ (来るのです) つね (日常) に意地わり (悪る) して、人にわり (悪い) 事ばかり (ばかり) 言うたり、したりする人な (が) 優し (優しく) なつて来ると ホトケゴコロな (が) 出来て来たよってん (から) じっさん (じきに) 死んでくねなあ (行くのだ)。

ほとけさん 【名詞】 指紋 【会話】 指の まいまい (指紋) のとこ (所) も ホトケサン 言うやんかい (言います)。

指紋を まいまいや (と) 言うて、これも ホトケサン言うんやんかい。おら (俺は) ホトケサン な (が) 巻いとんねよお (ているのだ) 言うて、巻いとる (ている) てら (とか) 流れとる (ている) てら 言うて。きりきりと巻いとる (ている) この芯を ホトケさんや (だ) 言うて言よおったね (言つて居たのです)。流れとんのおを (ているのを) ホトケサンや (だ) 言うんやなしん (言うのでなく) 中の芯を 丸くたい (丸く) ぎりぎりな (が) 皆 どれでも 有るやんかい (有ります)。それを ホトケサン (仏さん) や (だ) 言よおったの (言つて居たのです)。

ほとけさんになった 死んだ (鳥) 【会話】 ホトケサン

ニナツタ言うのは 死んでたのおも (で行つたのも) 言うしなあ、心な (が) よお (よく) なつたのも、あの人、ホトケサンニナツタナア言うて、今迄、意地な (が) わり (悪る) かって 人のわり (悪るい) 事ばかり (ばかり) 言うたり しとた (していた) 人な (が) 心な (が) よおなるとなあ、(よくなると) まあ あの人、ホトケん (に) ナツタナア言うてなあ。

ほとけさんのごはん 【名詞】 佛前に供える御飯。(志)

ほとけさんのごはんほどけ 極く少量

ほとけさんのめし 【名詞】 佛前に供える御飯 (志)

ほどけに 1) 程度に ほどに 2) ~のだから、食べるホドケニ 泣くホドケニ (志)

ほとけみるひと 【名詞】 跡取り (熊)

ほどける (解) 【自カ下一】 解ける とけはなれる 【会

話】 結んであんのを (有るのを) ばらけてた (ばらばらになつた)、さばけてた (て行つた) とか ホドケテたとか言うて、さばける言うのを、ホドケル言うし ホドケテタ 言う時も有るしなあ (有ります)。さばけてたれ (て行つた) 言う時も有るし、ホドケテタよお (て行つた) 言う時も有るし。ホドケテタ言う

のな (のが) 多いなあ (多いです)。ホドケテたれ

(しまった) そこな (が) 結んで有つたのん (のに) 言うて 解けてたのおを (解けて行つた事を) ホドケテてやら (とか) さばけたてやら ゆるんだてやいろいろゆいぐさ (言い方) な (が) 有つて。

ほとばかしとけ 水に浸して柔らかくしておきなさい。ほとばかす参照

ほとばかす 【他サ五】 水に浸して柔らかくする 水に浸

してふやけさせる 【会話】 ホトバカス ほとべる 一緒の事や (です)。ほとばかしとけ (ておけ) とか ほとべたとか。ホトバカシトケ言うのは それをしとけ (しておけ) 言うんなし (言うのですし) ほとべとる (て居る) 言うのは してあがつたのおが (仕上がつたのが) せんならん時にや (しなければいけない時は) ホトバカシトケ 言うて して有る時は ほとばかしといて (ておいて) ほとべたれ (た) 言うし。水 い (へ) 入れて やらこお (柔らかく) なつて 量がふえとるのおを (のを)。

ほとばす 【他サ五】 よく水につけてふやかす ほとばかすに同じ

ほとばらす 水に浸して柔らかくする (張) 【会話】 ホ

トバラス。ほとべて来たれ そやれ (それ) 言うてなあ。水い (に) 漬けて、広がって来るやんない (でしょう)、ほとべて広がって来たれ言うて、ひじきやどけでも (などでも) ほとばしとけ (ておけ) 言うてなあ。

ほとばる 水を含んで柔らかくなる (志 (志島、甲賀、国府))

ほとびらかす 水に浸して柔らかくする (南)

ほとびる (潤) 【自バ上一】 水に浸つて柔らかく膨れる

フトブ (太) の転 (大言海) (志 (布施田、鶴方、神明、立神、国府、安乗)、上、阿) 【会話】 増えて来る事なあ (です) ホトビル言うて。

ほとべとる 水に浸つて柔らかく膨れている。

ほとべる 【自バ上一】 水分を含んで柔らかくなる 膨れ

る ふやける (志) 【会話】 ふえた事をホトベル。風呂に長い事 (長時間) 入つとると (ていると) 指の先がホトベテクル おおた (あゝ) 指な (が) ホトベル程 入つとたよお (て居た) 言うて。そして どこやらの (何処かの) おなご (女) の人な (が) わしげの人な (私の主人が) 入れたら、なごおて (長くて) ホトベル迄 入れとくね (入れておく) 言うて、ホトベル迄 わしげ (私の家) の人な 入れとんねんなあ (入れて居るのです) 酒飲むと言うて。

ほどほど (程度) 【名詞】 それぞれの程度 適度 ホド
(程)を重ねた語(大言海) ほど参照 [会話] そげ
な (そんな) 事ばっか (ばかり) 言うたり、したりし
て、ホドホドん (に) しとけまあ (しておけ) 言うて
くどお (くどく) 言う。ホドホドん (に) しとけ
(しておけ) 言うて。

ほとぼり (熱) (余熱) 【名詞】 1) さめないで残って居
る熱 余熱 (上、阿) 2) 事件に関して事後に引き続
いて持つ世間の注目や関心 [会話] 1) ホトボリ言う
のは、暖かいのおやけど (のだが)。煮もん (煮
物) した時ん (に) ホトボリ、ぬくもりな (が) 冷め
た言う時も有るし 2) そして人の噂をホトボリや
(だ) 言うて。

ほとぼりがさめる 1) 噂が消える。2) 冷たくなる。

ほとぼりくさい 温かみが有って変に臭い 食物が腐り
かけて臭い [会話] ホトボリクサイ 言うなあ (言
います) ほとぼり言うな (のは) 冷めてた (て行っ
た) 事やんかい (です)。なんやら (なにが) いきぼ
り臭いとか言うけど (が)、ほとり臭い言うて、ほと
つてくと (ほてって行くと むれると) むさしたと
(てやると) 飯でも 変なかざな (嗅いが) ぼっと
嫌な匂いな (が) すんの (します)。こや (これは)
腐って (て居て) ホトボリクサイわれ (です)。

ほとぼりさます 1) 温かい物を冷たくする 2) 噂が
なくなる。[会話] 2) ほとぼり言うのは ホトボリヲ
サマシテから言うて 人な (が) わり (悪い) 事して
も、ええ (よい) 事しても 噂をよけ (多く) しとる
と (していると) ひとばか (少し) ホトボリサマス言
うて。噂な (が) うすらんで来る事(薄くなる事
を)。人の噂やなんな (なにかが) ひとばか、おんざ
んな (静まってから)、人の噂も七十五んち
(日) 過ぎると遠ざかる そいな (そんな) 時ん
(に) ホトボリサマス。1) ほとぼり言うのは 暖かい
のおやけど (のだが) しなもん (品物) の時は 煮物
した時ん (に) ほとぼり ぬくもりな (が) さめた言
う時も有るし、2) そして人の噂をほとぼりや (だ) 言
うて。人の噂の時と 煮物の時ん (に)。煮物の時は、
あつつい (熱い) もん (物) な (が) 冷めたとか、さ
ますとか ほとぼりのあるうちん (間に) 入れとかな
はざん (入れて置かなければいけない) とか ホトボ
リナ (が) サメテから、ぬくもりな さめてから 入
れな (なければ) はざんわれ (いけないです) 言う時
も有るし (有ります)。

ほとぼる 【自ラ五】 温まる。温かくなる。

ほどよお 【副詞】 よい具合に うまく よろしく ほど
よく [会話] ホドヨオ してくれえ (して下さい)、
具合よお (よく) してくれ 言うのなあ (のです)。
嫁 貰いん (に) いたりしても (行っても) 話な
(が) まとまると ホドヨオしてもろてのお (しても
らって) 言う人も有るし、都合よお してくれて言う
のを ホドヨオしてもおて (して貰って)。

ほとらす 余熱で水分を含ませ柔らかくする [会話]
大豆でも小豆でも そお煮 (早く炊く) しといて (し
ておいて) ホトラシトケ (ておけ)。ホトラス 言う
ななあ (のは) 煮立てといて (ておいて) 火 (ひい)
消して 蓋をしとく のおを (のを) ホトラス 言う
て。いどらすとも 言うてなあ。飯も いどらしとか
な (しておかなければ) うまねえわれ 言うて、火な
(が) 切れてすぐに合わすと うざついとるし (水分
が多いし) ちよいと (少し) ホトラスと (ておくと)
さんざりと しるけ (汁気、水分) な (が) 無いよお
ん (ように) なってくので (行くので) いどらさな
(さなければ) うまねえわれ (美味しくない) 言うて
ホトラス事を いどらす。炊いたり なんやかや (何、
彼) したもん (物) を そのまま蓋して置いとく事を
なあ いどらすとか ホトラスとか。かったい (堅
い) もん (物) いどらしとくと 炊きづめ (連続して
炊く事) に 二十分も三十分も 炊きずめん (に) し
とん (している) のより さっと十分位炊いて そし
といて (そうしておいて) 火消して ホトラスと そ
の方な (が) 万遍よお (なく) やわこお (柔らかく) な
んのなあ (なるのです)。そやもんで (だから) ホト
ラスほおな (が) ええ (良い) のな (のです)。急ん
どる (急いで居る) 時は、がたがたと たっからかす
(炊きづめにする) けどなあ (けれど) 急んどらん
(急がない) 時は ちよいと (少し) 十分位炊いて
又十分位 むさして (むらして) するとなあ、その方
が煮えんのも (煮えるのも) 早いし 煮えかたも え
えのなあ (良いのです)。

ほとり (熱) 【名詞】 あったかさ 温味 (志 (布施田、
浜島、鶴方、神明、立神、志島、国府、安乗)) [会
話] ホトリな (が) さめんうちん (さめない間に)
そいな事 (そんな事) して言うて わり (悪い) 事す
ると あげんして (あんなにして) しょおて (初め
も、したのん (に) その ホトリな (が) さめんうち
ん (に) 又 あいな (あんな) 事して言うて ほとぼ
りも一緒や。(です)

ほとりくさい ひなたくさい ほとぼりくさい参照 (志

(布施田)

ほとる(熱)【自ラ五】 1) 発熱する あつくなる ほ
てる参照(志(浜島、鶴方、立神、甲賀、国府、安
乗)、鳥、名、上、阿) 2) むし暑い(志(立神)、桑
郡、桑市、三、四、鈴市) [会話] 1) 顔な (が) ホテルとか ホトルとか。 顔な (が) ホトットテ (ほとつて居て) はざん (いけない) とか ほてってとか 一緒の意味やけど(です)。 熱な (が) あんのかして (有るのか) 顔な ほてって ほかほかして言うて。

ほに【副詞】 実に まことに 本当に(志(立神)、鳥、三、鈴市、安、一、松、多、張、度、伊) [会話] ほんさあ言うてなあ、ほんと(本当) やなあ (だ) 言うの(のを) ほんさあ、言よおった (言っていました)。ほんさ こや (これは) どいらい (大変) ええなあ (よい) 言うて 見てすると ホニ言うのも一緒やなあ (です)。

ほにまあ【副詞】 実に まことに ほんにまあ ほんに相手の言う事を、する事を認めたりほめたりする時に使用する語(度) [会話] ホニマア、ほんまあ 此の子な (が) こいな (こんな) 事して言うやんかい (言います)。ほんまあ 此の子な (が) どもならん (大変で) と言うて なっとしとんねやかなあ (なんとして居るのだろう) 此のかあ (子は) ほんまあ言うて、あやまあ (あれあれ) こいな事したて (してしまつて) ほんまあ言うて わるう時ん (叱る時に)。大変や(だ) 言うよおな時ん (に)。

ほねあげ【名詞】 骨拾い(志、鳥(神島))

ほねうずき(ほねうづき)【名詞】 梅毒が骨に沁入り痛む事 ほねがらみ

ほねおこり【名詞】 過度の労働のため後日 体全体が痛んだり熱を出したりする事(志(布施田))

ほねおしみ(ほねをしみ)【名詞】 苦勞をいやがること 怠けること 努力しないこと(志(布施田))

ほねおり(ほねをり)【名詞】 身体的、精神的な苦勞 心配 [会話] ホネオリやのお(です) 言うて仕事してもおたり (貰ったり) して貰うと、今日はホネオリやったのお (でした) 言うたり、えらい (大変な) 仕事してもおて (貰って) えらい ホネオリやったのお 言うて。仕事して貰るた (貰った) 時ん (に) えらい目はらした時ん (大変苦勞させた時に) ホネオリやったのお 言うて、体つこて (使って) 疲れたなあ言うのを ホネオリやったなあ 言うて。嫁貰いん (に) いたや、なんや (行つたとかなんとか)

言うて 心配事 (気苦勞させる事) かけた時ん (に) ホネオッテもろて (貰って) よかつた言うて、世話して貰うのを (面倒かけるのを 仲介してもらうのを) ホネオリの おかげで よかつたわい言うて、心配かけた事を。

ほねおる(ほねをる)【骨折】【自ラ五】 1) 苦勞する 心配する 2) 仲介する [会話] 1) 葬式した後で速夜言うて ホネオッタ人ら (に) ごっつお (御馳走) して。

ほねがらみ【名詞】 梅毒が骨を犯し痛む事。

ほねかわすじえもん。ほねかわにくない【名詞】 瘦せた人(上、阿、張) [会話] 瘦せとんの (ているのを) ホネカワニクナイ言うてなあ、骨とかあ (皮) みたよん (のように) しとてなあ (していて)、肉な (が) 無いもんで (ので) ホネカワニクナイやなあ (だ) 言うて 瘦せ細とる (ている) 人を。

ほねぐみ【名詞】 骨格。体以外すべての構造物にも言う。(志(布施田))

ほねこい【形容詞】 骨が折れて大変だ 骨が多い 密度のあるもの

ほねこし【形容詞】 1) 骨が多いこと 2) するのに大変苦勞する 抵抗がある 硬い(志(布施田、鶴方、神明、立神、国府)、員) [会話] 2) ホネコシ言うけどなあ (言いますが) ホネコシとか ほねだかい言うて。ホネコシ 山い (へ) きい (木) しいんいでも(薪木を採りに行つても) ホネコシもん (物) を ひとばか (少し) くれやな (入れなければ) じっきん (すぐに) ばあばあ 燃えてく (て行く) 言うて。ごみばつか(ばかり) 松葉のごみだけは じっきん (すぐに) 燃えてくけど (が) 枯木を混ぜるのを、ホネコシもんを混ぜな (なければ) 言うて、ホネコシもんな(が) 混ぜとて (て居て) がいな (大変) 焚きで (焚く時間) な (が) あんなあ (有ります) 言う時ん (に) ホネコシもんや(だ) 言うて。ホネコシもんはちよいと (少し) 燃えて (燃える時間) な (が) 有るやんない (でしょう)、そやもんで (それで) ホネコシもん 混ぜとくと (ておくと) ひい (火) の燃えてな (が) 有って ええなあ (よいです) 言うて。おっきいよって (大きいから) ちよいと (少し) 燃えてな (が) 有って 保ちな (が) 有るもんで (ので) 頼りん (に) なる訳やわい(です)。

ほねしごと【名詞】 苦勞の多い仕事。骨の折れる仕事。

ほねだかい【形容詞】 やせて居る。硬い。[会話] だい

こ (大根) こおて (買って) きたや (来たら) ホネダ
カイよおな こやし (肥料) な (が) なんも (少し
も) 効いとらせん (効いていない) だいこ こおて来
て 炊いたや (たら) かっとおて (硬くて) なんも
(少しも) うまいんてわい (美味くないそうです)。

ほねつぎ (骨継)。ほねつぎいしゃ【**名詞**】骨折、脱臼
を治す医師。整骨医。

ほねなある 1) 気骨があり、自己の信念を通す。
(志(布施田)) 2) 性格が歪んで居り扱い難い。

ほねのやもおる 大変苦労する 働きが激しい よく働
く【**会話**】磯 (海女) から来るも (来ても) 火も当
っておられん (おれない) 言うて 道具ばな (を) 打
ちつけといて (投げつけておいて) 畑むいて (向っ
て) そらかして (走って) 七時頃迄いつ (も) 磯 行
く迄 刈ったの (のを) 家へ担うてやら (とか) ほん
と (本当に) ホネノヤモ オリオッタワイ (おって居
ました)。

ほねやすみ (骨休み)【名詞**】**休憩【**会話**】ちよいと
(少し) ホネヤスミん (に)。じょおつく (いつも)
畑の仕事して えらい (大変な) 仕事すんねけど (す
るのだが) 今日 雨な (が) 降って、畑い (へ) 行
かれやせんよって (行けないから) ホネヤスミん
(に) 休もやんかれ (休みましょう) 言うて。休む時
を、ホネヤスミなあ (です)。雨な降って 畑い 行
かれやせんと (行けないと) 骨休めん (に) 丁度ええ
われ (よろしい) 言うて。

ほねやすめ (骨休)【名詞**】**仕事の合間に体を休めるこ
と 休憩すること 休養 (志(布施田))【**会話**】ホ
ネヤスメ ひとばか (少し) しょおや (しましょう)
言うてなあ。仕事よけ (沢山) して いつとき (一休
み) しょおや、一休みしょおや 言うのを ちよいと
(少し) ホネヤスメしょおや 言うてなあ、そすと
仕事いくか (何日) も続いてするやんない (でしょ
う)、雨な (が) 降ると こや (これは) まあ 丁度
ええなあ (よい) ホネヤスメん (に) 言うて 雨な
(が) 降ると行かれやせんもんで (ないので)。

ほのじ【名詞**】【**形容詞**】**惚れ居る事を言う。

ほのめ 一生懸命【**会話**】ホノメん (に) になって言う
な (のは) いっしょけんめん (一生懸命に) になって言
う事。今日は ホノメやったよお (でした) 言うて
いっしょけんめで、仕事した、しにくい (困難な) 仕
事な (が) 有って それをしいおえた (しおえた 終
えた) 時に ホノメになったよお (なりました) 言う
て。沖い (へ) いて (行つて) 風な (が) 吹いて来て

いっしょけんめん どお (櫓) 漕んで (漕いで) 家い
(へ) くんのん (来るのに) おおた (あゝ) 西の風な
おとして来て (吹きおろして来て) ホノメん (に) な
った言うて。

ほばくった。ほばくったた 食べてしまった ほばる参
照【**会話**】ホバクッタ。おらまあ (俺は) 腹な
(が) へって、口い (へ) さっとはり込んで 食うの
を、ホバクッタ言うの (のです)、飯も ばくばく
食うとなあ 腹な (が) へって、ホバクッタよお言う
てなあ、食いすえんのをなあ (一生懸命で食べるの
を)、ホバクッタまあ言うて、早口で食べたべんのを
(てやるのを) ゆっくり食べとらんとなあ (ていなく
て)。

ほばくる 食べる ほばる参照【**会話**】ほばりこむ言
うのは なんでもかんでも 喰うて 喰うて 喰いま
くる ホバクル言うて、ほばりこんだたか (でやった
か) ホバツタレまあ (てやれ) 言うて。此れは 頬な
(が) 張る程 一ぺん (一度) に 口い (へ) 放り込
む そいな (そんな) 意味やろなあ (でしょう)。ロ
一杯 こべこむ (詰め込む) のを ホバクンネ (ほば
るのだ) 言うよってんなあ (言うのだから)。なんも
かも ホバクッタタネ (てしまったのだ) あの子な
(が) 来たや (ら) 言うやんかい (言います)。なん
もかも まあ はごだあら (俵) で、こめこんでたれ
(詰めて行った)。

ほばこ (帆船)【名詞**】**帆を畳んで入れる丸い木の桶
ちげ参照【**会話**】ホバコ言うのな (のが) 有って
まあるいのな (丸いのが) 有りおった (有りました)、
桶みたいな (のような) のおな (のが)。あや (あれ
は) ホビツ (帆船) 言うの (のです) ほお (帆) 入れ
んの (入れるのです)。

ほばったれ 1) 多量に食べなさい。ほばくる参照
2) 早く食べよ。

ほばってた 1) 全部嬉んで、持って行った。(志(布
施田)) 2) 全部食べて行った。

ほばりこむ 大量の物を口に入れる 早く食べる【**会
話**】なんでも、ホバリコムと、はごだあら (大きな
俵) やよって (だから) 言うて。へし込んでおく (押
し込んでおくのです)。食うて 食うて、食いすえ
るとなあ、ホバリコンデまあ言うて、あやまあ (あれ)
腹な (が) へつとんのかして (ていのか) ホバリコ
ムないあやれ (あれ) 言うてなあ まあ なんのこな
しん (なに気無しに) 食いすえんのを ホバクンネ
(くるのだ)、あや (彼は) 腹へらしとんねどお (て

いるのだ) 言うてなあ。

ほばりこんだ 1) 早く食べた。2) 多量に食べた。

ほばりこんだれ 1) 多量に早く食べよ (命令) 2) 多量に食べた。(過去、感嘆)

ほばる 頬張る ロー杯に食べ物を入れる。頬張るの意か。(志 (布施田、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥 (鳥羽)、北) [会話] ほばくったた (てやった) 言うて、口ん (の) 中い (へ) こめこむ (詰め込む) よけ (沢山) 入れると、ホバル言うてほばくったたない (てしまった) 言うて。口の中へ一杯入れる言うのを ホバル ほばくったた (てしまった)。

ほひたら【接続詞】 そうしたら [会話] そしたら言うのを ホヒタラ言う人な (が) 有るなあ (有る)。

ほびつ【名詞】 帆を畳んで入れる櫃。ほばこ参照

ほぶ【名詞】 植物 浜防風 ほおふ参照

ほべた【名詞】 頬 (志 (御座、立神、国府、安乗)、鳥 (鳥羽)、三、鈴市、鈴郡、亀、安、津、一、飯、松、多、上、阿、張、名、度、伊、北、南) [会話] ほつぺたなあ (です) じょおほお (両方) の ほべた。

ほぼ【名詞】 女陰 女性器 (志 (布施田、国府、浜島、志島、越賀、鶴方、神明、立神、甲賀、安乗) 員、張、鳥、尾) [会話] ボボ おたべ (女性器) “ボボのどしやねに せんこ (線香) いつぼ (一本) 立ててとと (夫) よ 此れ見よ 岡蒸気” (どづきの唄から)

ほぼおし【名詞】 女性の一姿まとわぬ姿 女陰を乾かすように何も覆って居ない状態 おしは干しの転か。(志) [会話] ボボオシ、ボボホシ や。(です) “ほぼのどしやね な (が) 博打に負けて ぐるり (回り) 杉山売りはるた (拂った)” ボボホシは 腰巻つけんと (つけづに) ちんぷらりん (男性の素裸) でおんの (居るのを)、ホボホシで はざんやんかあ (駄目だ) パンツはかな (なければ) しや (それ) 言うて。

ほぼする 性交する。

ほぼほし【名詞】 女性の一姿まとわぬ姿 ほぼおしに同じ

ほまいせん。ほまえせん (ほまへせん)。ほまきぶね【名詞】 帆船 帆前船 洋式帆船の稱 幕末以降和式帆船に対して言い、後には汽船に対し帆船全部を言うようになった。(上、阿) [会話] ホマエセン 帆かけぶね言うけど (けれど) ホマエセンでもええし (よいのです)。“河岸ばたに 船は着けども 乗りはせん 波は、あるおて乗られん乗られん” (近くに 女性が

そい寝に来たが 気が無いので 乗りません) 河岸ばたに しんぞ (新造) の船をつけながら 波な (が) たこおて (高くて) 乗られん乗られん “会いに来もせな (しなければ) 言葉もかけず ほんに (本当に) 私 は 帆かけ船” (つなぎ船) 言う歌な (が) 有りおった (有りました)。

ほまち (外持)【名詞】 労働に対する心付け。給料以外の余分の収入。チップ。

ほめそやす【他サ五】 1) 盛に煽てる 2) 盛にほめる (志 (布施田)) [会話] おまや (お前は) なん (なに) さしても (させても) えらいなあ 言うて金儲けも上手やし (だし) 腕もええし (よいし) 言うてな ホメソヤス言うやんかい (言います)。

ほめちぎる【他ラ五】 さかんにほめる

ほめもんや 立派なもの (者、物) だ、すばらしい。(志 (布施田))

ほやいたた 不平を言ってやった。[会話] 小言 (不平) 言うのを ボヤイタタ。

ほやいとる ぶつぶつと不平を言って居る。(志 (布施田))

ほやかしとる 陰茎を膨起させている。

ほやかす 陰茎を膨起させる 膨起させている [会話] 口まらホヤカスよお言うて、おた 美味そおななあ (だ) 言う と 口まらホヤシトラレ (ている) 言うて。舌鼓 打って おた美味そおななあ (だ) 言う と 食いたそおん (に) しとんのなあ (しているのです) くちまらホヤシトンナア (ている) あや (彼は) 言うて。男な (が) 前のもん (物) 立てとんのおも (ているのも) ホヤカス言うて、あさまら ホヤカス言うやんかい (言います)。

ほやかせ 膨起させよ [会話] 冷やかせ ちょらかせ ホヤカセ言うて、ちょらかせ (からかえ)、ホヤカセ言うて、よお (よく) 言うやんかい (言います)。ちよらかしとれ (馬鹿にするな) 言う と ほやかしとけ言うてなあ。

ほやがる 放り上がる 表れる [会話] 今日は島な (が) ホヤガツトル (て居る) よって (から) 潮な (が) よお (よく) 干いたなあ。

ほやかれて 叱られて。不満を言われて。

ほやかれる 不平不満を言われる 小言を言われる [会話] 小言 言うのを ほやく ほやいたた (てやった) 言うし、そすと (すると) 相手 あいらん (あの人に) ボヤカレル言うて。

ほやきたおす 激しく不平を言う、小言を言う

ぼやく【自力五】 1) ぶつぶつと不平を言う (志 (浜島、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗) 鳥、津、上、張、度、伊) 2) 小言を言う 叱る (志 (浜島、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、松、多) [会話] 1) あげな (あんな) 事ばっか (ばかり) 言うて来ておぞげやなあ (嫌だ) 言うのを ボヤク 言うなあ (言います)。ボヤク、ボヤカレテ言うて、そげんして (そんなにして) 言う と ボヤカレテ 言うて。ボヤクにげや (人間は) あいな (あんな) 事ばっかしたり、言うたりして、おぞげや (だ) 言うのをボヤク。そすと (すると) 相手は あいらん (あの人に) ボヤカレテ。不平言うのを ボヤク。2) 小言 言うのをボヤク ぼやいたた (てやった) 言うし (言います)、そすと相手 あいらん (に) ボヤカレテ まあ言うて。

ほやけど【接続詞】 然し (志、鈴市、鈴郡、安、度、伊、北、尾) [会話] そやけど (しかし) 言うのを ホヤケド 言う人も有るやんかい (有ります)。そおだけれども言うのをなあ、ホヤケド言う人な (が) おんなあ (居ます)。

ほやげられた 放り上げられた ほやげられる参照

ほやげられる 放り上げられる 高い所にあげられる 放り出される [会話] ホヤゲラレル 浜へ ほおりあげられて 島へ、ぼおんと放りあげられて 打ち上げられる言うのを ホヤゲラレタ 言うんやんかい (言うのです)。

ほやげる【動詞】 放り上げる 海中の岩が頂きを表す [会話] 喧しよって (から) あの餓鬼 (子供) ら、二階へホヤゲトケ言うて、二階造りの家やなあ (は)、下にお客さんな (が) おって (居て)、喧しとなあ、なんでも (何でも) たっかいとこ (高い所) あげとけ (ておけ) 言うのなあ、ホヤゲル。おおた、波にホヤゲラレタよお言うて、島の上い (へ) 波のおっぱ (余波) ですと、波い (で) ほんにやげられたよお ホヤゲラレタ よお言うて。表の海の人ら とろくさい (手ぬるい) 事しとたら (していたら) どお (樽) も、ホヤゲラレル やんか (です) 波で。

ほやける【自力下一】 はっきりしなくなる

ぼやける 追い払う

ほやさけん。ほやさけんだ【接続詞】 だから。

ほやす【他サ五】 陰茎を勃起させる (志 (布施田、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗))

ぼやっと【副詞】 ぼんやりと (四) [会話] ボヤットしとる (している)、あの人なんやら (なにか) 今日は

ボヤンとしとねえお (しているのだ) 言うて、ボヤンとしとる (している) 事をなあ、なんやら 体もわりねかして (悪るいのか) ボヤットしとられ (している) まあ、大事の鳥 放したたよんしとられ (逃がしたようにしている) 言うてなあ、ぼんやりしとると。

ほやで【接続詞】 だから (桑市、安、伊、北)

ほやなあ【感嘆詞】 そうですね。

ほやほや【副詞】【形容詞】 1) 暖かいさま 2) 出来上がってすぐ 3) 大切に (上、阿) [会話] 2) ホヤホヤ 出来たてのホヤホヤや (だ) 言うて 煮物したり、なんやかやしても 煮たてのホヤホヤやなあ (だ) とか、こしらへたての ホヤホヤやなあ 言うて。新しい言う事を言うの (のです)。出来上がってすぐ ホヤホヤ 言うこたなあ (事は)。1) ぬくたい (温い) 時も、ほこほやなあ (だ) 言う時も有るけど (が) ホヤホヤ 言う時も有るなあ (有るのです)。いもんにやげ (芋の煮上げ) のホヤホヤやれ (だ) こや (此れは) 言うて。ぬくとおて (温かくて) ほこほ こしとんのおを (して居るのを)。3) 物を大事ん (に) しても 子供らを大事ん (に) して育てると ひとりご (一人子) やもんで (なので) ホヤホヤ して大事ん育てて言う時も有るなあ (有ります)。ほいほいして大事のこお (子) で 言う時も有るし (有ります)。おらな (私が) ふいふいしとるもんを (して居る物を) 借りん (に) 来て、やや (いやだ) 言われやせん (言へないので) 借したた (てやった) 言う時も有るわい (有ります)。大事ん (に) ほいほいしとんのおん (して居るのに)。

ぼやぼや【副詞】 ぼんやりと。気の抜けたさま。[用例] そいなどこで (そんなところで) ボヤボヤしとらんと (して居なくて) あっちゃい行け (あちらへ行け)。

ほやみたか。ほやみたけ。ほやみたけな。 それ見た事か。(志 (浜島))

ほやもんで【接続詞】 それだから (志、度、北)

ほやよってん【接続詞】 それだから

ぼやんと【副詞】 性格。視力など。はっきりしない様 ぼやっと参照 (志 (布施田))

ほら【法螺】【名詞】 1) 海産巻貝の一部の総称 にし、螺 (志 (布施田)、鳥 (菅島)) 2) 誇大にものを言う 事 (志 (布施田)) [会話] 2) 大きな事 言うのなあ (のを) ホラ吹く、だばらふき や (だ) 言うて、大風呂敷やとか (だとか) だばら吹くとか おおぐわとか 言うて 自慢すると。1) 海の法螺貝、死んでから鳴くホラの貝いや (です)、焼くと びい 言うて 言う

んてや (のです)、煮えて来ると、そやもんで (それなので) 死んでから鳴くホラの貝言うて。

ぼら【名詞】 穴 ほら 洞 中心がうつろな穴 ほらあな 洞窟 (志 (片田、船越、志島)、鳥 (神島)) [会話] ボラ掘れ言うのかい (のですか) ぼち (穴) も 一緒やけど (だが) 穴掘って埋めとけ (ておけ) 言うのも ボラ掘って埋めとけ 言うのも有るし、穴もボチも ボラも一緒や (です)。山ん (に) 有んのは (有るのは) ほらあな 言うやんかい (言います)。何処そこの山い (へ) いたや (行ったら) ほらあなな (が) 有って言うて、ほらあなも ぼちも 一緒やけど (です)。ボラの時は、頭い (へ) ボンボラあけられた言うて、はあ (歯) な (に) 虫な (が) 喰うてボンボラな (が) あいとる (て居る) 言うて。“穴から出て穴へいる迄 (入る迄) あな仕事、あな恐しやあなの世の中” 言うて、穴もボラも一緒や (です)。

ほらくつかせん 放っておかない。

ほらくとく 放しておく。

ほらくとけ 捨てておけ 関係するな ほおっておけ [会話] そいな (そんな) 事しったかれ (知った事か)、そいな もな (物は) ホラクツケ言うて。

ほらくり【名詞】 打ち捨てておく事 (志 (浜島、鶴方、立神、神明、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥 (鳥羽)) [会話] ホラクリさがしとる (て居る) 言うて、ほつとる (捨てて居る) 事を、ホラクリサンボンして言うやんかい (言います)。ホラクリも ホラクリサンボも 一緒の言葉やけど (だが) ほらくとて (捨てて居て) 言うのは ちよいと (少し) 優しんけど (優しいが) ホラクリサンボ言うのは、ごおなわいて (腹が立って) ごおわかして (腹立てて) 言う言葉や (です)。ホラクリサンボン (に) おおて (会って) 言うねよって (言うのだから)。

ほらくりさんば【名詞】 打ち捨てて置く事。ほらくり参照 (志 (布施田))

ほらくる うち捨てておく ほうっておく 放任する (志 (片田、浜島、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥、松、多、度、伊、北、尾、南、熊) [会話] あげな (あんな) もな (奴は) ひとばかり (少しばかり) ごりやかしとけ (徹りさせておけ) ホラクツケ。

ぼらせん【名詞】 明治以前に鑄造、使用された貨 [会話] 文久銭をボラセンや (だ) 言うて、死んでく (で行く) 時ん (に) ボラセン六文つ (づつ) 持たし おったけど (持たせて居たが)、今しや (今は) 無い

よって (から) ろくも (六文) 持たしたる (持たせてやる) 五円と一円としたる (してやる) 家も有るやんかい (有ります) 六文や (だ) 言うて。そやけど 今しや (今は) 銭別を 皆 よけ (沢山) するやんかい (するで有りませんか) 孫やひこ (曾孫) らな (が)、財布ん (に) 一杯つもてくやんかい (持って行きます)。もてて (持って行って) なん買うんやかのお (何を買うのでしょうか)、○○な (が) 酒代な (が) 足らんわれ (足りない) 言うて 来たてやら (とか) ××屋の婆な (が) あのだおや (草履は) はざんわれ (いけません) あさぶら やなけな (でなければ) 汚れる言うて来た言うて、△△な (が) おんな (俺の) とこい (所へ) 迄 来んてて (来なくても) みち屋 (履物店の名称) や、なんや言うて いとんのん (行つて居るのに 死んで居るのに) そこで かや (買へば) ええのん (よいのに) あげん (あんなに) 銭別持てたのん (のに) 言うて 怒りもて (ながら) 墓い埋めといて (ておいて) 来たね (来たのだ) 言うて。○○○も ○○な (の) はつぶい (法被) を死んだおりん (時に) 形見にくれたや (ら) やつた (与へた)、はつぶい おこせ (よこせ) 言うて来たんてわい (言つて来たそうです)。くれたけど (けれど) 俺も きやな (着なければ) さぶい (寒い) よって (から) おこせ 言うて来たね (のだ) 言うて。

ほらたけ【名詞】 傘が風に煽られて逆開きになること

[会話] ホラタケン (に) したた (してしまった)、傘を言うて。傘の栓な (が) 抜けてて (ていつて) こおする (逆にする) やんない (でしよう)、そすと傘も 風な (が) えろおて (強くて)、ホラタケン (に) したた 言うて、ホラタケ言うのな (が) 有るやんかい (有ります) 大きなおななあ (のが)、しぼんだよおな (すぼんだような) のおななあ、傘な (が) さかさまん (に) なんの (なるのです)、それを、ホラタケン したた 言うてな 風な (が) 吹くと、傘の栓な (の) 竹な (が) へしよれてくと (折れていくと) ホラタケン (に) して。

ほらのかい【名詞】 法螺貝 (熊)

ほらのふさ【名詞】 法螺の蓋 [会話] ホラノフサな (が) あるやんない (有るでしよう)、尻や (で) なしん (なくて) 上ん (に) 蓋な (が) あるやんない (有るでしよう)。

ほらふき【名詞】 自慢ばかりする人。大きな事を言う人。(阿、南)

ほられる 1) 捨てられる。(志 (布施田)) 2) 取り残

される。[用例] 2) はよ行かな (早く行かなければ)
電車ん (に) ホラレルぞ。

ぼられる 暴利をとられる。

ほられんど 1) 取り残されるぞ 2) 放られるぞ 捨
てられるぞ [会話] 1) 早よ (早く) 行かな (なけれ
ば) パスん (に) ホラレンド言うて。

ぼられんど 高く買わされるぞ。

ほらんど【名詞】 たぶの木 [会話] ただみのきい
(木)、ホランドのきい (木) 言うてな。真ん中ん
(に) ぼら (穴) な (が) あいとる (ている) ただみ
のきい。あつかい (赤い) もも (実) な (が) なって、
その軸を拾って来て めえ (目) え (に) はり (支
柱) こおてなあ (して) ほすと (すると) めえ (目)
え (に) 風な (が) 入って からからん (に) なつと
て (なっていて) 涙な (が) 出て来るまで。たまのき
い (木) 言うな (のは) ただみのきい (木) の事なあ、
そして ホランドとも言うね (言うのです)。ぼら
(穴) な (が) あいとるもんで (ているので) 真ん中
な (が) ぐまんじょより違うの (のです)。ただみ
言うな (のは) はあ (葉) な (が) かつたいわい (堅
いです) そして 臼でも ただみの臼 たてうすん
(搗き臼に) ほると (作ると) さいご (その時) ちゃ
ちゃくれてこんで (もげて来なくて) ええの (よいの
です)

ほりくりさんぼ【名詞】 大切にしないで放っておく。ほ
らくりさんぼ 参照

ほりこみ【名詞】 1) 物置小屋 2) 錨 又は海女作業
の助けのために使用した重り石 (志、鳥 (石鏡))
3) よく食べる人 [会話] 1) ホリコミビヤ (放込部
屋)。ホリコミビヤ 放り込んどけ (でかけ) 言うの
も有るし、3) なんやつたてて (何をやっても) ホリコ
ミやれ (だ) 言うて よけ (沢山) 喰たんのを (食べるの)
を) あんな (彼が) ふごく (大食漢) で なんや
つたてて ホリコミやれ 言うて。2) はいから (海女
の使う分銅) の前につことた (使って居た) 錨をだ
(です) ホリコミ。分銅の代りに石をしとりおったけ
ど (して居ましたが)。今しは (今は) 鉄や鉛をする
けど (けれど) 昔や (は) そいなもんな (そんな物
が) ねえもんで (無いので) 石い (へ) 穴 通してし
とる (して居る) 家も有るし、綱で石しばって (くく
って) くりいかりん (に) しよおった (して居た) 時
も有るし (有ります)、鉄の代りん (に)。3) よけ (沢
山) 喰う人も あや (彼は) ふごくで なんやつたて
て ホリコミで ほばくつたる (食べてやる) てやら、

(とか) ホリコミや (だ) 言うて、なん (なにを) や
つても ほばくつたると (てやると) ホリコミや
(だ) 言うて。1) ホリコミビヤ言うて 物置小屋の
おだれ (庇) トタンで張ったり 小麦殻で垣して、ホ
リコミビヤを こさえな (作らなければ) 雨な (が)
降ると なんも (なにも) 入れるとこな (所が) のお
て (無くて) 言うて、そいなとこ (そんな所) こしや
えおったわい (作って居ました)。なんでも ほりこ
んどきや (でかけば) ええ (よい)、あんまり (あま
り) 整頓して 立派ん (に) 入れたると最後 (入れて
やると) 出すのん (に) 出しのくうて (出しぬくく
て) ちよいと (少し) 要るおもてな (思つては) いて
な (行つては) 出してきいして (出して来て) 使いよ
おて (やすくて)。

ほりこみびや【名詞】 物置部屋 ほこ込みに同じ [会
話] ホリコミビヤや (だ) 言うて 物置小屋 家の
おだれ (庇) トタンで張ったり 小麦殻で垣張ったり
して、ホリコミビヤ こしやえな (作らな) 雨な
(が) 降ると なんも (なにも) 入れるとこな (所
が) のおて (無くて) 言うて。

ほりこむ【放込】【他マ五】 捨てる 投げ入れる (桑市、
尾、熊) [会話] 穴い (へ) ホリコムとか 海いホリ
コムとか言うて。ほつたる (捨ててやる) 事を ホリ
コム言うんやろなあ (言うのでしょうか)。海い (へ)
ホリコンダタレ (でやった) 言うて、ほつたる事を
ホリコンダタ (でやった) 言う時も有るし、入れんの
も (入れるのも) ホリコンドケ (でかけ) 言うて、ほ
りこみびや (放り込み部屋) ホリコンドケ言うて。入
れとくのを (入れておくのを) ホリコム言うねよつて
(言うのだから) 入れとけ (でかけ) 言うの (のを)
ホリコンドケ 言うねよつて。

ほりさがす 散らかす [会話] そこらい (へ) 散らば
かしとると (散らばして居ると) ホリサガシテ、そこ
らじゅう ホリサンぼん (に) して言うて、置き散ら
しとると (て居ると) ほりさんぼん (に) して言うて。
ホリサンボモ ホリサガスも一緒や (です)。

ほりさんぼ【名詞】 打ち捨てておく 散乱して居るさま
すてさんぼ ほりさがす参照 (志 (布施田、鶴方、神
明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥)

ほりだされた 1) 追い出された。2) 離縁された。
[用例] 2) あの嫁 ホリダサレタんわい (そうで
す)。

ほりだされる 1) 追い出される。2) 離縁される。

ほりだし 丸出し。露出。(上、阿)

ほりだしたた 1) 追い出してやった。2) 離婚してやった。3) 投げ出してやった。4) 着物の前を開いて性器を見せてやった。[用例] 2) あいな (あんな) 嫁、ホリダシタタ。

ほりだしたる 1) 追い出してやる 2) 離縁する (志 (布施田)) [用例] 1) 言う事。聞かせんよって (聞かないから) ホリダシタル。

ほりだしとる 露出して居る。丸出しにしている。

ほりだしもん 【名詞】 買入れた価以上に価値の有る物。

ほりだす (放出) 【他サ五】 1) 出す 放り出す 2) 性器を露出する 3) 離縁する (志 (浜島、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)) 4) 追い出す 5) 出漁する 沖いホリダス [会話] 2) ひんまくって、力入れて 怒っとするもんで (怒って居るので) ホリダシテ (性器を出して) どこん (どこに) ちんぼ (男根) な (が) ついとんど (ついて居るか) 言うて。

ほりぬき 【名詞】 井戸。掘抜井戸の略。(鈴市)

ほりもん 【名詞】 彫物 入れ墨 刺青 [会話] ホリモンしとる (している) 言うて、なんやかや (いろいろ) ほっとんのを (彫っているのを) ホリモン 彫刻。入墨しとんのも (しているのも) ホリモンしとる 言うて。よお (よく) 腕になあ、入墨しとる 人な (が) 有って やくざはなあ、体中一杯しとる 人な (が) 有るやんかい (有ります)、そすと まあ、若い時や (は) したけど、年な (が) 寄って来ると、はずかして (恥ずかしくて) 風呂い (へ) いりん (に) よお行かんね (行かないのです)。

ほりやい 1) 投げ合い。遠くへ投げるのを競う。(志 (浜島、鶴方、神明、立神、甲賀、国府)、一、久、松、度、伊、北) 2) 捨てるのを争う。よい物でも捨てる。

ほる (放) 【他ラ五】 1) 捨てる 放る 抛る ハフルの口語化した語のホウルの略。(大言海) (志 (鶴方、神明、立神、甲賀、国府)、鳥 (鳥羽)、桑郡、桑市、員、三、四、鈴市、鈴郡、安、津、一、飯、松、多、上、阿、張、名、度、伊、北、尾、南、熊) 2) 投げる (三重県) 3) 放置する 投げやりにする 途中でするのをやめる [会話] 1) 捨てる。要らんで (いらなくて) ほったんのを (捨てるのを) ホル 言うて 要るもん (物) やったら (だったら) 物置い (へ) 入れとくの (入れておくのを) 其処い (へ) 放り込んで いてくれまあ (放り込んでおいて下さい) 言う時も有るし (有ります)。要らんで (要らなくて) ホル 時や (は) ほったれ ごみくてばへ (ごみ捨て場へ)。

2) 投げてくれへ (下さい) 言う時も ちよいと (少し) とんのん (取るのに) てえ (手) な (が) たらわんと (とどかないと) ちよいと ホツテクレマアエ (下さい)。ちよいと たろてくれえ (たらって下さい 取って下さい) 言うて、ホツテくれえ だい 言う時も有るもんなあ (有ります)。3) 仕事 ホツイテテ (て行って) 言う時も有るし、なんもかも 道具もホツイテタナイ (て行った) 言う時も有るし 後片付けせんと (せずに) ホツイテ いたない 言うて。

ぼる 【自ラ五】 法外な代価や賃金を要求する (上)

ほれくさる 惚れる

ほれこむ (惚込) 【自マ五】 打ち込む。一途に思う。恋いこがれる。

ほれて (惚手) 【名詞】 ある人に惚れている人 恋をする人 [会話] お洒落 洒落ても ホレテな (が) なけな (無ければ) 付けた白粉 無駄になる。

ほれてまがっとなる 惚れきっている 惚れて夢中になって居る [会話] あや (彼は) まあ あれん (彼女に) いかれとて (夢中で、惚れとんのも (ているのも)、ホレテ マガツラレ言うの (のです)、まあ いかれきつとんねど (ているのだ) 言うて。

ほろ 【名詞】 程 (志)

ぼろ 【名詞】 ぼつぼつ落ちる雨 [会話] 雨な (が) ばらばらと降って来ると ボロな (が) 降って来た言うて。こやまあ (此れは) ボロ来て (着て) 西やれ (だ) 言うて。西の山な (が) くろおて (くらくて)、ボロな (が) くんのかして (来るのかと思へて) 山な (が) くらごなって来たれ (暗くなって来た) 言うて。そすと、ばらばらと降って来ると こや (此れは) ボロやなあ (だ) 言うて、又 あたあ (後は) 風ん (に) なってくんねやれ (来るのだ) 言うて。此の時は ばらばらと降るだけを ボロや (だ) 言うのな (のです)。だんだん (激しく) 降ると 雨や (だ) 言うし、夏の事なら (夏であれば) さだちや (と) 言うし。

ぼろ (襦袢) 【名詞】 汚れた物 古い物 役に立たない物 ボロ布 [会話] 着るもん (物) でも 破れてたのお (ていったのを) ボロや (古着屋) い (へ) やれ 言う時も有るし、なんでも使われんよおん (使へなく) なって こや (此れは) ボロやなあ (だ)、ボロやれ (だ) 言うて、着るもんやなしん (でなくて) 他の道具でも わりなつてくと (悪くなって行くと) 使われんと (使へないと) ボロやなあ (だ) 言うて。

ぼろい【形容詞】 1) 利益が多い うまい 元手や労力をあまり使わず大きな利益が上る非常に割がよい 2) 非常に貧しい 汚たない (志、鳥 (加茂)、員、張、名) [会話] 1) ボロイ儲けやなあ (だ) 言うて、あんまり (あまり) よけ (沢山) 儲けると、ボロイもおけやなあ (だ)、ぼろもおけしたれ (しました) 言うて。

ぼろかい (ぼろかひ) (襦袢買)。 **ぼろかえ【名詞】** くず屋 [会話] ボロカイ、ふるつぎ。昔のふるつぎかえ、ボロカエ。昔や (は) ふるつぎかえ や (と) 言よおった (言っていました)。船越と波切と よお来よおった (よく来て居ました)。ふるつぎかえな (が) じよおり (草履) 作る絹 持って、絹と替えたりしよおった。

ぼろかくし【名詞】 下の汚れた物。破損した物の上に見映えのよい物をかける事、又その物。にじゅうまんと参照

ぼろがし【名詞】 菓子 ポーロ 小さい粒状のすぐ潰れる菓子 [会話] まてがら (菓子)、子供らん (に) くれんのは (呉れるのは) 一番にまてがら 喰わしおったなあ (食べさせて居ました)。今し (今) みたよん (のように) ボロガシは無いし。

ぼろかす【形容詞】 目茶苦茶、ひどい様

ぼろぎれ (襦袢布)【名詞】 襦袢になった布

ぼろくさい 粗末だ。汚い。

ぼろくそ (襦袢糞)【名詞】【形容詞】 1) ぼろや糞のように価値の無い物 又そのような物としてひどく悪く言うさま、人を悪しざまに言うこと (志 (布施田)、上、阿) 2) 極めて簡単なこと。[会話] 1) ボロクソン (に) 言われて 言うて。ちゃちゃもちやくちや (茶々目茶苦茶) ん (に) 言うのを ボロクソン (に) 言われて。

ぼろくち【名詞】 うまい儲け口 [会話] うまい儲け口言うんか (のですか)、ぼろ儲けした言う意味やわい (です)。ぼろ儲けした言うのも よお (よく) 似た言葉やわい (です) ボロクチも。

ほろけ 程 程度を表す語 [会話] それ程、言うのをそれほろけ 言う人な (が) 有るやんかい (有ります)。

ほろける 解ける。ほどける。

ぼろだす 欠点が表れる ぼろ つたない箇所 欠点 失敗 [会話] なんやかや (いろいろと) 喋り 喋りすると、わがとな (自分の) 不利ん (に) なる事言うと、あやまあ (彼は) 喋って ボロダシテ来たれ (来

た)、ボロダシタなあ言うて。喋り 喋りすると ぼろな (が) 出てくられ (来る) 言うて。いろんな事 (色々な事) 喋って来るもんで (ので)。欠点な (が) 出てくんのを (来るのを) ボロダス言うて 知らず知らずん (に) 出てくんねやろなあ (出て来るの) でしょう ぼろな (が) 出た言うて。

ぼろつぎ【名詞】 つぎはぎ布の意 ぼろぎれ [会話] ボロツギ言うなだ (言うのは) 機械拭くのん (のに) 破れた着るもん (物) や (とか)、シャツのあがり (古くなったもの 着れなくなった物) を ボロツギや (だ) 言うて、船の人らん (に) くれると喜ぶんなあ (喜びます)。機械なぶると てえ (手) な (が) 汚れて そして (そうして) 機械拭いたりすんのん (するのに) ボロを、皆 よお (よく) 積んでくねあ (で行きます)。たとだのおを (たたんだのを) よっけ (沢山) 積んでくわい (で行きます)。機械 磨いたり すんのん。

ぼろつぎや【名詞】 屑屋 [会話] ぼろつぎ言うと ぼろぎれの事。着るもん (物) の きやんよおん (着ないように) なったのを ボロツギヤでこおて (買つて) 来て 機械 磨いたりすんの (するのです)。ぼろつぎ言うと ぼろぎれの事。わりだ (悪い) 着るもん (物) の、きやん (着ない) よん なったのも ボロツギヤで こおて来て (買って来て) 機械船い (へ) 積んでくんやんかい (積んで行くのです)。

ぼろっこ【名詞】 1) 襦袢 古いこわれた物 2) 滑車 [会話] 2) 昔し車ですんの (するのを) ボロッコで上げえ (上げなさい) 言うて、今し (今の) 自動車でするやんない (でしょう クレーン車) あいなのおを (あんなのを)、たちまい (棟上げ) やどけ (など) しても、ボロッコであげえ (上げなさい) 言うて。なんばをボロッコや言うて (と言って) なんばや (だ) 言うて 引っ掛けといて (ておいて) 車ですんのを (するのを) なんばや言うやんない (と言うでしょう) それをボロッコであげえ (上げなさい) 言うて 言よおった (言っていました)。重たい物上げる時ん (に) ボロッコで上げえ言うて。2) 襦袢の事もボロッコ言うわい (言います)。ボロッコばっか (ばかり) やんかあ (だ) こや (此れは) 言うて、破れとたり (て居たり) すると、ボロッコや (だ)。

ほろにがい【形容詞】 微かに残る程度の苦味 ほろ 接頭 名詞 形容詞について 少し なんとなくなどの意を表す。[会話] ぼふ (植物 防風) のねえ (根) でも あく抜かんと (抜かずに) 喰うと ホロニガイ

やんかい (です) なんか、あくの強いもん (物) はあく抜かんと 喰うと ホロニガイのなあ (です)。ホロニガイのおな (のが) 通りこすと 苦いのなあ、ちよいと (少し) 苦いな (のは) ホロニガイ (だ) 言うて。

ほろべる【自バ上一】 亡ぶ 無駄になる ほろびるの訛 [会話] お伊勢さん (伊勢神宮) でも 葺き草を皆 刈りん (に) 行きおったやんかい (ました)、その時ん (に) てえ (手) 切ったりして、ちい (血) 見せたと (てやると) 千日に刈るかや 一日ん (に) ホロベルいうて、千日刈っても いび (指) 切ったり したと (してやると) はざんのおで (いけないの) で。

ほろほろ【副詞】 愚痴を言うさま。憐れさを伴って悲しんでいる。

ぼろぼろ【副詞】 物の傷みが激しいさま。(志 (布施田))

ほろほろゆうとる 愚痴を言って居る

ぼろまけ (負)【名詞】 すっかり負ける事 大敗 (志 (浜島)) [会話] 博打 よけ (沢山) 負けると ボロマケした言うて。よお言うやんかい (よく言います)。博打でも ほおびきでも なんでも 勝負事して よけ (沢山) 負けると ボロマケして言うて。

ぼろもおけ (ぼろまうけ)【名詞】 資本や労力の少ない割りに利益の大きいこと [会話] あんまり (あまり) よけ (沢山) 儲けると、ボロモオケやなあ (だ) ボロモオケしたれ (した) 言うて。

ぼろや(襦袢屋)【名詞】 襦袢を売買する商人 屑屋 (志 (鵜方、神明、立神、甲賀、国府) [会話] ボロヤ、昔や (は) よお (よく) きいおったけど (来て居たが)、今しや (今は) ボロヤ来やせん (来ません)。

ほろりや ほろりや めんどりや おんどりや 蜻蛉釣りの歌 (志) [会話] オンドリヤ メンドリヤ めっぱち 釣瓶に、この ちょおは要らんかなあ、ホロリヤ言うて。

ほろろ【名詞】 鳥類の翼 [会話] 雀な ホロロ 打とる (ているのだ) 言うてなあ。雀な (が) ひなた (日の当る所) で、土浴びてなあ、ホロロ 打とん ね (ている) 言うてなあ、土、浴びな (なければ) はざんねんなあ (いけないのです)、しらめ (虱) やら虫やらおんのおで (居るので)、そんで (それで)、ホロロ打つのなあ (です)、にげ (人間) な (が) 風呂呂入るよおなもんやわい (ものです)。

ほろろうつ 1) 鳥類が楽しく砂浴びなどをする様子

ほろろ、雉や山鳥などが鳴く声を表す、雉などが羽を打つ音 ほろろうつ、雉が羽ばたきをする。(志 (布施田)、熊) 2) 男女が戯れる。[会話] 1) 雀な (が)、鳥でも ホロロうつ言うて 砂 あびんのん (浴びるのに) 羽や足で、羽虫とんのん (取るのに) 砂をほぜくって (掘って) 浴びんのおを (るのを) ホロロうつ。雀や鶏でも、土こねて しとると (して居ると) ホロロウツル言うて 砂 浴びて あんで (あれで) 羽虫な (が) 取れんねてわい (取れるのだそうです)。それ すんのを (するのを) ホロロウツル (ている) 言うやんかい (言います)。2) ホロロうつ言うな (のは) ふたんな (二人が) ころころ ころびや (転び) あるいととんのを (て居るのを) ホロロ打とる (て居る) 言うて、あやれ ふたんなまあ ホロロウチャ (うち) アルイトラレ (て居る) 言うて、今し (今) で言うて 戯れる言う事やなあ (です)。ふたありで (二人で) 戯れとんのを (て居るのを) ホロロウツル言うの (のです)。

ほん【副詞】 本当に 全く 実に (志 (布施田)、一、上、阿、度、伊、北、南) 2) ほんの つい (桑郡、南、熊) [会話] 1) こじよっこり (こじんまり) しとて (していて) ホン かわいらし (可愛らしい)。

ぼん【名詞】 二つ割りの薪 (志 (鵜方、神明、立神、甲賀、国府)) [会話] 松のボン まるくたいのおを (丸いのを) おおよき (大斧) で ボンと割ったのおを (のを) 二つん (に) 割ったのおを ボンや (だ) 言うし。そすと おっきいと (大きいと) 又 も一つ 四つん (に) 割ると、よつや (です)。きい (薪) を 四つん (に) 割ったの (のを) よつや (だ) 言うし、二つん割ったなあ (のは) ボンや (だ) 言うし。丸太 二つん (に) 割ると ボンや (だ) 言うて 四つん (に) 割ったなあ (のは) それも ボンや (だ) 言うけど (けれど) よつや (と) 言う人も有るし (有ります)。二つんでは (二つ割では) おっきいもんで (大きいので) 四つん割るやんない (でしょう) すと (すると) よつや (だ) 言う人も有るし、四つん割っても ボンや (だ) 言う人も有るし。おおよきで ぼんとくらわして (喰、打って) 割るもんで (ので) ボンや (だ) 言う (言うのです)。よけ (多く) 焚く時ん (に) 豆 むしたり かと (鯉) 炊いたり (鯉節を作る時) すんのん (するの) 皆 よつや (とか) ボンで 焚きおったやんかい (焚いて居たで有りませんか)。

ほんえ【感嘆詞】 そうですか 肯定 (志) [会話] ホン

エ、ほんとかい（本当ですか）、ホンエ そげんかい（そんなのですか）言うて、こおこおやでえ（だ）言うて、ホンエ そげんかい 言うて ほんと（本当）かい（ですか）言う人も有るし、ホンエ言う人も有るしなあ（有ります）。ホンエ言う時と ほんええ言うて 引っ張る時と 有るしなあ（有ります）。ほんええ言うのは ほんええ そげんかい（そんなのですか）言う時や（は）しららって（知らなくて）不安なよおな思いしとんねわい（して居るのです）。ホンエ言う時や 判つとて（て居て）そんなんかいなあ（だろわか）思う時ん（に）ホンエ言うし、ほんええ言うて ちよいと（少し）そんなんかい（そうだろうか）、やったんかいなあ（だったのだろうか）おもて（思つて）疑いな（が）有る時んのおを（ののを）ちよいと流すねやろなあ（流すのでしょうか）。その時ん ほんと、うそ言うて 一緒の気持ちで言うとんねけど（言つて居るが）ほんと（本当）ほんといえ（本当ですか）うそ（嘘）言うて よお言う時なあるやんかい（よく、言う時が有ります よく言います）。

ほんええ そおですか 疑問（志）〔会話〕 そおかな（そうですか）言うのを。ホンエエ言うのなあ（です）。人な（が）そおや（そうだ）言うて、ホンエエ言うて、知らんとおつて（知らずに居て）こおや（こうだ）言うて おおた ホンエエ言うてなあ。それは ほんと（本当）ですか、ちよいと（少し）疑い持ったのおな（のが）ホンエエ言うてなあ、ほんとかいなあ（本当だろうか）、嘘かいなあ 思う時ん（に）ホンエエ言うて、ほんえ言う時は ほんとい（本当に）得心したんなし（のです）。

ほんおとつしゃ【感動詞】大変だ 面倒だ うるさい等、嫌な事 〔会話〕 二十五ん日（二十五日）ん（に）なると、掛け取り（借金取り）な（が）廻つて来いおつて（来て居て）断り よお言わんと（言わないと）ホンオトツシャ 何の因果やか（だか）思いおつた（思いました）。

ほんおなご【名詞】盆に女の人の忙しい事を言う語 〔会話〕 ボンオナゴ（女）に せち男言うて、しよんがつ（正月）は男らな（が）年始まいりやなんや言うて するもんで（するので）忙しし（忙しいし）、盆は、しよおろさん招待すんので（するので）盆はおなごら（女）な（が）忙しめ（忙しい目）張りおつたわい（して居ました）。

ほんおなごにせちおとこ【俚諺】盆には女の人が正月には男が忙しいのを表す語

ほんかいどお（ほんかいどう、ほんかいだう）（本街道）

【名詞】古くから有る道。近道、新道に対し冠婚葬祭は必ず本街道を通るしきたり。

ぼんがし【名詞】盆に佛前に供える菓子 米粉などで特別の形にして作る 〔会話〕 盆の菓子、しよおろがし（精霊菓子）言うのなあ（です）、うっすい（薄い）のなあ 米でしたの（のです）せんべ（煎餅）みたよなの（のよなのが）、色々の花ん（に）して有る。昔や（は）あればっか（ばかり）したけど（が）、今しゃ（今は）おしもん（押し菓子）や（です）あれはみやげがしん（土産菓子）や（だ）言うて、持たしたんのん（てやるのに）つつだんね（包んでやるのです）。

ほんがに【名詞】わたりがにの雌

ほんき（本気）【名詞】【形容動詞】正気 まじめな心 真剣に対応する意識 気構え（上、阿）〔会話〕 ホンキかな、する気かな言うて、真剣言う事やなあ（です）。あや（彼は）ホンキで 言うとんねかいなあ（言っているのだろうか）、嘘かいなあ（だろうか）あや（彼は）ホンキやなあ（だ）言うてなあ。

ほんぐもり（本曇）【名詞】空が完全に曇る事。

ぼんくら（盆暗）【名詞】馬鹿な人（志（立神）、上、阿、張、名）

ぼんくれ（盆暮）【名詞】盆と年末。忙しい時期。

ほんけ（本家）【名詞】おおもとになる家筋、一族の中心となる家筋（志、鳥、松、多、上、阿、度、伊、南）〔会話〕 ホンケ言うのを ほんや（本家）言うてなあ、隠居、本屋 閑居言うてなあ、隠居は おとと（弟）な（が）するやんない（するでしょう）、爺さんと 婆さんと、閑居ん（に）おつてなあ、兄貴と おとと（弟）、隠居 ホンケやんない（でしょう）。

ほんけがえり（ほんけがへり）（本卦還）【名詞】数え年六十一才になること 還暦 自分の生れた年と同じ干支になるので言う。（志、員、度）

ほんけかぶ【名詞】本家 〔会話〕 ホンケカブ言うな（のは）、ほんけの長男や（です）。ホンケカブは いりよ（費用）な（が）えろおてなあ（大変で）。

ほんこ【名詞】本当の勝負。遊びに対して、反対、うそこ。

ぼんごぞ（盆莫蔭）【名詞】精霊莫蔭 盆に佛前の供へ物（御膳等）の下に敷く莫蔭 〔会話〕 ほとくさん（佛さん）え、膳（御飯）する時ん（に）下い（へ）うちしきをすると 莫蔭 敷くんやろなあ（敷くのでしょう）それを ボンゴザ。うちしき ええの（よい

のを) 金欄の、しとる (して居る) 家な (が) 有るや
んない (でしょう)、それで そいなのおを (そんな
のを) 汚したるもんで (ので) うちしきの上い (へ)
ボンゴザを。

ほんごち【名詞】 東風 (鳥 (石鏡)) [会話] ホンゴチ
言うのは 東から 吹いて くんのな (来るのが) ホ
ンゴチ。

ほんごち【名詞】 魚 真ごち コチ科の海魚。全長
50cm にも達する体は細長く上下に著しく扁年。頭部
はおおきく尾部は細い体色は背面が褐色の地に灰褐色
の斑点が散在し、腹部は白い、砂地に住む。(伊)

ぼんごと (盆事)【名詞】 新たなる死人 葬式 初盆の
行事 [会話] ボンゴトな (が) よけ (沢山) 有った
りするとなあ、さきや (先は) 闇やれ (だ) 言うやん
かい (言います)。

ほんごろし【名詞】 餡ころ餅の餅米を完全に潰し餅にし
たもの [会話] 真餅の事、ホンゴロシ。ホンゴロシ
ん (に) しょおか、半殺しん (に) しょおか言うて
半殺し言うななあ (のは) やじろ餅みたよん (のよう
に) しとんの (しているのです)。ホンゴロシん
(に) しょおか、半殺しん (に) しょおか言うたや
(言ったら) ホンゴロシん (に) してくれ (下さい)
言うて、半殺しや (だ) 言うと 苦しまんならんよっ
て (苦しまなければいけないから) ホンゴロシん
(に) してくれえ (下さい) 言うて よお (よく) 言
うやんかい (言います)。

ほんさ。ほんさあ【感動詞】 本当に (尾) [会話] ほん
と (本当) やなあ (だ) 言うの、ホンサア言うて。ホ
ンサ、こや (これは) どいらい (大変) ええなあ (よ
い) 言うて。

ほんさかづき【名詞】 結婚式

ほんさく【名詞】 馬鹿者

ほんさつき つい先頃 直前 (阿、張、名)

ほんさば (本鯖)【名詞】 サバ科の海魚、サバの一種、
全長約、四十五糎に達す、背方は青黒色の濃淡による
斑があり、腹方は銀白色、ゴマサバは腹方に小黒点が
有るので区別出来る、和名はゴマサバに対し、本当の
サバの意、日本近海の沖合いに広く分布 食用 (度)

ぼんさん【名詞】 お坊さま おっさん 僧 坊さん (志、
鳥、伊、桑市、三、鈴郡、鈴市、安、津、松、阿、張、
名、度) [会話] ボンサン 蛸やれ (だ) 挽き臼あ
(は) 石やれ (だ) 言うて、ボンサン蛸やれ言うな
(のは) ボンサン 頭な ずべずべ (すべすべ、つる
つる) で、蛸ん (に) よお似とるやんない (よく似て

居るでしょう)。そやよって (それだから) ボンサン
蛸やれ 言うて 挽き臼さ (は) 石ん (に) 決つとる
(て居る)。坊さんの事や (です)、ボンサンな (の)
頭 ずべずべやもんで (なので) おっさん (和尚さ
ま) ら 見るとだ (過去形を表す 強調) あや (あ
れ) 蛸な (が) よけ来たれ (沢山やって来た) 言うや
んかい (言います)。

ほんしえん (ほんせん)【名詞】 本船 大船

ほんじえん (ほんぜん) (本膳)【名詞】 高足の膳を使用
する正式の膳部 本膳の訛 (北) [会話] 昔、菓子
を据えて (入れて) 本膳へ出しおって (出して居て) 菓
子椀を。本膳言わんと (言わずに) ホンジェン言うの
んなあ (です)、ホンジェンつきでまあ、言うてなあ、
あの家や (は) ホンジェンやてわい (だそうだ)、結
婚式ん (に) 言うてなあ 二の膳や三の膳な (が)、
つくねてわい (つくのだそうだ) 言うてなあ。

ほんじこ【名詞】 子供の遊び 小さな貝殻を砂に埋めて
探し出す遊び [会話] いそもん (磯物) の殻を ひ
るて (拾って) 砂のちい (へ) 埋めて、砂で山盛りん
(に) もやげといて (もり上げておいて) まるくたい
(丸い) 石 一つもつて (持って居て) ホンジコ出
て来い、ホンジコ出て来い言うて、ほぜるんやんかい
(掘り出すのです)。ホンジコどっこい ホンジコど
っこい言うて、いそもん (磯物、小さな貝) の殻を、
浜のどて (土堤) 行くと 食うたかすな (が) 皆ほつ
て (放って) 有って それ拾て来て、ふたあつ (二
つ) を ひとわん ふたわん言うて かんじよすんの
なあ (勘定、計算するのです)、二あつで 一わんで
三 (みい) わん 四 (よお) わん言うて、砂のちい
(へ) 埋めて、砂で 山盛りん (に) もやげといて
(盛り上げておいて) それを一つ まるくたい (丸
い) 石 持つとて (持って居て) ホンジコ出て来い
ホンジコ出て来い言うて ほぜるんやんかい、そして
よけ (多く、沢山) 取ったもんな (者が) こんだ (今
度は) 親して取てくんのなあ (取って来るのを)。博
打みたよおなもんやなあ (ものです)。負けると 皆
取られたんねやんかい (取られてしまうのです)。そ
おしといて (そうしておいて) 又、こんだ (今度は)
だしよて (出し合って) 作つといて、ほぜって 勝っ
たもんは わがと (自分) それ 皆 取てくのやんか
い (取って行くのです)。博打と一緒にや (です)。よけ
勝ったもんな (者が) 親して、親する言う事あ ホン
ジコ 出て来い言うてするほおやんかい (側です)。

ほんじゃあ【感動詞】 それでは 別れの挨拶 (志、鳥、

松、伊)

ほんしょ【名詞】 1) 本性 うまれつき 本性の性質
天性 ほんしょうの末尾省略。2) もとの正体 本心
正気 [会話] 1) ホンショ表した言うて 本根を表した
言うて来るやんかいだ (来ます)、ホンショ表して
来たれ まああのひた (人は) 言うて。 こんじょ (根
性) わり (悪るい) 人ななあ (が) おとなあし (おと
なしい) よおん (に) しとておって (していて) 終い
に わり (悪るい) 事すると あやまあ (彼は) ホン
ショ表らわして来たれ言うてなあ、 しよおね (根性)
な (が) わりいて (悪るくて) おって (居て) つにや
(普段は) ええ (よい) ふり (格好) しとんねけど
(しているのだが) 又 そのけえ (気) な (が) 出て
来ると あや (彼は) ホンショ表して来たれ言うてな
あ。

ほんしょ【名詞】 盆と正月

ほんしょうしなう 1) 泥酔する。2) 夢中になる。

ほんすけ【名詞】 阿呆 (志 (神明、甲賀)、鳥)

ほんせん (本船)【名詞】 大きな船 (度) [会話] ホン
センえ移った 言うやんかいなあ (言います)。 おっ
きい (大きい) 船から ちっさい (小さい) 舟え 移
んの (移るのを)、ホンセンから移った言うてなあ、
おっきい (大きい) 船 ホンセン言うてなあ、はしけ
でホンセンえ移った。

ほんぜん (本膳)【名詞】 正式の日本料理の膳立てで二
の膳、三の膳に対して言う、脚の付いた正式の膳
(南) [会話] ホンゼン言うて 高膳 猫足い (へ)
漆の塗ったのおを (のを) 親の椀やとか (だとか) つ
ぼひらやとか 言うて 皆 綺麗なの (のを) して
その高膳へ据えんのなあ (配置するのです)。ひら言
うの (のは) ひらくたいなあ (平たいのです) つぼ言
うな (のは) 煮しめもんもったり (野菜の煮た物よそ
おったり) すんの (するのです)。 そして (そうし
て) おつけもんな (味噌汁盛るのは・入れるのは) お
つけもんで 又違うのな (のが) 有るやんない (有
るでしょう)。 そやよって (だから) つぼ ひら付い
た どいらい (大変な) ごっつおやった (御馳走でし
た) ホンゼン付きで言うて。葬式やどけでも (などで
も) 落雁のかしんな (菓子) 有って 葬式やどきや
(などは) たばね (束) や れんこん (蓮根) や人参
や そいな (そんなのを) するし、祝の時や (は)
鶴亀や 東ねや 日の出や言うて 落雁で 美しの
(のを) して それを ホンゼンへすると 綺麗で
よかりおった (よかった)。 今しや (今は) テーブル

でやうちな (一同が) ひとかたまりや。昔や (は) て
えねん (丁寧) に、座敷へ 猫足して つぼひらの膳
の 綺麗な椀をつけて ほん (本当に) 美しかりおっ
たなあ (美しかったです)。座敷な (が) 見て 綺麗
ん (に) 飾って、よけ出したて (沢山出してやって)。
そして (そうして) 昔や (は) ひとたて喰たると (一
度・一通り食べてやると) 又 替り出し 又 替り出
しして てびき (大皿) を いかわりや 替えやな
(替えなければ) 言うて 座敷い (へ) 棚 組んで
てびきいもって (大皿へよそって) そして ちよいと
(少し) 手つけて 半分ぐらいん (に) なると ひい
て来て (下げて来て) 又 新しの出して そえん
(そんなに) しよおったの (したので)。

ほんそこ すぐ近く (張) [会話] ちよいと (少し) 近
くのとこ (所) をなあ、ホンソコやあわい (です)、
下い (へ) 降りてくと (て行くと) ほんすぐや (だ)
ホンソコの家やわい (です) 言うてなあ 近いとこ
(所) をなあ。

ぼんた【名詞】 間の抜けた事 間の抜けて居る事 又そ
のようなさまや人 ぼんくら (上、阿) [会話] ポン
タ、ぼんたく よ (奴) 言うな (のは) うとお (間抜
け) の事、うっかりしとるもん (して居る者を) ポン
タクよ言うの (のです)。 そこな (そこの) ポンタク
よ言うて うっかりしとると (して居ると) ポンタカ
(ぼんたくは) 言うて ほんとん (本当に) ポンタク
やなあ (だ) 言うて うとんと (うっとり) しとる
にげ (人間) を言うの。 かいがし (かいがいしく) し
とる、にげは言わせんけど (言いませんが)。

ほんだあら。ほんだわら (ほんだわら、ほんだはら)

【名詞】 褐藻類ホンダワラ科の海藻、高さ1～4m、
茎はねじれて三、四稜ありよく分岐する。下葉は長さ
3～5cmのへら形で縁は不規則な鋸歯がある。上葉
は小さく倒披針形、随円形が倒卵形の俵状の気胞を多
くつける。[会話] もお言うのは ホンダアラ。

ほんたい (本体)【名詞】 幹 根元になるもの 正体
本来 [会話] ホンタイ言うのは そのものなあ (で
す)、本物の事を言うのなあ。 かんのんさん (観音
様) でも ホンタイな (が) まつてあんな (あるの
は) 何処どい (ですか) 言うて 堂い (へ) 千手観音
まつて有んの (有るのを) それを言うて、ホンタイ
何処ん (に) まつとんねどい (ているのですか) 言
うやんかい (言います)。もとになるもん (物) おお
もとを、ホンタイ。

ほんたく (本宅)【名詞】 主屋 母屋 [会話] ホンタ

ク言うて、本家の事をなあ、ホンタク。妾宅やなしん
(でなしに) 本家の事 本家様やよってん (だから)
言うてなあ。なんでも (何でも) 代理に本家だけ よ
おどきや (招待しておけば) ええわれ (よろしい) 言
うて、弟や (だ) 閑居や (だ) 言わんとまあ (言わず
に)、本家だけ一軒 よおどこやんかれ (招待してお
きましょう) 言うて。

ぼんたく【名詞】ぼんたに同じ 間抜け [会話] そこ
な (そこの) ポンタクよ言うて、うとんとしとる (し
ている) にげ (人間) を言うの (のです)。ポンタク
ポンタクやなあ (だ) 言うて なんも (なににも) よお
せんもん (出来ない者を) 言うの。

ほんだけ それだけ (鈴市、伊、北)

ぼんだな【盆棚】**【名詞】** 孟蘭盆に庭に作る飾り棚 餓
餓棚 (伊) [会話] 餓鬼棚、盆の外い (へ) すんな
(するのは) 餓鬼棚 ポンダナ言うわい (言います)。
まつって (供養して) くれる人な (が) 無い人らな
(が) うろうろしとるもんでなあ (しているのです)、
餓鬼棚い (へ) 供えと それを食べんねてわいなあ
(食べるのだそうです)、佛さんから下げて来たのお
を (のを) なんもかも (すべて) 一代 (ヒトシロ) お
つ (づつ) 餓鬼の当りや (だ) 言うて 餓鬼棚えなあ。

ほんだら【名詞】海藻 ほんだわら ほんだあら参照

ほんだら それでは (久、伊、鳥、南)

ほんちよいと【形容詞】極く少し 本当に少し (志)
[会話] おおたがいな (大変)、よけ (沢山) くれん
ね (貰れるのだ) 言うたや (言ったら) ホンチョイト
やけどのお (だが) 言うて、よけ もててもなあ (持
って行っても)、言うて 謙遜する訳やなあ (です)、
ホンチョイトやけど (だが) ほん目糞ほどけ (程) や
けどなあ (だが)、まあ、はつもん (初物) やよって
(だから) もて (持って) 来たんやわい (来たので
す) 言うて。

ほんちよおし (ほんてうし)【名詞】本調子 本当の調
子 物事の運びが順調なこと 調子よく進むこと
[会話] ホンチョオシやなあ (だ)、あやまあ (彼は)、
ホンチョオシん (に) なって来たない言うて、仕事す
るのでも、どんづら (下手) ん (に) しとたのお (し
ていたのが) 今しや (今は) 慣れて来たや (ら) ホン
チョオシやない (だ) 言うてなあ、調子な (が) よお
(よく) なって来たのおを (のを)、ホンチョオシや
(だ) 言うてなあ、あのか (子は) あんごしなあ (馬
鹿だ)、おもとた (思っていた) のおな (のが) がい
な (大変) 気な (が) 利いたよおな事すると あやま

あ (彼は)、ホンチョオシん なって来たなあ、言う
て。

ぼんちろ【名詞】ハンセン氏病 [会話] すじめ (血
統) のわり人の事をなあ ポンチロや (だ) 言うて。
ボンチロやどお (だ) あの家や (は) 血統な (が) ポ
ンチロの血統やよってん (だから) 言うて そいな
(そんなのを) きらよおったの (嫌っていました)。
ハンセン氏病のこと ポンチロや がったい病や 言
うてなあ。

ぼんつか ぼんたに同じ ぼんつくはの略訛 [会話]
うっかり しとる (していると) ポンツカ 言うて。

ぼんつく【名詞】間抜け 馬鹿 ぼんたに同じ (阿)

ほんで【接続詞】それで (三、鈴市、亀、安、津、多、
阿、張、名、度、伊、北、南) [会話] それで言うの
を ホンデ言うて。

ほんでも【接続詞】それでも しかし (員、鈴郡、鈴市、
安、津、張、伊) [会話] それでも言うのを ホンデ
モ言う人な (が) おんのなあ (居るのです)。

ほんと【名詞】1) 本当 偽りでなく事実 真実である
こと 実際であるさまホントウ、ホントウの訛 (大言
海) (志、三、鈴市、安、一、伊、北、南、熊) 2)
人の話を聞いた時、疑問を感じ再度聞きなおす時の語
[会話] ② なんやかや (いろいろ) 言うて ホント言
うて、一つごとく 嘘の事でも ホント言うてなあ、
ホントの事言うても うそ (嘘) 言うて。

ほんと。ほんと【副詞】1) 全部 すっかり。2) 気前
よく。

ほんとかい。ほんとかいなあ。ほんとかな 本当ですか
[会話] ほんとやなあ (だ) とか、ホントカイ言うて。

ほんとこ 本当ですか (伊) [会話] こげん (こんな
に) 言うたねよお (言ったのだよう) 言うて、ホント
コ言うて。ホントコ言うのは ほんと (本当) ですか
言うのを ホントコオ言うね (言うのです)。嘘こお、
そや (それは) ホントコオ言うてなあ、ほんとやない
(本当です) 言うたや (言ったら) ほんよ、ほんよ
言うてなあ、知らざった (なかった) 事言うて、ほん
よお言うて びっくりした (驚いた) 時んなあ (に)。
ホントコ言うて、こや (これは)。

ほんとこ【名詞】実際に物をやりとりする勝負 実際の
こと 偽りでないこと [会話] ホントコやどお (だ
ぞ) うそ (嘘の事) やどお言うて。

ほんどこ (本床)【名詞】正しく延べられて居る布団[会
話] ホンドコ言うな (のは) 寝間い (へ) 敷布団も
敷いてなあ、着布団も着て言うな (言うのが) ホンド

コやけどなあ(です)。

ほんととお 本当ですか。ほんとと参照

ほんとに 本当に 必ず きつと 全く(志、桑郡、三、鈴市、安、津、松、多、張、名、度、伊、尾、南)
[会話] 本当に言うのを ホントニ言うの(のです)、
ホントニ 今日は ええ(よい) ひい(日) やなあ
(だ) 言う時な(が) 有るやんかい(有ります)。

ほんとやなあ 本当ですね そうですね(鳥) [会話]
榎、(相榎) 打つ^のななあ(に)、ホントヤナア言うて、
あの人な(が) こいな(こんな) 事や(だ) てわい
(そうです) 言う と ホントヤナア言うて 榎を 打
つ時んなあ。

ほんとやない 1) 本当です。ほんとと参照 2) 嘘だ、
本当ではない

ほんとやに 本当です。本当ですよ。

ほんとん 本当に(鳥) [会話] ホントンエ言うのなあ
(のです)、ほんとに、ほんとかな(本当ですか) 言
うて 普通言うやんない(言うでしょう) それを ホ
ントンエ(本当ですか) 言う^の。(のです) ホントン
あ^のにげや(人間は) 嘘いい(嘘つき) やよって(だ
から) 言うて。ホントンやてやら(だとか) うそや
(嘘だ)、うそお(嘘) 言うて、そして うそお言う
ても 本当言うて。

ほんとんえ 本当にですか [会話] ほんと(本当) で
すか言うのをなあ、ホントンエ言うてなあ、ほんとこ
お言うて。

ほんとんや そうですか。本当ですか。ほんとんえ参照
(志(布施田))

ほんな 1) 捨てるな。2) 放るな。放ってはいけない。
[会話] 1) はしきれも とつとかな(取っておかなけ
れば)、ほったらんととつとけまあ(捨てずにしまっ
ておきなさい)、なあ(縄)の切れ端も、ホンナヨオ
こいなもんも(こんな物も) 取とくと、又 用に立
つぞ言うて。

ほんなおし(ほんなほし)【名詞】 味噌

ほんなぬか。ほんなか【名詞】 人が死んでから七日目
[会話] ホンナヌカ 死んでから なぬか(七日) 一
週間経つと ホンナヌカ。

ほんなら それでは(志(神明、立神、甲賀)、員、鈴
市、鈴郡、松、多、張、伊、尾)

ほんに【副詞】 本当に 実に まことに いかにも(桑
郡、桑市、三、四、鈴市、安、一、阿、張、度、伊、
北、南) [会話] ホンニ、よかったなあ言うて。

ほんにええ 本当ですか 疑問 [会話] さざえわりな

(が) 掛った言うて ホンニエエ。

ほんにし(本西)【名詞】 強い西風(志、度) [会話]
西な(が) 吹いて来るの ホンニシ、真西言うのなあ
(です)、西の風な(が) えろおて(強くて) 言うて
なあ。真西とひとらめ(一人者) 陰な(が) 無い言う
て、ひとらめのもな(者は) 陰も日向も無しん(に)
働かな(なければ) はざん(いけない) もんで(の
で)、真西も 吹きまあして来るもんで(ので) 陰な
(が) 無いね(無いのです)。

ほんにし【名詞】 法螺の一種 [会話] あっかい(赤
い) おっかい(大きい) のは ホンニシで、くうろい
(黒い) 峠(島の上) ん(に) おんななあ(居るの
は) にしこ、ホンニシは美味いけどなあ。

ほんにやがる 放り上がる 潮が干いて島が表れる
[会話] ししくだめ(貝) 潮な(が) 無いとこ(所)
ホンニヤガットテモ(ていても) おる時な(が) ある
わい(有ります)。

ほんにやげられた 放り上げられた [会話] 島の上い
なあ(へ)、波のおっぱで(波頭で) すると 波い
(に) ホンニヤゲラレタヨオ、ほやげられたよ言う
てなあ。

ほんにやげられる 放り上げられる [会話] 夜磯いて、
(行つて) 此処ら言うて 舟 つなんどくと(つない
でおくと)、潮な(が) 干くと ホンニヤゲラレタテ
(てしまつて) 潮な(が) 来る迄きやれんで(来れな
くて) 弱んね(困るのです)。

ほんにやげる 放り上げる [会話] 潮な ひききつて
て(よく干いて) あつそおて(浅くて) 尻 ホンニヤ
ゲテ かずいとる(もぐっている)。

ほんぬし(本主)【名詞】 当人。当事者。[会話] ホン
ノシ言うの(のです)、ホンヌシン(に) 渡しといて
(ておいて) 来たか言うて。ホンノシな(が) おらん
で(居なくて) 女中ん(に) 置いて来た言うたり、そ
いな(そんな) 事なあ、ホンヌシや(で) なけな(な
ければ) はざんわれ(いけない) 言うたりなあ。

ほんね(本音)【名詞】 心の底に思つて居ること 本心
本当の気持

ほんね(本寝)【名詞】 本当に寝ること 床に入つて寝
ること らくね参照 [会話] 居所寝の ホンネな
(が) してみたい言うて、居所寝しとると(していると)
どいらい(大変) 気持な(が) ええもんで(よい
ので) こんなり(このまゝ) 寝とりたい(寝ていた
い) 思うやんない(でしょう)、寝ぶたい(寝むた
い) 時ん(に) うつつしとると(していると)。

ほんの【副詞】 本当の 本当に まったく少しの ちょっとした

ほんのくぼ【名詞】 後頭下部のくぼみ 項 (桑市) [会話] うしろこんぶ (後瘤) の溝や (だ) 言うなあ (言います) ボンノクボを。溝い (に) 出来たら疔やどお (だ)、溝い出来るもな (物は) おとしんどお (怖いのだ) 言うて。おおた、此の溝 押すと 気持な (が) ええんよお (よい) 言うて、頭な (が) わり (悪い) 時なあ。

ほんのざあざあ。ほんのざんざ【名詞】 盆に降る俄雨

ほんのし【名詞】 当の本人。ほんぬし参照 (志 (布施田))

ほんのしるし【形容詞】 少し 量の少ないこと [会話] ホンノシルシだけ言うて ちょおいと (少し) 内祝いする時んなあ (に)、ほん、ちょおいと やけどのお (だが) 言うて、こぼる (配る) 時、そげん (そんなに) 言うやんかいなあ (言うのです)。おれ家 (俺の家) のあんな (あれが) やしなれてたもんで (嫁に行ったので) しるしだけ ちょいと (少し)、こぼらして (配らして) もおとんねわい (貰っているのです) 言うてなあ。内祝いする時んなあ、ホンシルシだけやけどのお (だが) 言うて しなもん (品物) でも もてく (持って行く) 時ん (に)。

ほんのり【副詞】 かすかに わずかにホノの転 (大言海) [会話] ホンノり酔おた (酔った) 言うて、ほべた (頬) な (が) ちょいと (少し) あっこ (赤く) なって来ると ホンノりしたなあ言うて。ちょいと、ちょよっと (少し) 言うのを ホンノりしたなあ (しました) 言うて。

ほんのれえ (盆礼)【名詞】 盆に親の家の佛様を参りに行くこと

ほんばな (盆花) 孟蘭盆に佛に供える花木 桧 [会話] 盆の花 しきび (桧) をボンバナや (だ) 言うてなあ。水向けん (に) 行くのなあ (です)。しきびを一枝あつ (づつ) 持って行くわい (行きます)。つねや (いつもは) つぶつぶでも なんでも (なにでも) ええけどなあ (よいが)、ボンバナ しきび 買わんとおる (ずに居る) 言うて 皆なあ 心配すんね (するので)。

ほんび【名詞】 当日 (志) [会話] ごつつお (御馳走) する 手前のひい (日) に てつたいど (手伝い人) に 樽口あけて ホンビの二日前位に しいおったわい (して居ました)。

ほんぶき (本吹)【名詞】 強い風が長く吹き続く事

[会話] 風な吹いて来ると 大吹き、今日はまあ ホンブキやなあ (だ) 言うて、よけ (沢山) 吹くとなあ、大風や (だ) 言うたりなあ。

ほんぶき【名詞】 蒔 [会話] ホンブキと山蒔と言うてなあ、ほんと (本当) の蒔や (は) 店ん (に) 売っとるし (ています) 土手ん (に) 生えとんな (ているのは) 山蒔。

ほんぶし (本節)【名詞】 鯉の背肉で作った鯉節。

ポンプめがね【名詞】 海女が潜水時に用いた眼鏡 レンズの周りに空気を入れる枠がついて居る。[会話] ポンプメガネや言うて 四角な がんがん (金属) ののおえ (のへ) ふくろますもん (物) な (が) 付いとて (ていて) 眼鏡へふくろますもん しばって (くくって)、トタンで四角なのおな (のが) じょおふちに (両端に) 付いとて その中へ ふくろますもんを入れてあんの (あるのです)。

ほんぶり (本降)【名詞】 本格的な雨の降りかた なかなか止みそうにない強い雨の降り方 [会話] 雨な (が) だんだん (激しく) 降って来ると ホンブリ。今日は小雨やなあ (だ) 言うたり、しょぼしょぼ雨やなあ (だ) 言うたり、ひげ雨やなあ 言うたり、よけ (沢山) 降る時や (は) どしゃ降りやなあ (だ) 言うしなあ。

ほんぶるまい【名詞】 初盆の家が盆に手伝って貰った人に二十日盆過ぎてからする御礼の招待 [会話] 初盆の家な (が) 後でなあ、世話ん (に) なった人らよんだ (招待したり) すんのなあ (するのを) ポンブルマイ。初盆の家ななあ (が) 二十日盆に ポンブルマイ言うて 素麺して みんなん (皆に) くわしおった (食べさせて居ました)。その世話ん (に) なった人ん (に) 今しや (今は) 素麺言うても、珍らしいやんない (でしよう)、そやもんでなあ (それで)、料理屋で 膳 取ってするけどなあ (けれども)。

ほんぶん (本分)【名詞】 その人が本来、つくさなければならぬつとめ [会話] ホンブンやれまあ (だ) 言うやんかい (言います)、ぞんぶやれ (だ) ホンブンやれ 当り前やれ 言う事やわいなあ (です)、お前のホンブンやわい (だ) 言うてなあ。

ほんぼら【名詞】 法螺 [会話] ひげぼら ホンボラ つのぼら とびきぼら

ほんぼら【名詞】 穴 頭の傷 洞 木の洞 (志 (甲賀、布施田、片田、神明、志島) [会話] ホンボラ、穴の事 きい (木) でも 何でも 穴な (が) あいとると (て居ると) ホンボラなあ (です)。ホンボラ あけ

た。頭 やられとでも (傷しても) ポンボラな (が)、あいた言うしなあ (言います)。

ぽんぽん【名詞】 1) 腹を言う幼児語 (志 (布施田)、鈴市、上、阿、張、名、尾) 2) 裸を言う幼児語 (張) [会話] 1) ポンポン 腹 ポンポンな (が) 痛い言うて、腹 ポンポン言うてなあ、2) ポンポンにしたろかあ (してやろうか) 言うて、裸にしたんの (してやるのを)、スッポンポンにしたんの、すもとや (相撲取りは) スッポンポンで風邪引かん言うて、スッポンポンや (です)。

ぽんぽん。ぽんぽんせん【名詞】 小形のエンジンをつけた和船 (志 (立神、甲賀)、尾) [会話] 和船のちよいと (少し) おっきい (大きい) のおへ (のへ) 機械な (が) すててあつて (設置してあつて) ポンポンや (だ) 言うて ポンポンセンや (です)。

ぽんぽんぶね【名詞】 機械舟 推力に発動機を使用する舟 (志) [会話] 機械舟言うな ポンポンブネ。昔や (は) 漕ぎ舟で 機械せらったけど (しなかったが) 今しや (今は) 発動機や (だ) なんや言うて 機械据えとんね (ているのです)。

ぽんぽんゆい【名詞】 思った事を包みかくさず言う人 人の事を考えずに物を言う人 [会話] あや (彼は) ポンポンユイやなあ (だ) 言うて、現金 (あからさまに) になあ なんでも (なにでも) 隠さんと (隠さずに) 言うにげ (人間) をなあ、ポンポンユイやなあ (だ) 言うて。てえさい (体裁) 作らんとなあ (ず) に おもとる (思っている) 事、ぽんとよお (よく) 言うにげやなあ (人間は)、あや (彼は) げんきんゆい で なつとでも (なんとでも) よお (よく) 言うね よつて (言うのだから)、人らまあ こげん (こんなに) 言うたら 差支えるとか あんな (彼の) 気嫌損こなわな (なければ) ええな (よいのに) おもて (思つて) きい (気) つこて (使つて) しとるやんない (しているでしょう)、そすと ぽんぽん言うにげや (人間は) そいな (そんな) 事 考えとらんと (て居なくて) ぽんと言うの (のです) はっきりとなあ、はっきりと言う事を ポンポンユイ言うね (言うのです)。

ぽんぽんゆう 遠慮せずにはっきりものを言う

ほんま【名詞】【形容詞】 本当に 真実 (志 (片田 浜島)、鳥、鈴市、津、安、一、松、多、上、阿、張、名、伊、北、尾、南、熊) [会話] ほんとんと 一緒の事やわい (です)。ホンマの事かい (ですか) 言うて、此処らの人ら (は) ホンマ言わへんけど (言いま

せん) ほんとやなあ (本当ですね) とか ほんとかい (ですか) 言うて。

ほんまあ【感動詞】 本当に 実に まことに

ほんまぐろ【名詞】 鮪 黒鮪 (鈴市) [会話] ホンマグロ やよつて (だから) こやまあ (これは) じょおざかな (上等の魚) やれ (だ) 言うて。

ほんまに 1) 本当に 真に 実に まことに (志 桑市、四、鈴市、安、一、松、阿、張、名、度、北、尾、南、熊) 2) きつと 必ず (志 (御座))

ほんみかん (本蜜柑)【名詞】 温州蜜柑 (三重県全域) [会話] 紀州蜜柑。今しや (今は) ホンミカン出て来やせん (来ません)、ほんと (本当) の蜜柑、ちんびんにすんの (るのを) 蜜柑のかあ (皮) きぞだのおは (刻んだのは) ちんびん言うの、今しや (今は) そのちんびんにすんのな (するのが) 出て来やせんやんかい (来ないでないですか)。

ほんみち (本道)【名詞】 表通り 大きな道 旧道 (桑市、鈴市、亀、安、伊) [会話] ホンミチ、昔の道を言うんやろなあ (言うのでしょうか)。ホンミチ通つて来いよお (来なさい) 言うて 昔からの道な (が) 本街道で、今 出来た 新なとこは (所は) 抜け道 ホンミチな (が) せぼおて (狭くて) わりいて (も) (悪くても) 抜け道な (が) ひろおて (広くて) よおても (よくても)、ホンミチは昔からの道で 結婚式とか葬式とか言うてなあ、その時は ホンミチ通らな (なければ) はざんね (いけないのです)、さんぐ (参宮) しいん (しに) いたり (行つたり) する時 んなあ (に)、抜け道 通らんと (通らずに) 本街道とおんね (通るのです)。

ほんむろ【名詞】 むろ鯨の一種。あかむろの一種

ほんもん【名詞】 本物 本当のもの [会話] 八丈 ホンモンは どいらい (大変) ねえ (値) な (が) ええんやんかい (よいのです)。

ほんや (本屋)【名詞】 1) 母屋 2) 分家に対する本家 (志 (浜島、布施田、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥、桑郡、四、鈴市、安、松、多、度、伊、尾、南、熊) [会話] 2) 隠居 ホンヤ閑居、ほんけの事を ホンヤ、ほんけ ほんもとや (だ) 言うて。兄貴の事も ホンヤ言うて。

ほんや 本当ですか。肯定。ほんえ参照 (志 (布施田))

ほんやく (本厄)【名詞】 前厄、後厄に対して厄年の事を言う

ほんやすみ (盆休)【名詞】 盂蘭盆の時、仕事や営業を

しないで休むこと

ぼんやり【名詞】 気の利かぬ事、又その人。(鳥(答志))

ほんよ。ほんよお 本当ですか そうですか [会話]
ほんとやない (本当です) 言うたや (言ったら)、ホンヨ言うてなあ、ホンヨオ言うてなあ、知らざった
(なかった) 事言うと、ホンヨオ言うて 知らざった
時んなあ (に)。